

文部科学省指定事業

令和3年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」

【地域魅力化型】

〈ソピアの旗プロジェクト〉

研究開発実施報告書（第2年次）



令和4年3月

高知県立大方高等学校



## I 巻頭言 「ソピアの旗プロジェクト」実施報告書の発刊にあたって

高知県立大方高等学校長 正木 敏政

令和2年度から、文部科学省が主催する「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の指定を受け、研究開発を行ってきました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、4月の休校から始まり、手探り状態でのスタートとなりましたが、計画の見直しやオンラインの活用により何とか終わることができました。その経験を生かして、令和3年度はより深化した内容に掘り下げ、未来を切り開くための必要な資質・能力を身に付けるとともに、地域への課題意識や貢献意識をもち、地域ならではの新しい価値を創造し、新たな時代を地域とともに歩んでいけるような人材の育成に努めてまいりました。

本年度の取組については、運営指導委員会やコンソーシアム委員会において、学校設定科目である「地域学」や「総合的な探究の時間」の取組状況を報告し、具体的な実施内容の深化であったり、その後の方向性に対する助言や協力の要請であったりと、委員の皆様とともに作り上げていくことができました。また、カリキュラム開発等専門家から、適宜、担当者からの課題に対してのアドバイスをいただき、ときには、担当者全員に対しての指導助言もいただきながら、生徒へのアプローチの仕方やファシリテーターとしてどのような対応をしたらよいかなど、具体的な示唆をいただき、各教科との関連も踏まえながら実践に取り組んできました。

生徒一人一人が、様々な角度から課題を見つけ、自分事として思考力を向上させ、実践する力を付けるとともに、課題解決に向けた多様な価値観をもったり、実現に向けて行動したりとすこしずつではあるが、着実に成長していると感じています。

本校は、南海トラフ巨大地震への対応という課題を有する黒潮町の現実を理解し、高校生に何ができるかを考えることを通して、地元への理解や魅力の発見、課題発見や解決に向き合わせています。学校行事としての防災デーの実施や地域の方との備蓄倉庫の確認、地域の津波避難タワーの清掃活動、高知県版高校生津波サミット、保・小・中・高校合同避難訓練など、地域ならではの活動を実施しています。そして、令和3年度「ぼうさい甲子園」では高校生部門の奨励賞を受賞しました。

小さな町ですが、町内唯一の県立学校として、地域が一体となって支援してくださっています。それに応えられる学校であり、地域とともに歩んでいく学校として、郷土を思い、郷土の魅力を発信できる人材育成に努めていきたいと思っています。

最後になりますが、本研究に関して、多くの皆様方、地域の皆様方からの忌憚のないご意見・ご助言・ご指導をいただくことで、今後の教育活動のさらなる発展・充実を目指し、未来を担う生徒の育成に努めてまいります。

令和4年3月吉日

# 目 次

I	巻頭言	
II	令和3年度 研究開発の概要	1
1	地域との協働による高等学校教育改革推進事業研究開発の概要	1
2	研究開発の実施体制	3
3	「ソピアの旗プロジェクト」の全体イメージ	4
III	令和3年度 研究開発実施状況	5
1	ソピアの旗プロジェクトの推進体制	5
2	運営指導委員会とコンソーシアム委員会	5
(1)	運営指導委員会	5
(2)	コンソーシアム委員会	8
IV	令和3年度 研究開発完了報告書	13
V	探究活動の柱となる科目のカリキュラムと再構築に向けた取組	23
1	「地域学」における各学年の取組	23
(1)	「地域学入門」(1年生)の取組について	23
(2)	「地域学Ⅰ」(2年生)の取組について	26
(3)	「地域学Ⅱ」(3年生)の取組について	29
2	「総合的な探究の時間」における各学年の取組	32
(1)	「総合的な探究の時間」 1年生の取組について	32
(2)	「総合的な探究の時間」 2年生の取組について	40
(3)	「総合的な探究の時間」 3年生の取組について	49
3	アンケート結果と分析	56
(1)	高校魅力化評価システム	56
(2)	防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート	56
(3)	大方高校の地域貢献活動に関する地域住民アンケート	57
VI	次年度に向けて	58
	補足資料	59



## II 令和3年度 研究開発の概要

### 1 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	こうちけんりつおおがたこうとうがっこう					
令和2～最大3年間	①学校名	高知県立大方高等学校				②所在都道府県	高知県
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	1学年80名定員。教職員数27名 (令和3年4月7日現在)	
普通科	35	28	30		93		
⑥研究開発構想名	「地域密着型の未来の“地域の創り手”人材の育成（ソピアの旗）プロジェクト」						
⑦研究開発の概要	<p>本校はこれまで、総合的な探究の時間において「自律創造型地域課題解決学習」を柱として位置づけ、コミュニティ・スクールの強みを生かした取組を進めてきた。近年は学校設定科目である地域学において地域防災における課題解決に取り組んでいる。生徒たちは、地域に出て地域から学ぶことにより課題解決能力が身に付いており、探究力の向上や地域貢献等への意欲も向上している。</p> <p>今後は本事業をとおしてつきたい力を育成するとともに、直接・間接に関わらず郷土を愛し誇りをもった未来の「地域の創り手」となる人材の育成を目指す。そのため外部の専門家との連携をもとに、新学習指導要領で位置づけられている探究活動を推進し、効果的なカリキュラムの開発を行い、事業終了後も改善を進めながら効果的な取組を継続していく。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>学校設定科目における「地域学」で推進している町や地域と連携した「防災教育」と、「総合的な探究の時間」における「自律創造型地域課題解決学習」を本研究をとおして深化させ、「生徒の探究力」「つながる力」「多様性受容力」「マネジメント力」「レジリエンス」の向上を図る。そのために、コンソーシアム等に町内の各分野の人材と町外の有識者を位置づけ、地域との連携・協働を含めたカリキュラム開発を行う。これらの取組をとおして、広い視野と高い志をもった人材を育成することに資するとともに、将来の地域課題の解決に力を発揮することができ、地域の新たな魅力を創造・発信できる人材の育成を目指す。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校が立地する黒潮町は、南海トラフ地震の際の想定において、最大津波高が34mになると推定されており、防災の推進は地域の存続において不可欠の課題である。また、高齢化と若年人口の減少の状況にあり町内への定着・労働人口の確保、町外からの支援人材を育成する必要がある。これらの課題に対して、将来黒潮町や周辺地域において居住し、地域を支える人材となる高校生の資質・能力の育成は大きな課題である。これまでも高校生の若い力と多様な角度からの発想にもとづき、解決策を提案していくことを進めてきたが、更なる効果を生み出すためには、コンソーシアムを核とした幅広い人材との連携のもとで、取組を深化させていく必要があると考える。</p> <p>ア 町内外の人材との出会いと交流の機会の創出による自己効力感や自己有用感の育成</p> <p>課題：高知県の西部地域という立地条件のため中央部から離れており、高等教育機関との関わりや県内外の取組への参加も限られているため、生徒の視野は狭いものになりがちである。また、本校に在籍する生徒の中には、自信のなさや存在意義を見出せない生徒もいる。そのため、キャリア意識やアイデンティティの確立が十分ではなく、内向的な傾向にある。</p> <p>仮説：学校外の人材を積極的に活用し生徒と出会わせることにより、外からの刺激を生徒に与えることで多様な価値観を持たせることができ、自身の価値を感じるこ</p>					

		<p>とができると考える。また、学校外の場で生徒が発表したり、交流したりする経験を重ねるポートフォリオにもとづく肯定的なフィードバックにより、自己有用感や自己効力感を育むことができる。</p> <p>イ 開校当初からのコミュニティ・スクールの強みを生かした、地域連携による生徒の地域理解と貢献への意欲の醸成</p> <p>課題：コミュニティ・スクールでありながら、多くの教育活動が学校だけで完結している感があり、地域の企業との連携も個々の事業所の課題解決で終わり、その後につながっていないという閉塞感が存在する。そのため、生徒が地域の将来像を描きにくく、町の未来を考えた発言や自身のキャリアイメージに関連づけた発言も聞かれないという状況である。</p> <p>仮説：地域との交流や各種発表の場に積極的に参加するなど、取組を地域内外に広げていくことをとおして、生徒が地域の将来イメージを持ち郷土愛を育むことができる。また、地域や外部人材と連携した取組をとおして、個々の資質・能力の伸長を図ることができ、直接・間接に関わらず、地域の活性化や新しい価値の創造などに貢献できる人材を育成することにつながるができる。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧-2 具体的内容</p>		<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>学校設定科目である「地域学」の時間を核として、地域防災・減災をテーマとした高校と地域との連携を進め協働関係を構築する。併せて、1年次から3年次までを、系統的につなぎ取り組んだ内容は地域内外に発信する。また教育課程外の活動では、高知大学との連携により、地域理解をもとにした防災ツアー等を企画し、生徒がガイドを務めることで発信力やプレゼンテーション能力等の向上を図る。</p> <p>総合的な探究の時間における「自律創造型地域課題解決学習」をもとに、アントレプレナーシップの精神の育成を目指して、町内の起業家が事例である「ケーススタディ」を展開する。また、多様な視点や自己のアイデンティティの意識化、イノベティブ思考を育成するために「アイデアソン」に取り組み、3年間の学びをとおして、これからの社会を生きていくために必要と思われる力の育成に努める。</p> <p>「地域学」や総合的な探究の時間において、各教科・科目の中での横断的な学びによる展開や、地域資源の活用・ゲストティーチャーによる指導等、外部人材を効果的に活用して、生徒の学びの促進を図る。</p> <p>これらの取組を推進するために、校外学習としてインターンシップや他校交流、研究者らとの交流等を行う。また、黒潮町役場への訪問や事業所・小中学校との交流、地域の行事への参加等を行い、広く学びの促進に資する。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>外部人材として雇用する「カリキュラム開発等専門家」と密に連携し、校長をはじめとした校内組織においてカリキュラム開発を推進する。その際、事業統括主任（加配希望ポスト）と管理職や外部人材との連携、事業統括主任の研究の推進、校務分掌や教科横断的な取組の展開により、カリキュラム開発を推進する。</p> <p>作成したカリキュラムについては、取組をとおして振り返りシート、ポートフォリオ、ループリック等を活用し、生徒の成長を確認する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等                      特例となる教育課程                      必要なし</p>
<p>⑨その他特記事項</p>		<p>○平成23年 文部科学省「学校運営協議会」による地域連携の推進に関する表彰 受賞</p> <p>○平成31年 内閣府主催防災教育チャレンジプラン審査委員会「防災教育優秀賞」受賞</p> <p>○平成30年8月1・2日 平成30年度「第1回全国高等学校小規模校サミット」参加</p> <p>○令和元年7月30・31日 令和元年度「第2回全国高等学校小規模校サミット」参加</p> <p>○令和元年9月10・11日 「世界津波の日」高校生サミット2019 in 北海道 参加</p> <p>○令和2年度当初に、黒潮町と推進協定を結ぶ。</p>

## 2 研究開発の実施体制

### ア コンソーシアムの構成

機関名	機関の代表者氏名
高知県教育委員会	伊藤 博明（教育長）
高知大学次世代地域創造センター	川村 晶子（客員准教授）
合同会社 Noks Labo	山崎 直子（代表）
京都大学大学院矢守研究室	杉山 高志（研究員）
黒潮町観光ネットワーク	森田 俊彦（会長）
黒潮町産業推進室	濱口 無双（産業推進係主任）
黒潮町教育委員会	橋田 麻紀（教育次長）
黒潮町立佐賀中学校	宮崎 宏治（校長）
黒潮町立大方中学校	大塚 明人（校長）
高知県立大方高等学校	西村 優美（地域学校協働活動推進員）
高知県立大方高等学校PTA	松岡 亘幸（会長）
高知県立大方高等学校同窓会	村越 麗（同窓代表）
高知県立大方高等学校	正木 敏政（校長）

### イ カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習実施支援員の体制

区分	氏名	所属
カリキュラム開発等専門家	杉山 高志	京都大学大学院矢守研究室 研究員
カリキュラム開発等専門家	川村 晶子	高知大学次世代地域創造センター客員准教授
地域協働学習実施支援員	松田 真紀	大方高校地域学校協働活動推進員
地域協働学習実施支援員	西村 優美	大方高校地域学校協働活動推進員

### ウ 運営指導委員会の体制

所属	役職	氏名
黒潮町教育委員会	教育長	畦地 和也
NPO 砂浜美術館	理事長	村上健太郎
京都大学 人と防災未来センター	教授 上級研究員	矢守 克也
高知大学地域協働学部	准教授	石筒 覚
地域・教育魅力化プラットフォーム		田中 理恵
高知県教育委員会	教育長	伊藤 博明

### 3 「ソピアの旗プロジェクト」の全体イメージ

本研究では、「地域に定住」・「一度は地域外に出るがまた地域に戻って」・「地域外に出て戻ってはこないが、外から応援」する人材の育成を目指し、目的を未来の「地域の創り手」人材の育成として、地域の課題である「防災教育の推進」による「犠牲者0」の実現、地域の「新たな価値の創造」に向けた探究活動を展開する。そして、探究活動をとおして郷土愛を育むとともに、「探究力」「つながる力」「多様性受容力」「マネジメント力」「レジリエンス」の育成を目標として展開する。

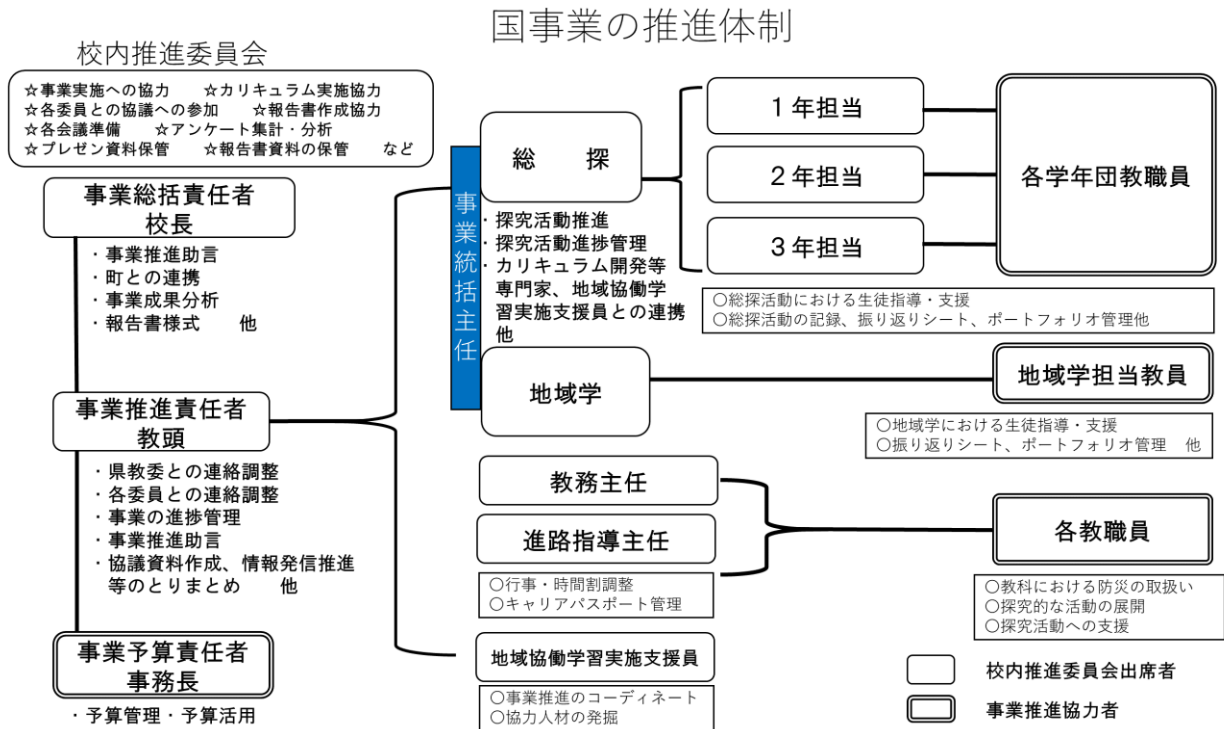
本研究における中核は学校設定科目である「地域学」と「総合的な探究の時間」（以下：総合的な探究の時間）である。



### Ⅲ 令和3年度 研究開発実施状況

#### 1 ソピアの旗プロジェクトの推進体制

本プロジェクトを推進するにあたり、「地域学」と「総合的な探究の時間」の担当教員を中心に、学校全体での取組となるよう、下記のような校内推進体制を整えた。



本年度はオンラインを活用し、カリキュラム開発等専門家との協議を密に行い、カリキュラムの開発と展開を行った。カリキュラム開発等専門家との協議のもと、事業統括主任、「地域学」主担当、「総合的な探究の時間」各学年担当による事業担当者会を基本的に週1回行い、カリキュラムの展開についての協議を行った。

また、事業担当者と事業推進責任者との協議も基本的に週1回開催し、カリキュラムの展開や進捗状況の確認、課題の共有・解決等の協議を行った。

校内推進委員会に関しては、地域協働学習実施支援員およびカリキュラム開発等専門家の同席が新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり難しかったが、個別の協議等で共有し助言をいただいた。

#### 2 運営指導委員会とコンソーシアム委員会

##### (1) 運営指導委員会

運営指導委員会は下記のメンバーで構成し、年2回開催して協議を行った。

〈委員〉

石筒 覚 委員      田中理恵 委員      村上健太郎 委員      矢守克也 委員  
 畦地和也 委員

〈学校〉

正木敏政 校長      上原 健 教頭      田頭克文 主幹教諭

浦田友香 教諭      石丸滉貴 教諭      武市裕樹 教諭      北川紫陽 教諭  
北村清土 教諭      土居美都里 教諭      松田真紀 地域協働学習実施支援員  
西村優美 地域協働学習実施支援員

〈管理組織〉

野田健一 高等学校振興課長      市原則和 チーフ      中越啓介 指導主事

第1回運営指導委員会は以下の次第で令和3年6月21日に行った。

- 開会行事
- 会長・副会長選出
- 令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業の実施計画についての説明および協議
- 閉会

前半は、県教育委員会から本事業の概要説明を行うとともに、学校側から本年度の計画や評価方法、ここまでの進捗状況等についての説明を行った。後半は、今後の取組に関して助言をいただいた。以下、各員の発言の概要を示す。

「地域学」に対して

- 地域と学校が連携するというプログラムの本当に大事なところを取り組んでいる。高等学校が行う地域連携のプロジェクトとして、単に学ぶというところから一歩も二歩も踏み出し、地域住民とともに命を守ることに向けて実践している。地域住民からもありがたいという声をたくさん聞く。地域の人を実際に動かすことにより、学ぶというこの手ごたえを生徒に感じとってもらおうという指導は素晴らしいと思う。
- 未来へのメモワールプロジェクトをどのような形ですすめていくか定まっていな中、「写真」で残すアイデアはとても素晴らしいと思う。

「総合的な探究の時間」に対して

- OODA ループ(※)は必ずしもOからスタートするわけではない。Dからスタートしても良い。行動から学ぶことも大切である。  
※OODA ループとは「観察(Observe)」「仮説構築(Orient)」「意思決定(Decide)」「実行(Act)」の4つからなる意思決定方法である。
- ループリック評価について、生徒が理解できるような言葉への言い換えが必要ではないか。ループリックの提示段階から言葉をかみ砕くのか、一般型を提示してその都度具体化していくのかは検討する必要がある。
- ループリック評価は活動の度によって変わってくるので、一度3の評価となっても次に2や1にならないわけではない。繰り返しの指導が必要である。
- 情報収集の予測・憶測はとても大事である。「なぜそうなのか」をたどることが大事である。根拠が薄い方が大事である。生徒それぞれの主観的な考え方をくみ取ることが大事で、それを一緒に考えることにより教員と生徒との間での協働作業となり探究が深化する。教員も習っていない学問なので、生徒と教員もフラットな関係で、答えをもっていない問いに対してみんなで情報収集することが大切である。
- 買い物は物欲を満たすだけではない。便利な未来は素晴らしいことになるが、人間に

とって本当の幸せにつながっているかについてを探究のテーマとして取り組むと奥深い探究につながると思う。

- 3年生の取組は、役場の人にも関わってもらうべきである。課題が何かを意識できるという点ではかなり良い教材である。高校生の視点で役場へ提案ができるようになれば良く、そこに明確な根拠づけを求めるのではなく、簡単な理由付けがあれば良い。行政側の立場や考えを共有できる機会を途中で交えたほうが良い。

「ルーブリック評価」に対して

- 双葉未来学園のルーブリック評価は分かりやすい。
- ルーブリック評価が生きるのは、生徒が就活などで自己分析をしだすようになってからである。そのため、1・2年生の段階ではあまり効果が出てこないかもしれないが、3年生になって進路を考えるときの材料になってくると思う。

まとめ

- PDCA は目に見えるものに重きを置いてループを回すように思え、OODA は心情や願いなどの目に見えないものに重きを置いているように思える。どちらが良いというわけではなく、ケースによって使い分けることが大切ではと思う。これからは「教える」ではなく「導く」が大切になってくる。教員も一緒になって探究をするということが子生徒たちのやる気に火を付けることにつながると思う。
- それぞれの地域の特性・生徒の持ち味を生かした学習のスタイルがあると思う。OODA の思考や経験学習のポイントは実体験をもとにうまく生かせるので、継続していくと生徒の伸びが見えると思う。役場や大学も活用して探究活動を推進していただきたい。

第2回運営指導委員会は以下の次第で令和4年2月7日に行った。

- 開会行事
- 今年度の取組報告と次年度以降の取組についての報告と協議
- 閉会

第2回は、学校側から「地域学」と「総合的な探究の時間」について、それぞれ本年度の取組と次年度の取組の方向性についてまとめて説明した。その後協議を行い、今後の取組に関して助言をいただいた。以下、各員の発言の概要を示す。

「地域学」に対して

- 先日津波警報が出たとき、実際に生徒はどう動いたか。実際の災害が起きたときに授業での学びが行動に現れる。学びを授業だけで終わらせず、実際に行動できる生徒になってもらいたい。
- 振り返り場面の工夫をすることが大切。生徒同士がお互いの活動をフィードバックでき、学びの言語化ができれば良いと思う。
- 課題意識をもつ場面は一人一人違う。授業の中で解決策は見つけれなくて良い。どの場面においても、本人が課題を捉えることが大事である。

「総合的な探究の時間」に対して



- 振り返り＝ダメ出しの印象を持っている生徒がいることは、振り返りの本来の意図が伝わっていないことになる。振り返りを大事にされていることはとても良いことであるので、生徒に振り返りの意図をしっかりと伝えるべきである。自分自身で振り返りできるようになるのが理想である。
- 否定・肯定のことを考えると 2 年次の「－を＋に変える」につながりがあってよい。
- 中学校の学びやパーソナルは毎年異なる。高校入学時の 1 学期の様子を見て、フレキシブルな対応が必要。
- 当初の計画を柔軟に変えることが大切。
- 「(マイナス) × (マイナス) = (プラス) になる」
- 幸せ、働くこと、働き方、多様であり、人それぞれ異なる。話を聞く相手によって質問を変えるなど、上手に相手の意見を引き出せるようにならなければいけない。
- 前半にやったことが後半に結びくように、適度に振り返りをしていくと良い。アイデアを自由に出しやすい雰囲気づくりを大切にしたい。楽しさを伝える工夫が必要である。
- プレゼンをさせずに会話を繰り返すことで内容を深めるといった授業もある。授業の中で山場の作り方を意識することと、山場を越えた後の設定には工夫が必要である。
- 幸せの定義は非常に重要である。突き詰めることで一人一人の課題意識が出てくる。自分事になっていなければ、授業外の活動が生きてこない。授業内外の活動を楽しくさせるためには自分事として課題を捉える必要がある。
- 地元の事業者と関わった際、そのあとの報告をし、関係を密にすることが大事である。
- 探究では、実社会で役に立つ力を育てようとしている。教科で学んだことが実社会で生きようとする工夫が必要である。

## (2) コンソーシアム委員会

コンソーシアム委員会は下記のメンバーで構成し、年 3 回開催して協議を行った。

### 〈委員〉

川村晶子 委員	山崎直子 委員	杉山高志 委員	森田俊彦 委員
濱口無双 委員	橋田麻紀 委員	宮崎宏治 委員	大塚明人 委員
西村優美 委員	松岡巨幸 委員	村越 麗 委員	正木敏政 委員

### 〈学校〉

上原 健 教頭	田頭克文 主幹教諭	浦田友香 教諭	石丸滉貴 教諭
武市裕樹 教諭	北川紫陽 教諭	北村清土 教諭	土居美都里 教諭
松田真紀 地域協働学習実施支援員			

### 〈管理組織〉

野田健一 高等学校振興課長	市原則和 チーフ	中越啓介 指導主事
---------------	----------	-----------

第 1 回コンソーシアム委員会は以下の次第で令和 3 年 7 月 20 日に行った。

- 開会行事
- 会長・副会長選出
- 令和 3 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業の実施計画についての

## 説明および協議

### ○ 閉会

第1回は、学校側から本年度の計画や評価方法、ここまでの進捗状況等についての説明を行った。また、第1回運営指導委員会における協議の内容を踏まえ、取組を充実させるために必要なことについて協議を行った。学校からは「PBLを行うにあたってのインプット材料」、「SDGsに関わる企業や人材」に関して、情報提供を求め、それぞれ、情報をもらい、その情報を活用した学びについても意見や助言をいただいた。以下、各員の発言の概要を示す。

#### 「地域学」に対して

- 生徒の興味、新聞の時事的な問題から課題を見つけて取り組んでいる。
- 未来のメモアールの取組に中学校も参加したい。
- 避難路の掃除等、生徒の自発的な取組を地域と結び付けることが良い。
- 避難訓練の内容や避難訓練に参加するまでの過程も生徒と行政と一緒に検討していくことも考えられる。
- 防災は人ありき。防災はことではなく、人ありきで進んでいくことが多いので、事柄の学習だけでなく、人にフォーカスをあてた活動を入れてみてはどうか。具体的にはOB・OG等に訪問をしていただいて、近いロールモデルを出しつつ考えるという点を強化してみても良い。より深い学習にするためにいかにして普段の学習から防災的要素を入れていくかが重要。

#### 「総合的な探究の時間」に対して

- 生徒から課題・意見が出てきて、それが政策に採用されていくと行政と連携して実施できるのではないかと。単発で終わらず、継続的に取り組むことが重要である。
- 「目指すべき姿」、「現状がどこなのか」このギャップが課題であり、ギャップを生徒たちが考えることが重要である。
- 人口減少について、観光だけでなく移住までが目標であり、その点について生徒たちと交換していきたい。
- ギャップを探りたいと生徒が言っていたが、移住者へのアンケートではそことリンクしている。生徒自身が気づいていたところが良い。それを全体の学びにつなげていけるようにしてほしい。
- 昨年度の発表と先日の発表とを見比べて、課題の再設定が必要だと生徒自身が気づいている。生徒の探究に対する取り組み方が変わる時期である。探究にハッと気づく機会にもなる。
- SDGs 学習について、土佐佐賀産直組合の作っている商品は持続可能なものも多い。やっていることが実は SDGs というのは多いのではないかと。例えば砂浜美術館も維持費0円なので持続可能な取組といえると思う。
- SDGs をどう教育するかが重要である。2030年の開発目標、何を達成するのか、達成目標を掲げて行うことが企業に課せられている。持続可能な開発目標なので、間違えないように生徒たち自身に調べさせる。社会にとっても、企業にとっても、社員にとっても持続できるやり方を探究すべきである。起業は投資もしながら回収もする。ボランティア活動とSDGsの考え方は違うことも理解させてほしい。

- PBL のインプット材料について、黒潮町の元々の伝統の仕事に密着すれば、子どもたちの知らないことを深めれるのではないか。にら農家、らっきょう農家、漁師等題材がある。外だけでなく、中にも視野を広げる必要がある。
- 教員のシナリオどおりの総合の美しい発表をする生徒は、本当に自分で考えたのかと思われる。このような発表をする生徒は離職率も高い。仕事の上でも、考え抜く、学び続けるという点で苦労していくのが探究学習と共通する点である。
- 総合的な探究の時間は、社会の実践としての時間である。私たちも子どもたちも変化をしなければいけない。
- ルーブリック評価は自分のパフォーマンスを評価するものであり、自らの成長を自覚する。社会は仕事の量ではなく質で給料をもらうような時代に変化し、自分でパフォーマンス評価をしていかないと、給料の交渉もできない。美しい発表はいらぬ。生徒の成長が感じられる探究の時間になってほしい。
- 役場の方、協力してくれている方に生徒の発表のダメなところはダメと言って欲しい。社会では通用しないとはっきりと伝えてほしい。

第2回コンソーシアム委員会は以下の次第で令和3年10月28日に行った。

- 開会行事
- 令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業の実施計画についての説明および協議
- 閉会

前半は、学校よりここまでの取組・成果・課題についてと今後の取組についての説明を行い、委員の方よりそれに対しての意見や助言をいただいた。後半は、コンソーシアムと学校の連携についての協議を行った。以下、各員の発言の概要を示す。

「地域学」に対して

- 防災作文で行ったような生徒間での回し読みは、メモワールでもやれないか。
- 昨年と違って教員側の手応えを感じる。子どもにも変容が見られるのではないか。
- 大方高校が実践している防災教育のプログラムと役場が期待しているものにズレがあるように感じる。
- 中学生が防災学習をキャリアに結び付けて考えており、大方高校への入学を希望する生徒が増えてきている。継続した学習ができればと考えている。

「総合的な探究の時間」に対して

- ケーススタディを実施するにあたって、教員が構造化に臨み、生徒にプレゼンをするなど大方高校の教員の探究学習推進に対する意欲が素晴らしい。
- 1年生は着実に力をつけている。
- 実際の仕事で活用できることを授業で実践してくれている。
- 生徒たちに学習の目的が理解されていないのではないか。
- データを分析し、課題をあらゆる角度で考えていく力をつけなければならない。
- フードロスについては、黒潮町も今後取り組んでいく課題であるので、連携できると

ころは連携していきたい。

- フードロスを考えるとき、システムだけではなくエモーショナルなところやリーダーシップの取り方についてなどを大切にしてほしい。

第3回コンソーシアム委員会は以下の次第で令和4年2月14日に行った。

- 開会行事
- 令和3年度の実施状況および令和4年度の計画についておよび協議
- 閉会

「地域学」、「総合的な探究の時間」の各学年について、令和3年度の取組・成果・課題についての説明と、次年度以降の取組についての説明を行い、意見や助言をいただいた。あわせて、コンソーシアムと学校の連携についての意見もいただいた。以下、各員の発言の概要を示す。

「地域学」に対して

- 逃げトレ訓練について、コロナの状況によって地域の人を巻き込んで実施できない場合は、条件を変えて複数回の逃げトレを生徒だけで行うのはどうか。あえて失敗するような体験をさせるのもいい経験になる。速度を落として歩いてみる。準備時間を増やすなどを取り入れてみると幅が広がる。
- 臨時情報からのシナリオがあらゆる立場で思考できていた。論理的思考力、想像力を働かすことができているのではないか。高校生たちがシナリオにアニメーションやBGMをつけてビデオを作成しているので、授業の中で活用していただきたい。
- 広場のCMは黒潮町のYOUTUBEや研究室での活用も検討してほしい。
- 同窓生として関わられるようなことを考えていた。卒業生からの話などできるのではないか、卒業生と在校生の橋渡し役ができればと思う。
- 被災者の方の斡旋をぜひやらせてください。
- 3年生の持続可能な避難所生活を考えるテーマは良い。ゼロカーボンというキーワードを加えて、(防災)×(ゼロカーボン)を考えていくといい視点で探究できると思う。
- 地域学の授業であるが公共の授業にも活用できるのではないか。

「総合的な探究の時間」に対して

- 先生方が授業に対して前向きに取り組んでいる。先生方の中に手ごたえを感じていると強く感じた。生徒たちにも波及している。相手がどういうことを考えているか、ロジカルに設計していく。客観的なデータを分かりやすく見せようとするところが授業内の時間で成長していた。
- インプットを丁寧にするほうがいいのではないか。子どもたちの思考の中で改善するとなるとダメ出しから入ってしまう可能性がある。プラスを見続けることに意識させては、マイナスをフルモデルチェンジしようとするとは全く違う方向に行ってしまう。マイナーチェンジでもいいのでは。「今できることは何だろうか」、「今ここはいいよね」、「足りていないものは何だろうか」という思考の仕方が必要。プラスを見続けることはどうしたことなのか、論理的に説明したうえでスタートしたほうがいいのではと思う。
- アイデアが個々に違って表現できていた。アイデアのなかに色々な幸せがあって興味深かった。アイデアの中に防災の視点が自然と入っているのが大方高校の生徒らしさを感じた。

- コンペティションに応募してみると良いのではないか。そこを目指して取り組んでいくのもおもしろいのではないか。
- 黒潮町役場は学校にも近いので、情報収集で役場を活用してもらえればと思う。フードロスについて、黒潮町役場に提案も頂けると関わりができていけるのではないか。
- きれいな形で発表しようとする大人が仕上げてしまうため「こんな風にしたらいい、情報収集⇒まとめ⇒討議⇒発表」と陥らないようにした先生方の姿勢が子どもたちに伝わっていることが大事である。
- この学習で何を学ぶのかを生徒自身が自覚することが重要である。大方高校はその芽が出てきたと感じている。
- 総合的な探究の時間の考え方だけを変えるのではなくて各教科全体的に変えるという行動が生まれてきた。
- 探究的に学習にすることとはどういうことなのか。もとになる部分、考え方を共有していく必要がある。学んできたことをシェアしていただき相互に成長していきたい。

### Ⅲ 令和3年度 研究開発完了報告書

令和4年3月31日

#### 研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号  
管理機関名 高知県教育委員会  
代表者名 伊藤 博明

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

#### 記

##### 1 事業の実施期間

令和2年5月25日（契約締結日）～令和4年3月31日

##### 2 指定校名・類型

学校名 高知県立大方高等学校  
学校長名 正木 敏政  
類型 地域魅力化型

##### 3 研究開発名

「地域密着型の未来の“地域の創り手”人材の育成（ソピアの旗）プロジェクト」

##### 4 研究開発概要

本校はこれまで、総合的な探究の時間において「自律創造型地域課題解決学習」を柱として位置づけ、コミュニティ・スクールの強みを生かした取組を進めてきた。近年は学校設定科目である地域学において地域防災における課題解決に取り組んでいる。生徒たちは、地域に出て地域から学ぶことにより課題解決能力が身に付いており、探究力の向上や地域貢献等への意欲も向上している。

今後は本事業を通してつけた力「探究力」「つながる力」「多様性受容力」「マネジメント力」「レジリエンス」を育成するとともに、直接・間接に関わらず郷土を愛し誇りをもった未来の「地域の創り手」となる人材の育成を目指す。そのため外部の専門家との連携を基に、新学習指導要領で位置づけられている探究活動を推進し、効果的なカリキュラムの開発を行い、事業終了後も改善を進めながら効果的な取組を継続していく。

##### 5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目  開設している      ・  開設していない
- ・教育課程の特例の活用  活用している      ・  活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
伊藤 博明	高知県教育委員会 教育長	管理機関の職員
畦地 和也	黒潮町教育委員会 教育長	関係行政機関の職員
村上 健太郎	NPO 砂浜美術館 理事長	学識経験者
矢守 克也	京都大学 教授 人と防災未来センター 上級研究員	学識経験者
石筒 覚	高知大学地域協働学部 准教授	学識経験者
田中 理恵	地域・教育魅力化プラットフォーム	学識経験者

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
高知県教育委員会	伊藤 博明（教育長）
高知大学次世代地域創造センター	川村 晶子（客員准教授）
合同会社 Noks Labo	山崎 直子（代表）
京都大学大学院矢守研究室	杉山 高志（研究員）
黒潮町観光ネットワーク	森田 俊彦（会長）
黒潮町産業推進室	濱口 無双（産業推進係主任）
黒潮町教育委員会	橋田 麻紀（教育次長）
黒潮町立佐賀中学校	宮崎 宏治（校長）
黒潮町立大方中学校	大塚 明人（校長）
高知県立大方高等学校	西村 優美（地域学校協働活動推進員）
高知県立大方高等学校PTA	松岡 亘幸（会長）
高知県立大方高等学校同窓会	村越 麗（同窓代表）
高知県立大方高等学校	正木 敏政（校長）

8 カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	杉山 高志	京都大学大学院矢守研究室・研究員	都度依頼し 謝金支払い
カリキュラム開発等専門家	川村 晶子	高知大学次世代地域創造センター・客員准教授	都度依頼し 謝金支払い
地域協働学習実施支援員	松田 真紀	大方高校地域学校協働活動推進員	都度依頼し 謝金支払い
地域協働学習実施支援員	西村 優美	大方高校地域学校協働活動推進員	都度依頼し 謝金支払い

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間（ 契約日 ～令和4年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
各種会議等における日程調整や情報提供	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
円滑な事業執行のための学校への助言	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
国費に上乗せした独自の支援や取組の実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
地域協働学習実施支援員の配置	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	



(2) 実績の説明

①運営指導委員会について

活動日程	活動内容
令和3年6月21日	第1回運営指導委員会 ア 令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業の取組についての説明。 イ アに対しての意見や助言をいただいた。 ウ 「OODAループの回し方やPDCAとのケースによっての使い分け等」、「ループリック評価」について協議が行われ、指導・助言をいただいた。
令和4年2月7日	第2回運営指導委員会 ア 令和3年度の取組・成果・課題についての説明と、次年度以降の取組についての説明。 イ アに対しての意見や助言をいただいた。振り返りの重要性や、探究活動が実社会で役に立つ力につながり学んだことが生きるように工夫すること等の指導・助言をいただいた。

②コンソーシアムについて

活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年7月20日	第1回コンソーシアム委員会 ア 令和3年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の取組について、令和3年度第1回運営指導委員会でもいただいた指導・助言を生かした事業計画等の報告。 イ アに対しての意見や助言、協働できることの提案をいただいた。 ウ 学校から「PBLを行うにあたってのインプット材料」、「SDGsに関わる企業や人材」に関して、情報提供を求め、それぞれ、情報をもらい、その情報を活用した学びについても意見や助言をいただいた。
令和3年10月28日	第2回コンソーシアム委員会 ア ここまでの取組・成果・課題についての説明と、今後の取組についての説明。 イ アに対しての意見や助言をいただいた。 ウ コンソーシアムと学校の連携についての協議。
令和3年11月27日	日本赤十字社との連携 同窓生で日本赤十字に勤務しているコンソーシアム委員の仲介で高知県青少年赤十字高校生連合会総会に参加。参加した生徒と防災活動に関して交流を行った。
令和3年4月30日、7月1日、8月23日、8月6日、10月11日、1月13日、令和4年3月8日	ふるさとキャリア教育 黒潮町まるごと教育祭 教育祭の発表やコロナ禍での実施方法等についての協議を実施。保育所、小学校、中学校などの関係機関と6回の協議を重ねた。昨年に引き続き、コロナ禍により集合しての発表は難しく、黒潮町のケーブルテレビで配信した。
令和4年2月14日	第3回コンソーシアム委員会 ア 令和3年度の取組・成果・課題についての説明と、次年度以降の取組についての説明。 イ アに対しての意見や助言をいただいた。 ウ コンソーシアムと学校の連携についての協議

③カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けは以下のとおりである。

【総合的な探究の時間のカリキュラム開発担当】

高知大学 次世代地域創造センター客員准教授の川村晶子氏（都度謝金支払い）

・本年度は6回来校。オンラインでの協議18回。大学での協議2回。

【地域学のカリキュラム開発担当】

京都大学矢守研究室研究員の杉山高志氏（都度謝金支払い）

・本年度はコロナ禍により来校できず。オンラインでの協議17回。

活動実績【総合的な探究の時間】

活動日程	活動内容
令和3年5月14日	オンライン ・カリキュラムの内容について
令和3年5月28日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年6月1日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年6月8日	オンライン ・取組状況の共有と課題解決に向けた意見交換
令和3年6月29日	オンライン ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和3年7月5日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年7月13日	オンライン ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和3年8月3日	高知大学次世代地域創造センターで協議 ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和3年8月24日	オンライン ・次年度の方向性と探究活動について協議
令和3年9月10日	オンライン ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和3年9月21日	対面 ・3年生発表会の講評等
令和3年9月29日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年10月8日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年10月14日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年10月27日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年11月12日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年12月3日	高知大学次世代地域創造センターで協議 ・進捗状況の共有と意見交換
令和3年12月7日	対面 ・3年生と対話による意見交換および助言
令和3年12月21日	対面 ・3年生のプレゼンテーションへの助言
令和3年12月22日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和4年1月4日	対面 ・進捗状況の共有と意見交換
令和4年1月11日	オンライン ・3年生発表会の講評等
令和4年1月14日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和4年1月21日	オンライン ・進捗状況の共有と意見交換
令和4年1月25日	対面 ・1年生ワールドカフェの評価等
令和4年2月15日	対面 ・2年生発表会の評価等

活動実績【地域学】

活動日程	活動内容
令和3年4月8日	オンライン ・地域学のカリキュラムの全体像について ・未来へのメモワールについて ・教科横断的防災学習について
令和3年4月16日	オンライン ・地域学のカリキュラムの全体像について ・未来へのメモワールについて
令和3年6月10日	オンライン ・防災委員会の取組について ・活動を効果的に進めるための意見交換
令和3年6月15日	オンライン ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和3年6月29日	オンライン ・防災委員会の取組について ・活動を効果的に進めるための意見交換
令和3年7月6日	オンライン ・JICA との交流についての打ち合わせ
令和3年7月13日	オンライン ・JICA との交流についての打ち合わせ
令和3年7月30日	オンライン ・大方・佐賀中学校への出前授業について ・出前授業に関する振り返りと共有
令和3年8月20日	オンライン ・JICA との交流についての打ち合わせ ・教科横断的防災学習について
令和3年9月10日	オンライン ・黒潮町地区防災計画シンポジウム（発表）の協議
令和3年9月29日	オンライン ・大方・佐賀中学校への出前授業について ・出前授業に関する振り返りと共有
令和3年10月12日	オンライン ・臨時情報について
令和3年11月25日	オンライン ・進捗状況の報告と今後の方向性に向けた協議
令和3年12月6日	オンライン ・入野小学校への出前授業について ・入野小学校への出前授業に関する振り返りと共有
令和3年12月14日	オンライン ・臨時情報について
令和3年12月21日	オンライン ・臨時情報について
令和4年2月28日	オンライン ・次年度の取組について

上記の活動の他に、電子メール等によりカリキュラムの内容や評価、展開上の留意点等についてやり取りを行った。

④地域協働学習実施支援員について

指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けは以下のとおりである。

大方高校地域学校協働活動推進員 松田真紀氏（都度謝金払い） 18 回来校

大方高校地域学校協働活動推進員 西村優美氏（都度謝金払い） 12 回来校

活動実績

日程	内容
令和3年4月9日	地域連携についての協議（松田）
令和3年4月13日	地域連携関係者 訪問・協議（松田）
令和3年4月20日	地域連携関係者 訪問・協議（松田）
令和3年4月27日	地域連携関係者 訪問・協議（松田）
令和3年5月11日	地域連携についての協議（松田）
令和3年5月18日	地域連携についての協議（松田）
令和3年5月21日	地域連携についての協議（西村）
令和3年5月25日	総合的な探究の時間についての協議（松田・西村）
令和3年6月1日	総合的な探究の時間についての協議（松田）
令和3年6月15日	総合的な探究の時間についての協議（西村）
令和3年6月21日	運営指導委員会（松田・西村） 地域協働学習実施支援員として出席
令和3年6月22日	総合的な探究の時間についての協議（松田）
令和3年7月13日	総合的な探究の時間 3年生 PBL 中間発表会（松田・西村）
令和3年7月20日	コンソーシアム委員会（松田・西村） 地域協働学習実施支援員として出席
令和3年9月21日	総合的な探究の時間 3年生 PBL 発表会（松田・西村）
令和3年12月2日	地域連携関係者 訪問・協議（松田）
令和3年12月3日	地域連携関係者 訪問・協議（松田）
令和3年12月7日	総合的な探究の時間 3年生アイデア磨き（西村）
令和4年1月11日	総合的な探究の時間 3年生アイデア発表会（松田・西村）
令和4年2月1日	総合的な探究の時間 2年生アイデア磨き（松田・西村）
令和4年2月7日	運営指導委員会（西村） 地域協働学習実施支援員として出席
令和4年2月14日	コンソーシアム委員会（松田・西村） 地域協働学習実施支援員として出席

⑤管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・各種会議等における日程調整や情報提供
- ・円滑な事業執行のための学校への助言
- ・国費に上乗せした独自の支援や取組の実施
- ・地域協働学習実施支援員の配置
- ・高知県青少年赤十字高校生連合会総会との連携（コンソーシアム）
- ・発表会や研究会での評価者としての参加および評価者人材紹介（コンソーシアム）
- ・地域学の防災学習における助言（コンソーシアム）

⑥高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

令和2年5月25日に、「黒潮町と高知県立大方高等学校における防災・地域課題解決を担う未来の地域の創り手人材の育成に係る協定書」を締結した。

⑦事業終了後の自走を見据えた取組について

事業終了後も取組を継続させていくため、防災と地域課題解決に関する取組に対して継続した支援をもらえるよう、黒潮町と協定を締結している。

併せて、黒潮町の人口減少の中、大方高校の魅力化促進に向け黒潮町と継続協議を行うこととしている。

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域学（地域学入門）探究学習	4回	7回	7回	5回	1回	5回	6回	7回	6回	6回	8回	
地域学（地域学Ⅰ）探究学習	6回	6回	8回	4回	2回	6回	6回	6回	6回	6回	6回	
地域学（地域学Ⅱ）探究学習	10回	14回	14回	8回	2回	12回	12回	16回	10回	8回		
総合的な探究の時間（1年）	3回	2回	6回	2回	1回	3回	2回	3回	5回	3回	4回	
総合的な探究の時間（2年）	3回	3回	4回	3回	1回	4回	3回	3回	3回	5回	6回	
総合的な探究の時間（3年）	3回	3回	8回	2回	1回	3回	2回	3回	3回	2回		
課外活動における地域との協働活動				1回		1回	2回		4回	2回	2回	

### (2) 実績の説明

#### ① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

本事業の中核となっている学校設定科目である地域学と総合的な探究の時間において、探究活動を位置づけた年間の活動イメージを、カリキュラム開発等専門家の助言をもとに作成した。その際、「情報収集力」、「情報分析力」、「情報編集力」、「判断・決定力」、「論理的思考力」、「表現力」、「批判的思考力」等の課題発見・解決に必要な力を、学年ごとに身に付ける目標を定め活動を決定した。

生徒には、年度当初に年間計画、ルーブリック評価、卒業までに目指す生徒像等を提示し、年間の見通しと身に付けさせたい力の共有を図り事業を進めた。進めるにあたっては、生徒の状況に応じてその都度手法を変更するなど柔軟に対応しながら展開した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、計画していた取組が実施できないこともあったが、実施時期や時間数等を調整しながら、また、オンラインを活用するなどして学びの場が失われないよう、できることを進めていった。

#### ② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置づけ（各教科・科目や総合的な探究の時間、学校設定教科・科目等）

本年度は、学校設定科目である地域学、総合的な探究の時間、学校行事等で横断的な学習を計画した。

#### ③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

本年度は、各教科においての防災の観点を取り入れた探究的な授業展開について、カリキュラム開発等専門家である杉山氏を講師にオンラインにて研修会を開催した。また、学校行事においてもテーマと関連させた取組を行った。

#### ④ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

研究開発のイメージを示したビジュアル資料をもとに職員間で共有を行い、下記の育てたい5つの力を育成するために、「総合的な探究の時間」の学年担当者、「地域学」担当で基本的に毎週協議を行い、学年団で共有を図った。

##### 【育てたい5つの力】

I 探究力	情報収集による課題理解・解決に向けた課題解決力
II つながる力	コミュニケーション・プレゼンテーション力、思いや願いの理解
III 多様性受容力	多様な人との交流や理解
IV マネジメント力	計画を立て取り組める力
V レジリエンス	厳しい状況の改善に向けた意識と実践

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

総合的な探究の時間の担当者や地域学の担当者、防災教育プロジェクトチームや生徒会担当教員などが連携しながら取組を推進している。地域との連携は本事業の事業統括主任である地域学担当教員や、防災教育プロジェクトチームの責任者である教頭を中心として外部との連絡調整を行い、各学年担当他に取組を進めるという形で推進した。

⑥カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

カリキュラム開発等専門家

- ・カリキュラム開発全般に関わる計画への指導助言
- ・発表会等における評価者としての関わりと教員との振り返り
- ・コンソーシアム委員会への出席・指導・助言

地域協働学習実施支援員

- ・地域人材との連携や活用に向けての連絡・調整
- ・運営指導委員会、コンソーシアム委員会、校内推進委員会における指導・助言
- ・授業を参加し、生徒の状態を見たとえでの教員との振り返り

⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

カリキュラム開発等専門家との協議をもとに、担当者間の協議を基本的に毎週実施し進捗状況の確認や課題の洗い出し・改善方法の検討等を行った。特に、カリキュラム開発等専門家との協議は、オンライン会議システムを用いることにより多く実施することができ、きめ細やかな対応ができた。また、成果検証のアンケート結果等を管理職と分析し、取組状況と成果と課題等についての検討を行った。

⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

京都大学矢守研究室研究員の杉山氏には本校防災委員会の取組や避難訓練時の防災活動について意見や助言をいただいた。また、黒潮町情報防災課とつないでいただき、防災活動に関して地域と連携した取組を行うことができた。

大方高校地域学校協働活動推進委員の西村氏には、アーティスト in レジデンスという活動を行っている地元出身の写真家とつないでいただき、地域に芸術を取り込んだ活動の中で、生徒と一緒に「未来へのメモワール」を地域住民に取材していく活動をご提案いただいた。新型コロナウイルス感染症拡大のためオンラインで交流をした。来校して一緒に活動することはできておらず、次年度に検討していくことになっている。

山崎氏には、1年生のディベート大会では評価者として参加いただき、生徒の振り返りの時間にはコーチングの知識を生かしてファシリテーターをしていただいた。

高知大学次世代地域創造センター客員准教授の川村 氏には、カリキュラム開発等専門家としての指導・助言のほか、プレゼンテーション練習や発表会の際に講評者として指導・助言をいただき、生徒にも直接関わっていただいた。

地域学校協働活動推進委員の西村 氏は、授業や発表会において生徒と関わりをもっていたいただき指導・助言をいただいた。そのほか、オンラインによる外部人材との交流等における人材の紹介を多数の方にしていただいた。

⑨運営指導委員会等、取組に対する指導・助言等に関する専門家からの支援について

運営指導委員の方から、運営指導委員会において、本事業に対しての指導や助言をいただいた。特に、「OODAループの回し方やPDCAとのケースによっての使い分け」、「ループリック評価」、「振り返りの活用」、「探究活動の重要性」等については専門的な見地から指導・助言をいただいた。

#### ⑩類型毎の趣旨に応じた取組について

「防災」をキーワードとした探究活動を展開することにより、地域の「防災」や魅力化に向けた課題解決を進め、未来の「地域の創り手」人材の育成を目指した取組を展開してきた。生徒の自己評価や外部評価において、肯定的な評価をもらうことができた。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域の方々などを集めての発表会はできなかったが、校内での発表会をオンライン配信し、運営指導委員会やコンソーシアムの委員に発表を見てもらい、助言等をいただくことができた。

#### ⑪成果の普及方法・実績について

地域学・総合的な探究の時間に関する取組をホームページで紹介した。また、発表会をオンライン配信し、運営指導委員会やコンソーシアム委員会の委員が視聴できるようにした。3年生の探究活動の発表は、本事業を受けている学校にも案内をしてオンライン配信した。

毎月発行している「ソピアの旗だより」においても、生徒の活動の様子等を、県西部地域の中学校3年生とその保護者、黒潮町民に対して紹介した。

### 1.1 目標の進捗状況、成果、評価

#### (1) 事業実施において設定した目標におけるアウトカム目標の達成状況

実施したアンケートの結果分析から、現時点では全ての学年において目標を達成できているとは言えない状況であるが、今後の取組を通して達成に向けた期待は十分あると考えている。アンケートでは昨年より下がった項目もあるが、生徒の聞き取りからは、学んだからこそ自分ができていないことに気づき、評価を下げたという声も聞かれ、今後に向けての意欲を感じた場面もあった。

高知県教育委員会が独自に実施する「高知県オリジナルアンケート」（別添資料）については、全体的に見ると肯定的な回答が多く見られたが、目標として設定（目標設定シート）している「地域への貢献等の活動を通して、自己効力感や自己有用感をもつことができた」、「地域の課題解決に取り組むことにより、自身の将来の夢や目標をもつことにつながった」と回答する生徒の割合は、目標値を大きく下回る結果となった。コロナ禍ではあるが、オンラインによる交流等も多数行い、昨年より交流できている。しかし、対面での活動やボランティア活動等が制限されたことは目標値を大きく下回る結果の大きな原因の一つであると考えられる。

「物事に取り組む際には、目標を立てその達成に向けて努力することができる」と回答している生徒の割合は70%であり、昨年の80%より下がる結果となった。生徒の様子では、探究活動を通して見通しを立て、それに向けて最後まで取り組むことができるようになってきているが実感できていない生徒もおり、今後振り返り等でできたことを確認させていきたい。

地元（本校の設定は県内）への定着率については、約75%の生徒が地元での進学・就職が決まっており、県内就職者は89%となっている。

「高校魅力化評価システム」では、学年別に振り返ると、1年生は「複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ」の割合が74.2%と、他の学年と比較してもかなり高い水準である。これは、ディベートや論ずる活動などの答えのない問いに複数回挑戦させたこと、プランニングや構造化といった技法も回数を重ね習得させたことの成果と思われる。一方、「相手の意見を丁寧に聞くことができる」の割合が83.9%と、他の学年と比較してもかなり低い水準である。ディスカッション等でも、自身の考えを相手に伝えることに夢中になっており、建設的にコミュニケーションをとることができていない場面もあり、相手のことを考えられるようにさせていきたい。全体として、答えのない問いにあきらめず考え抜く力（探究の基礎）は1年間で一定醸成された。次年度も多角的に物事を捉え探究活動を行っていくとともに、ディスカッションする力や受容する力を身に付けさせていきたい。

2年生は、粘り強さの項目が高く、中でも、「うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む」が高かった。答えのない課題に対して1年間取り組んできたことが結果につながったと考えられる。一方、表現力の項目が(55.4%)と他学年と比較しても低い。答えのない活動に取り組ん

できたが、答えがないからこそ自分の出した答えに自信をもてず、その結果それを表現することに苦手意識をもっていった可能性がある。次年度は、正解のない活動であることを生徒に何度も周知していき、ダメ出しをされてもよりよい答えに何度もチャレンジする雰囲気づくりを学年団でしっかり行っていきたい。

3年生は、社会性に関わる自己認識が全体的に向上しており、特に「社会参画意識」が上昇している。これは、総合の活動で、社会が抱えている課題解決学習に取り組ませたことで自己肯定感とともに社会人としての意識も芽生えたのではないかと考える。一方、課題設定力の「現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる」が昨年度と比べ減少している。また他学年と比べても低い水準である。これは、総合で実施した課題発見学習において、課題設定に関するルーブリック評価を基に指導者の評価と自分自身の評価を定期的に付けさせていたことで、自分基準ではなく、客観的に自分を捉える機会が増えたことが要因だと推察する。今年度の活動で課題発見の難しさを自覚したと述べる生徒も多数いたので、良い意味で実力を客観的に捉え始められたのではないかと思う。

アンケート結果では、指導者の認識と生徒の認識にずれがある項目も多く見られる。そのため、フィードバックを丁寧に行える時間を設ける必要があり、指導者の評価と指導の一体化を着実に実践し、生徒の成長・変容を捉え、適切にコーチングする力を養う必要を感じる。次年度のカリキュラム作成にあたって、分析結果を教員間で共有し、効果的なカリキュラム設計を図っていきたい。

実施したアンケートは以下のようになっている。

	項目 アンケート	実施主体	対象	実施時期	実施形態
1	高校魅力化評価システム	三菱UFJリサーチ&コンサルティング	生徒・地域住民等	令和3年11月	選択
2	防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート	大方高校	生徒	令和3年9月、 令和4年1月	選択・記述
3	高知県オリジナルアンケート	高知県教育委員会事務局 高等学校課	県立高等学校の生徒	令和3年4月・11月、 令和4年2月	選択

## (2) 発表会や各種会議の開催・参加

地域学においては出前授業を行うとともに、ふるさとキャリア教育における発表も地元ケーブルテレビで配信をした。また、総合的な探究の時間では、様々な活動を運営指導委員会やコンソーシアムの委員の皆様、オンライン配信により視聴していただき感想等をもらうとともに、地域協働学習実施支援員やカリキュラム開発等専門家の方に参加（オンライン含む）いただき、生徒への講評をしてもらった。

教職員が参加した会議等には以下のものがある。

時期	テーマ他	参加者数	実施主体
4月	校内研修会 ・テーマ「これからの総合的な探究の時間の考え方」 高知大学次世代地域創造センター川村晶子准教授 ・テーマ「コーチング」 NOKs labo 山崎直子	20名	大方高校
12月	オンラインイベント 高校探究プロジェクト 瞳輝く学びの実装化 ～生徒のため、教師のため、未来のため～	4名	東京学芸大学
1月	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業全国サミット」	7名	文部科学省



### (3) 地域でのフィールドワーク等や連携した活動の実施

フィールドワークやインタビューを実施するのが難しい状況ではあったが、少人数対応やオンライン会議システムの活用、感染状況が比較的落ち着いた時期に以下のことを実施した。

時期	テーマ	内容
4月	新しい避難場所の整備	住民との避難路検証で新しく設定された、避難場所にベンチを設置し、桜の木を植樹
10月	出前授業	大方中学校、佐賀中学校2年生との交流授業。「未来へのメモワール」「オリジナルHUG」を中心とした授業を実施
10月	町内のお店を知る	「黒潮町のみんなが幸せになる買い物」を考えるにあたって、現状の買い物を知る、お店の人の声を聞くために町内14か所のお店にインタビューを実施
11月	津波避難タワーを清掃しよう	地区内の津波避難タワーが、高齢化の影響もあり長年清掃活動ができない状態にあることを聞いた生徒たちが、清掃活動にチャレンジ
11月	活動の発表	黒潮町地区防災計画シンポジウムで、地域学の活動を中心とした本校防災活動を発表
12月	ディベート	「日本の教育政策として、制服を廃止すべきである」というテーマでディベートを開催
1月	出前授業	入野小学校5年生との交流授業。「未来へのメモワール」を中心とした授業を実施
1月	ワールドカフェ	13名の社会人と、「未来の仕事について考える」をテーマに、オンラインでディスカッションを行った。
1月	高齢者との避難訓練	町内の芝地区の高齢者の散歩コースである入野の浜から、巨大地震発生の想定のもと、発生から5分後に3方向に分かれて避難開始。逃げトレアプリを活用して避難場所までの経路確認と安全確認の訓練の実施
2月	アイデア磨き アイデア発表会	「黒潮町みんなが幸せになる買い物」のアイデアを外部の方に発表し、アドバイス・ご意見をいただき、それらを基にアイデアを練り直し、発表会を実施

### 1.2 次年度以降の課題及び改善点

昨年度の課題であったルーブリック評価を本校の「目指す生徒像」にそって作成し、本年度当初に教員間で共有した。生徒にもオリエンテーションで示し、各単元においても示した。昨年よりは目指す姿、付けるべき力のイメージができたと思うが、まだまだそのメリットを生かし切れていない。

探究学習を「自分ゴト化」できず、主体的に学習に向かえない生徒に対する指導・支援方法が課題となっている。コーチングなどの教員研修も必要となってくるが、まずは学年団内で困り感や進捗状況の共有ができる環境づくりが必要である。定期的な共有会を週に1回開催する方向で調整している。

## V 探究活動の柱となる科目のカリキュラムと再構築に向けた取組

### 1 「地域学」における各学年の取組

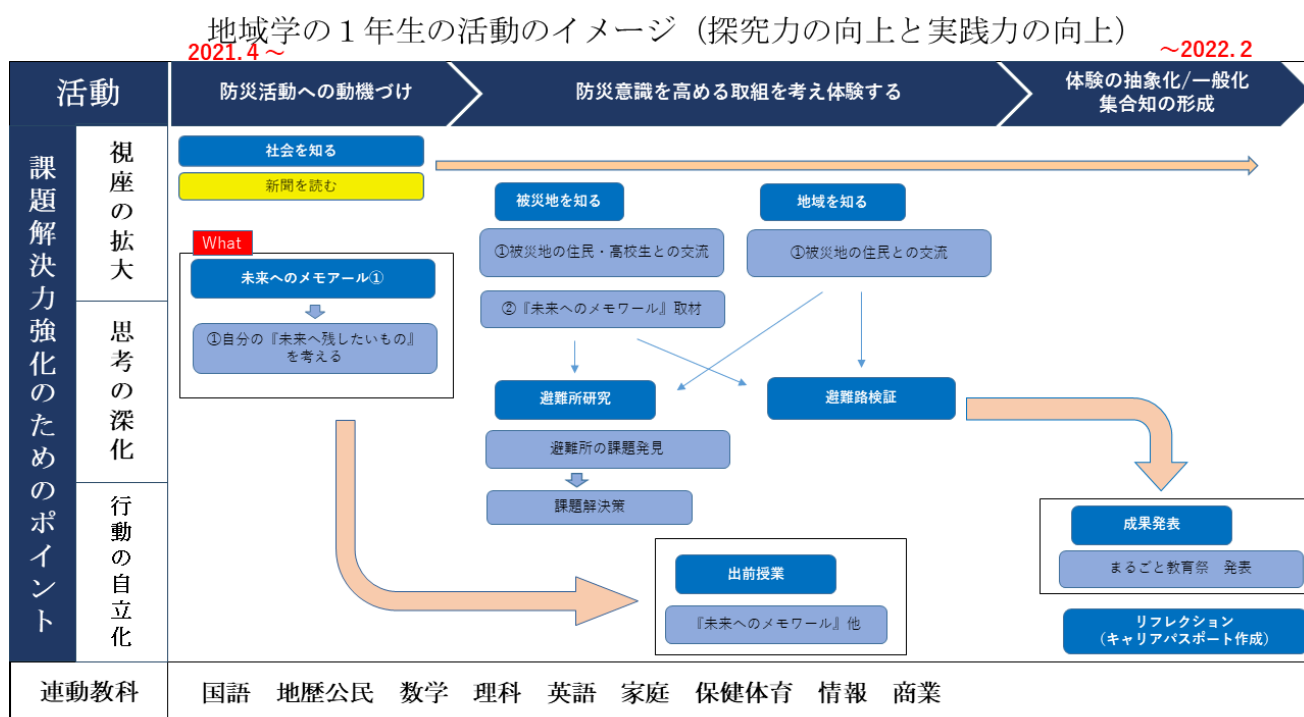
「地域学」は学校設定科目として平成 29 年度からスタートした科目であり、地域創造コースを選択した生徒が受講する。「地域学」では、1 年次に「地域学入門」、2 年次に「地域学Ⅰ」、3 年次に「地域学Ⅱ」を受講する。各年次の担当教員は地歴公民科・国語科・家庭科・商業科の教員が担当し、主担当は地歴公民科の教員が担っている。

なお、「地域学」における視覚的なカリキュラムの内容については、カリキュラム開発等専門家で矢守研究室の研究者であり、本校の防災教育のアドバイザーでもある杉山高志 氏を中心に検討したものである。

#### (1) 「地域学入門」(1 年生) の取組について

##### ア 概要

1 年生では3年間の基礎となる「黒潮町」「防災」の知識を習得し、その活動の中で特にコミュニケーション力、多様性受容力、つながる力、探究力の育成を目指す。以下に活動のイメージ図を示す。



##### イ 生徒観

全体的に明るく活発な生徒が多く、男女でのコミュニケーションもとれるが幼さが残るところが多々あり、まだまだ社会性が乏しい。防災についてもまだ経験も知識も乏しい。新型コロナウイルス感染症対策を工夫しながら、実践を重ねていく必要がある。

##### ウ 活動報告

###### 「未来へのメモワール」

「未来へのメモワール」とは、災害から守りたい大切なものを考えることで、災害に対し

て備える意識の向上を目的とする活動である。被災時に守りたい大切なものを考え、守るための行動とは何かに結び付けていく。同時に、普段、気にも留めなかったものが実はかけがえないものであったと気づき、あたりまえの生活への感謝や大切なものの存在について、あらためて見つめ直していく。3年間取り組む「防災学習」の基本となるプログラムとして1年生の当初に定着させたいと考えている。

考えていく過程で、自分の生活がいかに多くの人や思いに支えられているか気づき、大切なものをなかなか一つに絞ることができなかったが、自分自身を見つめ直すきっかけになっていた。次年度はこのメモワール活動を発展させ小中学校への出前授業とあわせて、さらに地域住民の方にも広げていきたいと考えている。

未来へのメモワール
自分の住んでる町を残したい

<p>その理由</p> <p>小さいころから、この黒瀬町に住んでいて、お世話になっているからです。都会のほうが色々なものがあるって生きやすいかもしれないけど、自分が住んでいる所は、地域の人達との関わりが多く、思い出深い場所だからです。私の町では、命を守るために地域の人達だけで高台に上がる津波避難訓練をやってきました。</p> <p>もし、地震が起ったら、今の住みやすい地域は一瞬でなくなると思います。少しでも今の風景が残るように今の町の風景を写真に残しておきたいです。そして、災害後は少しでも今の町の風景を復活させたいです。災害が起ったら、今と同じ住みやすい地域は戻らないと思うけど、写真に残すことで、少しでも災害前の町の風景を思い出せることができたらと思います。</p>

『未来へのメモワール』生徒作品

未来へのメモワール
アクアスロン大会を残したい

<p>その理由</p> <p>私の家の近くで開催されているので、小学生の時からボランティアをしてきました。</p> <p>このボランティアは、私が、はじめてやったボランティアでした。ボランティア内容は、泳ぎ終わって、走っていく選手の人にお水やアクエリアスを配る仕事でした。初めてやることなので、とても緊張しました。でも、何も知らない私に、三人くらいできていた人に声をかけられました。そのあと、その人たちが出る番になって、私はその人たちが来るのを待って、その人たちに、アクエリアスを配りました。</p> <p>その時、「ありがとう」と言われて、とても嬉しかったです。その時、とてもやって良かったと思います。だから、今は手伝いに行ける日には、手伝いに行っています。</p>

未来へのメモワール
Hちゃんとの写真を残したい

<p>その理由</p> <p>なぜ私がHちゃんとの写真を残したいかというと、私が一番大切にしている友達だからです。Hちゃんとは中学校からの友達で、Hちゃんはバレー部でいつも明るくて優しい人でした。私が辛い思いをしていたり悩んでるときに一番に声を掛けてくれていつも相談のつてくれました。</p> <p>私が、何かを頑張った時にはいつも褒めてくれました。行事の時もいつも応援してくれました。例えば、体育祭の時に私が応援リーダーでクラスの人たちとぶつかり合うことが多く、応援リーダーをやめようと思っていた時にHちゃんが私に言ってくれた言葉で、応援リーダーをもう一度頑張ろうと思えました。そんなHちゃんが私にとって大切な存在です。</p> <p>今は、離れ離れだけどHちゃんとの写真を残るといつも頑張ろうと思えます。災害から残すためには、コピーしている写真を備蓄袋に入れておきたいです。また、Hちゃんとの写真が携帯に入っているので災害が起ったときはその写真が入っている携帯を持って逃げたいと思います。</p>

『未来へのメモワール』生徒作品

### ＜避難所研究＞

本校は被災時に地域の避難所となる。平日に被災すれば地域の住民とともに避難生活を強いられることから、3年前、生徒の発案で大方高校オリジナルのHUG（避難所運営ゲーム）を作成し、いざというとき、避難所を運営して地域に貢献することをめざしている。毎年、

1年生には市販のHUGとオリジナルHUGを実践させ、避難所運営についてイメージさせている。これまでは学校全体や小学生、地域住民とも実践してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため実施できていない。そのため、様々な個別の学習後に受講者でオリジナルHUGを実践する形を繰り返し、実践ごとに疑問や解決策を考えていく方法をとっている。しかしながら、校内外の人との実践を通して様々なニーズや意見を生の声で聴く活動は大きな意義があり、今後感染症対策を考えて、できるだけ多様な人々と実践を重ねていきたい。

この授業を通して、生徒たちの気づきは「判断しかねることが多く、知識や経験が必要である」、「高齢化が進んだ黒潮町において避難、避難所生活ともに高齢者に対応していかなければならない」ということであった。避難所研究においては正解のない「問い」を探究し続ける必要があり、3年間にわたるテーマである。

HUG番号	HUGの内容	難しかったところ	どうすればよい、何がわかればよい、何があればよい
例 17	毛布200枚到着 おろす場所決める	毛布200枚分のスペースがどのくらいか	避難所の物資を置くスペースを決めておく
8	受付を作ろうと言った	どこに作ったらいいかわからない	最初から決めておく 体育館の一階食堂の入り口
9~11	家が全壊、高齢者	場所	場所を決めておく 体育館一階格技場
12~15	一部損壊、高齢者	床に寝ころべない	ベッドを構えておく 備蓄しておく エアーマット、段ボール
6.4・6.5	両親を失った3歳と5歳の姉弟	誰に面倒を見てもらうか	近所の人が分かれば一緒にいられる
4.1~4.4	長女は重度の知的障害、世帯主は額から出血	どの場所に案内するか	障害者が安心して過ごせる場所を設ける 会議室

オリジナルHUGワークシート 一部抜粋

### 〈災害伝承から学ぶ〉

災害伝承を読み解き、過去の災害から学び現代の防災に生かす取組を行った。また、そこに書かれている地名や地形、歴史を読み取り、黒潮町について知ることもできた。

今回は宝永地震を伝える「谷陵記」と安政地震を伝える「入野賀茂神社震災碑」を読み、地震の揺れの大きさや津波の様子から耐震や家具固定、できるだけ早い避難の必要性を改めて学んだ。とくに「谷陵記」は当時の被害を現在のハザードマップと比較することで、今後発生する南海トラフ地震の被害想定を確かなものとして認識していた。そのうえで各地区へ備えを呼びかけるチラシを作製した。



過去の歴史から、、、  
津波は佐賀の「白浜」まで来ました  
山の近くに住んでいる人の家は少し残ったが後は流されてしまいました、、、

**津波は危険です！！**  
**諦めないで生き抜きましょう。みんなの力で乗り越えよう！！**

※自分の命は自分で守る。早く逃げてください！！

各避難場所に避難して下さい



備えを呼びかけるチラシ 生徒作品

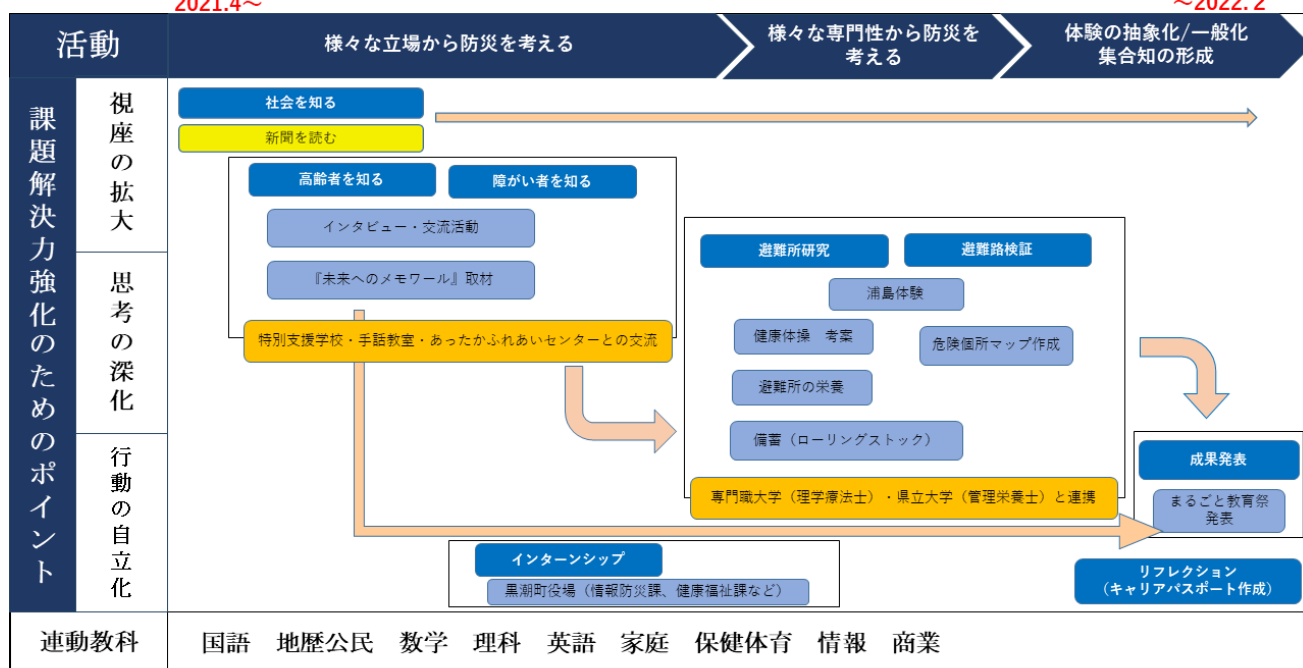


## (2)「地域学Ⅰ」(2年生)の取組について

### ア 概要

「未来へのメモワール」を中心につながる力、多様性受容力、レジリエンス、探究力、マネジメント力の育成を目指す。新型コロナウイルス感染拡大の影響で例年に比べ、地域住民と連携した活動ができなかった。しかしながら、近隣の小中学校の協力と Zoom を活用して交流学習を実施することができた。以下に活動のイメージ図を示す。

### 地域学の2年生の活動のイメージ (探究力の向上と実践力の向上)



### イ 生徒観

防災学習に対して意欲的な生徒が多く、入学の目的が本校での防災学習であった生徒も複数いる。防災に関するオンライン会議に参加して、他県の高校生と防災について意見交換している生徒たちがリーダーとなって活動している。

### ウ 活動報告

#### 〈出前授業〉

昨年度に引き続き地元の小学校、中学校への出前授業を行った。入野小学校の5年生と大方中学校2年生には「未来へのメモワール」を、佐賀中学校2年生には「オリジナル HUG 実践」を中心としたプログラムを実施した。アイスブレイクの内容を含めた授業案は高校生が考えた。

昨年度、小学校で行った出前授業で「未来に残したいものを上手く引き出せなかった。」「考えを深めてもらえなかった。」など反省点が多



出前授業(入野小学校)の様子

かったことから、次回の出前授業に対する思いは強いものがあった。「今度こそは」と、準備段階から意欲的に取り組んだ。大方中学校との授業の振り返りでは、「深く考えてくれた。」「前回よりメモワールの説明や目的を上手く伝えることができた。」とあり成果が感じられた。

中学生の振り返りには「積極的に話しかけてくれたので、活動しやすかった。」「高校生同士で助け合いながら進めているところもすごいと思った。」「困っていると助けてくれた。」とあった。また、「防災リュックをかまえておきたいと思った。」「備蓄袋の置き場所を玄関にしようと思った。」という実際の行動につながる意見もあった。この活動の目的は、自分と違う立場や年齢の人といかにコミュニケーションが取れるか、備えや避難に関する相手の意識を変えられるかどうかの2点である。中学生の振り返りからは生徒たちが活動の目的を理解し、成果があったと評価できる。

佐賀中学校との「オリジナル HUG 実践」においても「高校生がリードしてくれた。」「分かりやすく教えてくれた。」「人と人との協力があってこそだと思った。」「今日生まれた疑問は考えていきたいと思いました。」という振り返りがあった。避難所で起こりうる出来事を協力して調べ、HUGのイベントカードを作成するという課題に班ごとに分かれて協力して行う活動であったが、その目的を理解し達成に向けて努力する姿が高校生・中学生ともに見られた。こうした異年齢集団との交流については、社会性の成長が大きいことから今後も継続し、小中学生だけでなく地域住民との交流も実施できればと考えている。



出前授業（大方中学校）の様子



出前授業（佐賀中学校）の様子

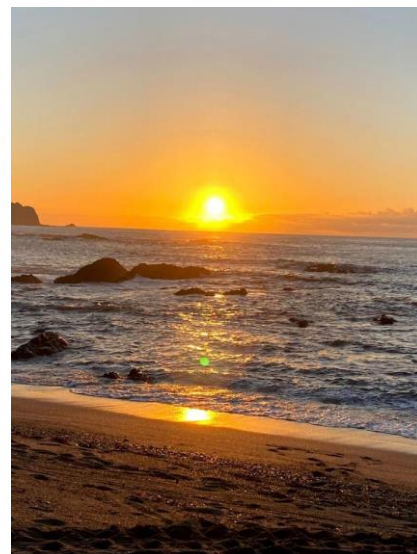
#### 〈家族のメモワール〉

2年生は避難意識の向上やかけがえのない日常への思いを再確認してもらう目的で「未来へのメモワール」の取組を多方面に広げている。写真家 桜木奈央子 氏と交流する機会をいただき、メモワールを写真で表現する取組を行った。桜木氏は高知県出身で神奈川県在住の写真家である。本校地域協働学習実施支援員 西村優美 氏の紹介で交流が始まった。

桜木氏に「相手に伝わる写真の撮り方」を教えていただき、「家族のメモワール」を取材する課題に取り組んだ。祖父母や親に取材した生徒が多かったが、ほとんどが家族や子ども、家族の写真を残したいという答えであった。生徒たちは「あらためて自分が親や家族に大切に思われているということが実感できた」という感想をもっていた。この取材を通して家族

への思いや大切さ、自分の存在の大切さを感じ取ることができたと思われる。防災教育には色々な教育が内在しているが、この取組は人権教育にもつながっている。

桜木氏はアフリカのウガンダに取材に行かれ、長年支援をされていることから生徒たちにウガンダの内戦の実情と悲劇を語っていただいた。生徒からのウガンダについての質問の中に印象的なものがあった。「ウガンダに地震が起こったらどんなことが一番困るのか？」という質問に対し、桜木氏の答えはこうである。「ウガンダの家は自分たちで建てた木造の家で、周囲に高い建物はなく、電気も水道も元々ないので、家に押しつぶされないように逃げさえすれば、そんなに生活に困ることはない」。この答えに生徒たちからは「便利さを求めた生活が被災時には人間を物質的にも精神的にもしんどくさせるのか」という「問い」が生まれた。彼らのこの「問い」とSDGsを掛け合わせて、来年度「持続可能・・・」というテーマで平時、非常時が両立する黒潮町の防災について考えさせることを計画している。



家族のメモアールの写真  
弟の残したいもの 海

#### 〈避難所運営訓練から考える〉

11月に全校で避難所運営訓練を行った。今までのようなHUGを用いたものではなく実際に避難者側と運営側に分かれ、実際の避難所になる本校体育館を使い、また要配慮者を含めた色々な立場の避難者を想定した訓練であった。学年を縦割りにして班を作り、それぞれにミッションが出され、協力しながら解決していくというものである。授業では全校生徒の振り返りアンケートの分析をもとに学校と全校生徒に備蓄について要望や呼びかけを行うこととした。「避難所の中で困ったこと」、「備蓄しておいた方がよいもの、準備しておいた方がよいこと」というカテゴリーに分け、アンケート内容を分析した。

また、「避難所としての大方高校の強み・弱み」を考え、要望すべきもの、呼びかけるべきことを提案書とチラシの形で作成した。学校へは太陽光パネルの設置や毛布・スプーン・カイロなどの備蓄物資の追加を要望する。特に太陽光パネルについては黒潮町役場住民課課長宮川氏に黒潮町の“ゼロカーボンシティ”の取組と、平時の“脱炭素”と非常時の“地域レジリエンス”が同時にかなう太陽光パネルの活用について説明を受けた。SDGsの視点から防災を考えるというヒントをいただき、生徒たちは提案理由に加えた。校長への提案は次年度の活動に繰越される。

また、全校生徒への呼びかけはこれまでの行ってきた「個人の備蓄袋を学校に」というものである。次年度は新入生を迎えて、改めて全校生徒に呼びかけていく予定である。

信じられるベンチを  
あなたに

新しくできた避難場所です。  
場所は役場前のT字路前です。



大方高校地域創造コース3年

チラシ作品

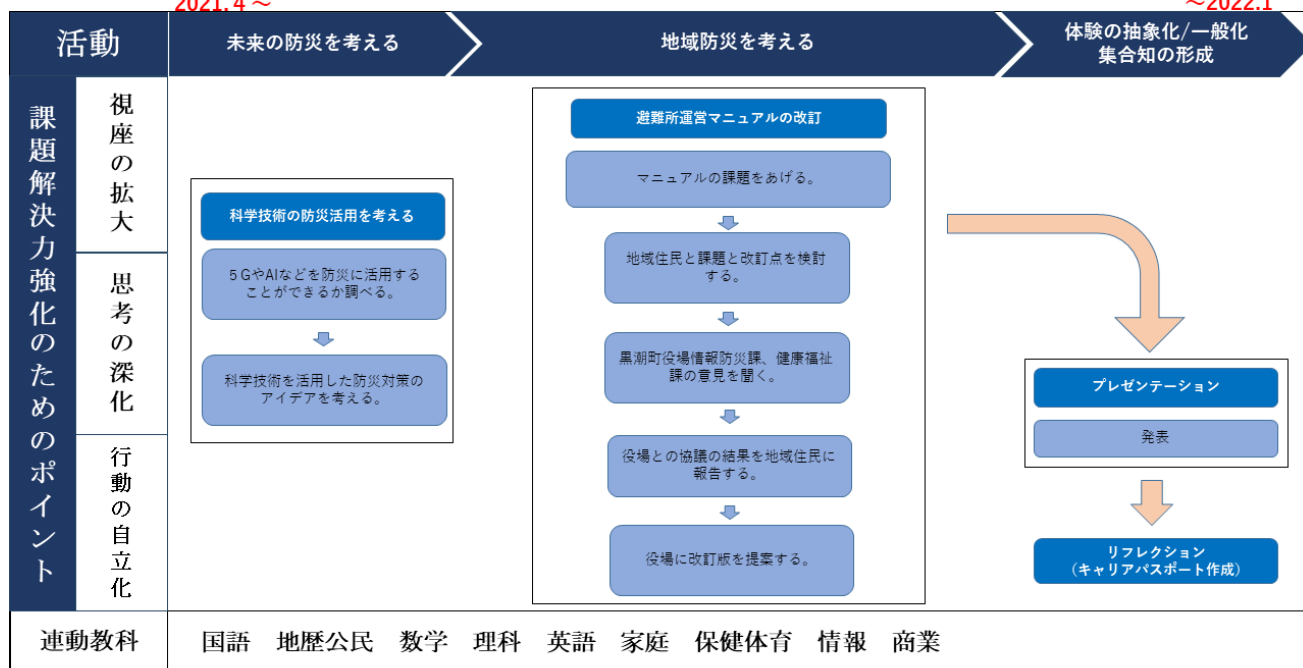


### (3)「地域学Ⅱ」(3年生)の取組について

#### ア 概要

3年間の集大成として、地域に貢献する力を身に付けるべく、具体的な貢献策を提案し実践を行った。地域の協力も得ることができ、成果を出すことができた。以下に活動のイメージ図を示す。

地域学の3年生の活動のイメージ (探究力の向上と実践力の向上)  
2021.4～ ～2022.1



高知大学川村晶子客員准教授作成のシートを活用

#### イ 生徒観

受講生徒は6名と少なく、様々な活動において他の学年より協力することを求められた。それぞれの個性や思いもあり、当初はなかなか協力し合うことができなかったが、課題にぶつかるたびに、徐々に協働する力を身に付けていった。

#### ウ 活動報告

##### 〈新しい避難場所の整備活動〉

この活動は昨年度から続けているもので、道路の改良に伴い新しくできた道路横の広場を整備し地域住民に周知を図る取組である。もともとは、本校生徒防災委員会が地域住民との避難路検証の結果、この場所が、津波からの一次避難場所となりうる事が判明した。国土交通省所管の土地であることから避難場所としての活用を提案して許可された。整備に協力してくれる事業所を探していたところ、地元の山本建設さんがベンチの設置と桜の木の植樹をして



ベンチの設置の様子

くださることになり、4月に整備が行われ、生徒も作業の一部に参加させていただいた。桜の植樹は春休み中であったので、生徒防災委員会のメンバーも参加した。ベンチの設置は地域創造コースの2年生とともにいった。

この場所はなだらかな坂の上に位置し、住民の散歩コースの途中にある。生徒たちは「普段の散歩と避難訓練を兼ね、休憩ポイントとして普段使いにも活用してほしい。そのためまずはベンチの設置が必要。」という考えであったので、さらなる整備を計画した。

それは、1年を通して花が咲くような広場をイメージしてのものであった。しかしながら、花を植えるとなると土やプランター、花壇にするのであればレンガ、そして花の種や苗などの購入資金が問題となった。そこで、住民にこの場所を知ってもらうことを兼ねて資金を募ることにした。ポスターを作製し、地元のコンビニエンスストア、ドラッグストア、駅、スーパーに一定期間掲示してもらった。また、黒潮町地区防災シンポジウムで呼びかけをし、募金箱を設置して協力をお願いした。さらに動画を作製し、一定期間ではあるが地元のケーブルテレビで放送していただいた。今年度中には実際の作業までには至らなかったが、次年度後輩に引継ぎ、周知活動も合わせて本格的に計画を実行していく予定である。



桜の木の植樹の様子



募金を呼びかける動画のワンシーン

#### 〈ポリ袋調理実習〉

「コロナ禍で被災したとき、避難所の食事をどうすればよいか？」という課題に取り組んだ。①個人別であること、②備蓄品を活用できること、③温かい食事ができること、④簡単に調理できること、この4点をふまえて考えついたのが、ポリ袋で1人分をつくるカレーであった。具材は缶詰の焼き鳥、コーン、トマトジュースである。食材を考えるとローリングストックしやすい食材を考えた。そして、実際にカレーを作る実習を行った。ご飯は竹飯ごうで炊いた。



ポリ袋で調理したカレー

実習後「意外とおいしかった。」、「コロナのことを考えると有効な手段」、「洗い物がないので、備蓄の水を有効活用できる。」、「レトルトカレーはアレルギーの問題があるが、個人でつくと除去も可能」、「材料を入れた後、ポリ袋内の空気を抜く必要があることなど、一度経験しておく方が良いと思った。」という感想がでた。



また、全校生徒で行なった避難所運営訓練でも実践した。一人分の水分量に伝達ミスがあったため、「まずい」（生徒の感想）カレーになったことから、「避難所の混乱の中ではレシピや作り方を伝えるのは難しいので、レシピ集を作成する。」という新しい課題を見つけていた。



竹飯ごうで炊いたごはんとポリ袋で調理したカレー

#### 〈臨時情報を学ぶ〉

京都大学防災研究所の矢守教授と杉山研究員に Zoom で「臨時情報」に関する授業をしていただいた。そして、「臨時情報」が出た際の行動について、「マイストーリー」を作製した。

ほとんどの生徒が学校にいる時間帯に「臨時情報」が出されたと想定し、避難所を開設してその運営に貢献している自分たちの姿をイメージしていた。そこに地域創造コースや防災委員会の仲間と協力するという記述があったことは“協働する力”の必要性を認識していることが実感できた。また、これまで避難所運営について学習し、考えてきたことを実践する様子が書かれていたことも、これまでの学習や活動が成果となって表れていると感じた。

2年生の地域学Ⅰの生徒たちも同様に授業を受け、「マイストーリー」を作製した。2・3年生に共通することであるが「避難生活は物質的に、精神的に苦しい」、「簡単なものではない」ものであるが、地域や避難してきた人々に自分たちが「貢献する」、「貢献しなければ」ということが述べられていたところに、様々な人に関わっていただいた取組が成果に結びついていると強く感じた。

#### 『臨時情報』振り返りシート

【1】『臨時情報』について、今回新しく知ったことを書く。

- ・最短でも2時間以内に発表される
- ・一部割れやゆっくり滑りという言葉

【2】2回の授業への取り組み方はどうだったか。自己評価をする。

- ・自分なりにしっかり考えることができたし、質問とかもできたからよかったけど具体的にマイ・シナリオを考えたとき深くまで考えられなかったのもし次があるなら、もっと具体的に書いていきたい

【3】『臨時情報』のことを社会に伝えていくために、自分（達）ができることは何か。また、今後どんなことをやってみたいか（アイデア）書く。

- ・地区の話合いの場で臨時情報のことを伝える
- ・出前授業で臨時情報についてやる → 生徒が知る → 親も知る → 家族会議
- ・家族での防災会議などを開いてみる

#### 臨時情報学習の振り返りシート

## 2 「総合的な探究の時間」における各学年の取組

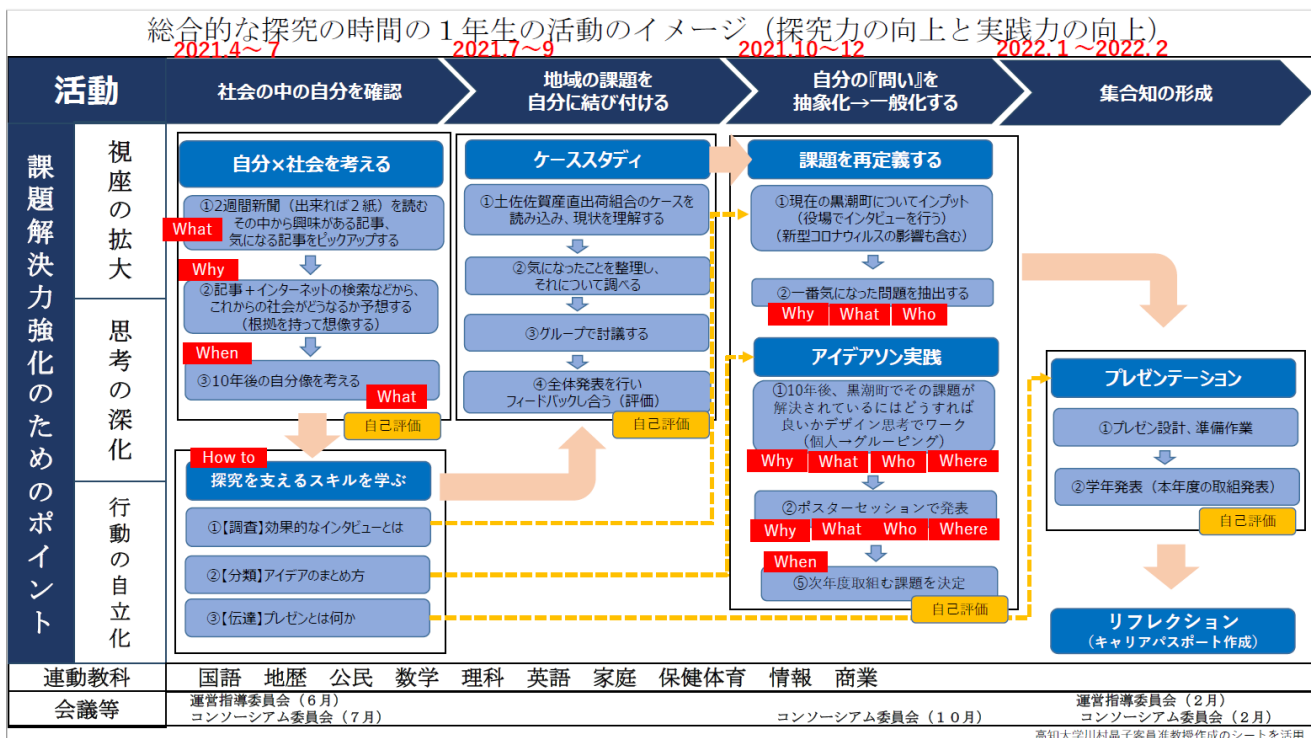
本校の「総合的な探究の時間」は、大方商業高等学校から多部制単位制普通科の大方高等学校に改編された平成17年度から、「総合的な学習の時間」としてスタートした。「総合的な学習の時間」の展開は、「自律創造型地域課題解決学習」として位置づけ、地域をフィールドとして地域の課題解決学習を地元の事業所と連携して進めてきた。本事業では、この活動を深化させ、地域をフィールドとして探究活動を推進し、学校内の力だけではなく学校外の力を借りて展開していくこととした。

カリキュラムの内容については、カリキュラム開発等専門家である高知大学次世代地域創造センター 客員准教授 川村晶子 氏を中心に検討したものである。

### (1) 「総合的な探究の時間」1年生の取組について

#### ア 概要

1年生は、探究力の基礎として、「情報収集力」、「情報分析力」、「判断・決定力」、「論理的思考力」、「表現力」の5つの力を身に付けることを目標に活動を行った。年度当初に年間計画、(OODAに基づいた)ルーブリック評価を提示し、1年間の見通しをもたせ、身に付けさせたい力の共有を行った状態で授業が始まった。年間を通して、「人が働くということ」をテーマに、「自分×仕事」、「他者×仕事」という切り口で探究活動を行った。以下に活動のイメージ図を示す。



#### イ 生徒観

1年生は、全体的に明るく活発であり、物事に対して一生懸命に取り組むことができる学年である。男女でのコミュニケーションもとれている。一方で、コミュニケーションをとることが苦手な生徒も一定数おり、活動や話し合いもリーダー性を発揮する生徒の意見だけが尊重されるような一面もある。

## ウ 活動報告

活動は、下図のOODA ループに基づいたルーブリック評価を生徒に示し進めていった。

単元1「自分×社会を考える」ルーブリック評価					
観点/レベル	1	2	3	4	5
到達レベル		規準		到達目標	
観察および情報収集力	情報収集ができておらず、自身の推測や予想のみである。	情報収集は一定できているが、一面的な見方で情報の収集がなされている。また目的がはっきりしていないので、情報の内容に一貫性がない。	情報収集の目的は明確である。多くの情報源から情報を得ようとしているが、視点が一方的であるため、やや情報の内容に偏りがある。	収集の目的が明確であり、多くの情報源から情報を得ることができる。固定観念に囚われず、多面的な視点をもって多くの情報を収集できる。	多角的な視点を持ち、複数のデータの収集を行い、過程や根拠を明確化している。また、正確性も高く収集源も明示している。
分析力	情報の分析ができておらず、根拠がない情報があることにも気づけない。	情報の比較分析が甘く、情報の羅列になっている。主観性が強く根拠が弱い。説得力に欠ける内容である。	情報の比較分析が一定できている。根拠を持って思考できている。思考に関しては、論理的思考にとどまり、批判的思考は行っていない。	情報の比較分析が一定できている。根拠を持って、論理的・批判的に思考できている。	情報の比較分析が一定できている。根拠を持って、論理的・批判的に思考でき、的確な言葉でアウトプットできている。
判断、決定力	根拠や具体性がない。主観的であり、思考が浅い。実現に向けたプロセスも漠然としており実現性が低い。	根拠が弱く具体性に欠ける。インプットや予測との結び付きが弱く、主観的である。実現に向けたプロセスも自身の考えのみで実現可能かは不透明である。	根拠や具体性が一定ある。社会に与える影響が主観的で、社会との結びつきが少し弱い。実現に向けたプロセスに具体性はあるが、偏りがある。	根拠や具体性が一定あり、視座を高めて社会に与える影響を考へることができている。実現に向けたプロセスを多角的に考へることはできている。	根拠や具体性があり、社会に与える影響が根拠をもって明示できている。また、実現に向けたプロセスも細部まで考へられており、実現性が高い。
表現力	他者の方を借りないとプレゼン資料が作れない。他人よがりな発表が自分事になっていない。	探究した内容をアウトプットできておらず、本質や過程が聞き手に伝わっていない。	何を伝えたいのか概ね理解できるが、伝え方が情報の羅列になっている。	聞き手側に立ったストーリー展開、手法の選択が出来ている。多様な人たちが納得できる視点で表現している。	インプット・予測・10年後の自分像に強い結びつきがあり、それをストーリー展開、的確な言葉の選択、効果的な表現ができています。

### OODA ループに基づいたルーブリック評価

#### <自分×仕事について考える>

本単元は、「2030年の自分と社会について考える」というテーマで、「自分×仕事」という切り口から、「情報収集力」、「情報分析力」、「表現力」の基礎を養った。

授業方針としては、1年生ということもあり、「2030年の自分と社会について考えなさい。」といわれても、思考が深まらないことが想定されるので、思考のプロセスを提示し、スモールステップでゴールに向かう、といった方法で授業を実施した。

その際、ルーブリック評価を見ながら、自身の評価を行わせ、余裕がある場合は、なぜその評価であるのかを言語化させた。また、情報収集分析で求められることは、ワークシートでは正確に認識できないため、面談を通して、情報収集の意義や分析の方法等を言語化させ、その内容で評価を行った。アウトプットに関しては、意義に触れ、聞き手の視点に立った資料づくり、意識改革を促すプレゼンを最重要観点として定め、生徒にも意識づけをさせた。



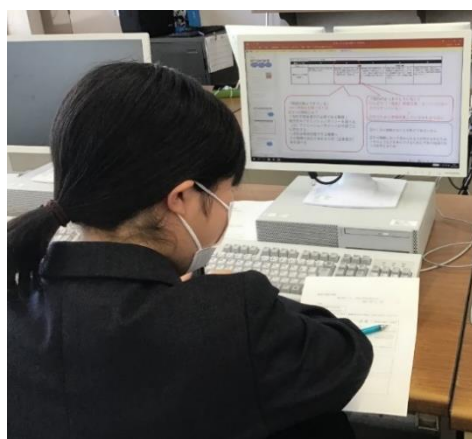
#### テーマ「2030年の自分と社会について考える」

#### イメージ図





活動の様子



自己評価および面談による評価の様子

<他者×仕事について考える>

本単元は「自身が働くということについて再度見つめ直す」というテーマで、「他者×仕事」という切り口から活動を行った。本単元は、「ケーススタディ」、「ディベート」、「論文作成」、「講話」、「ワールドカフェ」の5つの要素から構成されている。以下要素ごとに報告していく。

(ケーススタディ)

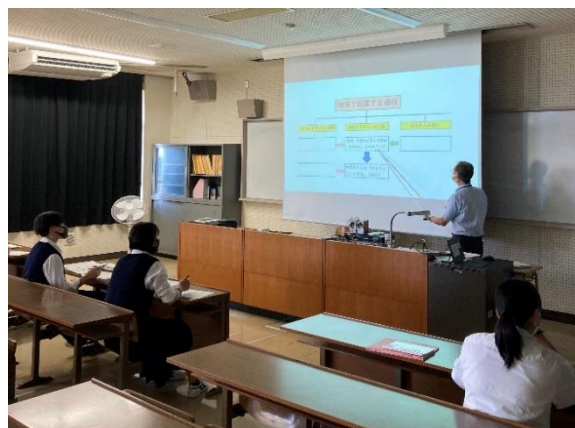
ケーススタディとは、ある具体的な事例について、それを詳しく調べ、分析・研究して、その背後にある原理や法則性などを究明し、一般的な法則・理論を発見しようとする方法である。今回は以下の方のケースによって学習を行った。

ケース提供者：(有) 土佐佐賀産直出荷組合 浜町 明恵 様  
 (株) サニーフーツ 出水 佐知 様

身に付けさせたい力として、「情報収集力」、「情報分析(編集)力」を掲げ活動を行った。授業の流れは以下のとおりである。

ケース読み込み→構造化→問いを立てる→インタビュー→振り返り

ケーススタディに関しては、教員対象の勉強会を設け、実際に各先生に作成してもらい、それに関して生徒にプレゼンをしてもらった。「構造化は 100 人いたら 100 通りある」ということを伝え、自分の枠組みと視点で行わせた。



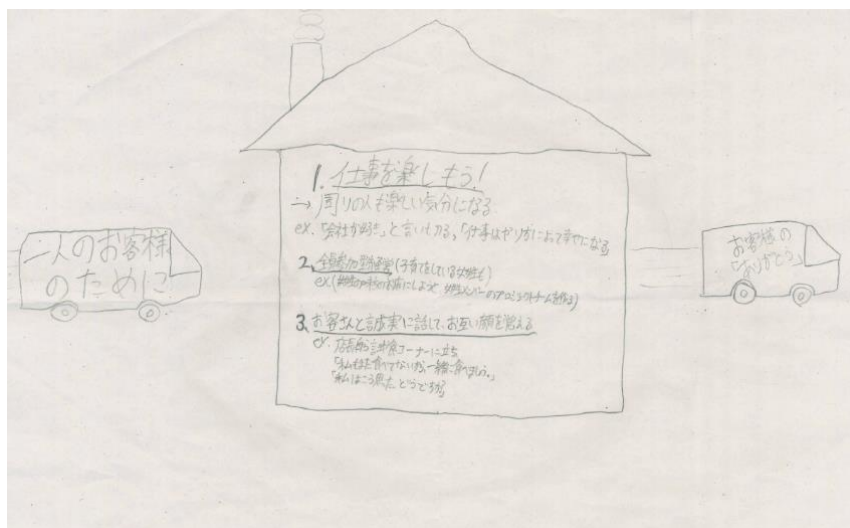
教員による構造化プレゼンの様子

インタビューに関しては、インタビューとネットからの情報収集の違いに触れ、また、相手からの確かな答えを引き出す問い・深い問いを立てさせるべく、何度も突き返しを行い、深みをもたせるための指導を行った。



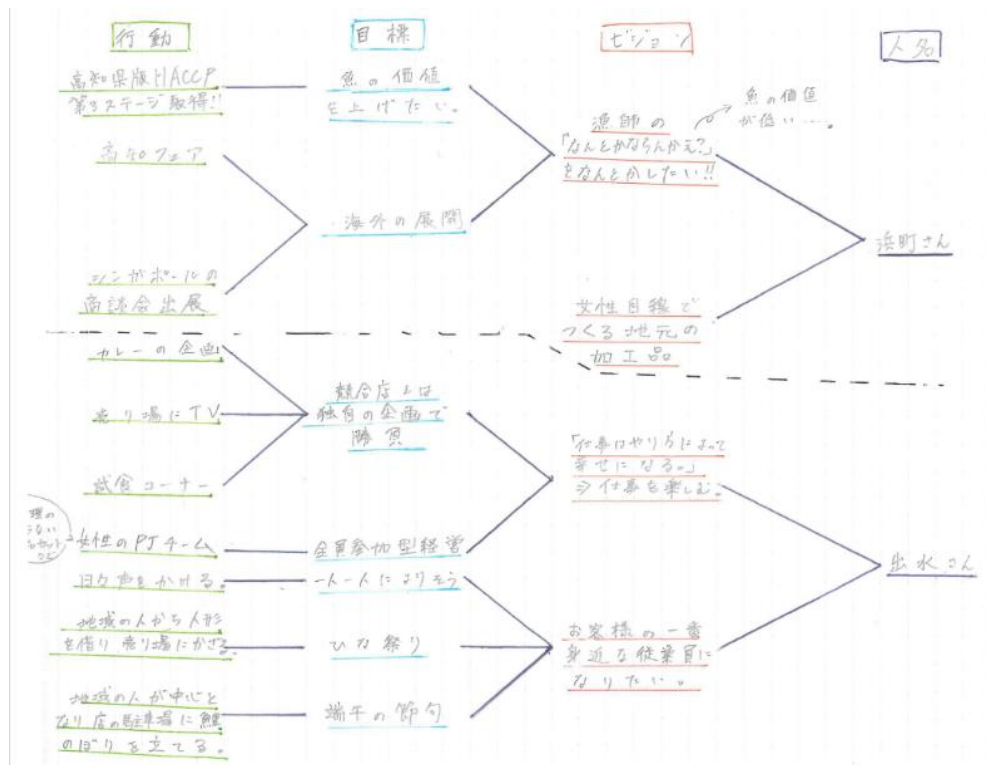
インタビューの様子

構造化では、今までは枠が与えられ、そこに正解を書き込むことで図表を仕上げるといった経験ばかりであったため、生徒からは、「これでありますか?」といった声が多数上がり、序盤は苦戦していた。しかし、終わってみると全員がオリジナリティある構造化ができていた。



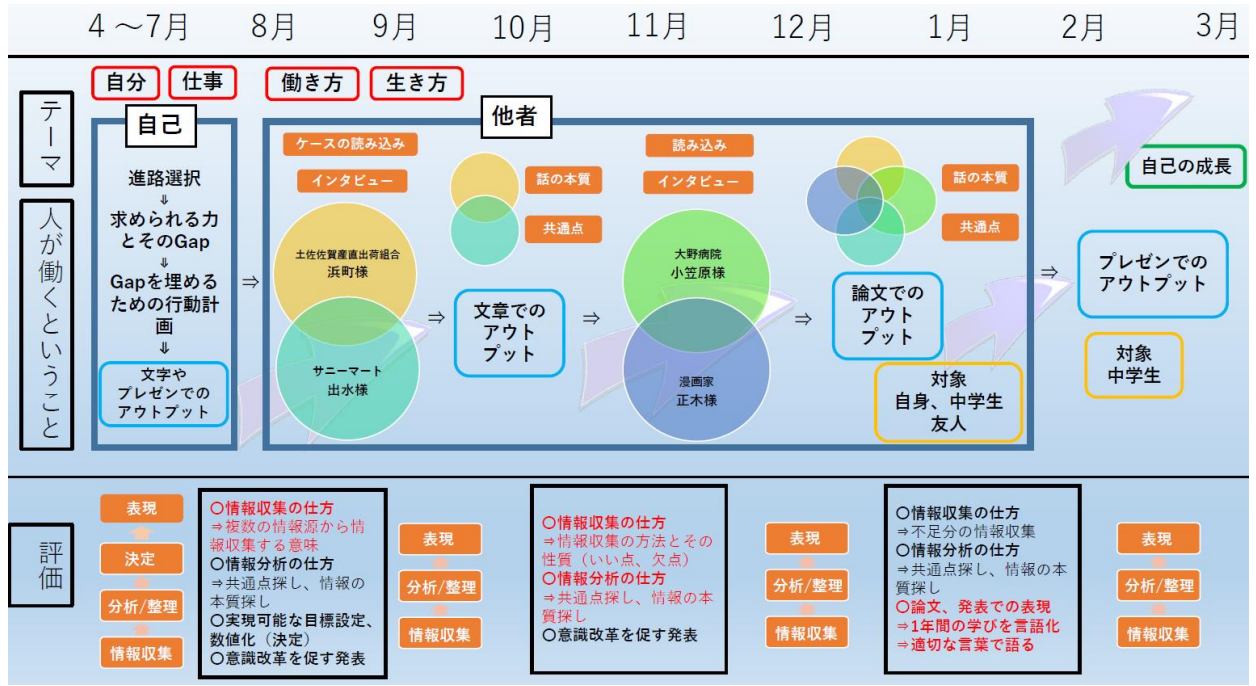
生徒の構造化作品





生徒の構造化作品

ケーススタディが終わった時点で振り返りと方向性の改善を行った。今年度1年生の年間計画は、対象生徒の実態が分からない状態で作成したこともあり、半期を終えた段階で、学年団の先生方の意向や、カリキュラム開発等専門家の川村氏の助言をもとに、計画の修正を行い、当初の計画とは異なる形で、後期のプログラムに挑んだ。変更した背景としては、教員側の当初イメージしていた生徒像と異なる部分が多くあったためである。また、様式も担当のデザインしやすい形に作り替え、カリキュラムの再構築を行った。以下に再構築後の年間計画を示す。



再構築後の年間計画



(ディベート)

身に付けさせたい力として、「情報収集力」、「情報分析力」、「論理的思考力」、「批判的思考力」、「チーム力」を掲げ活動を行った。

ディベートの位置づけとしては、その後の活動である「論ずる」のための基礎力を培うものとしている。そのため、生徒には今後の活動を提示しながら、身に付けさせたい力と授業の位置づけを理解させたくて活動を実施した。

生徒の実態としては、「ディベートという言葉聞いたことがある」という生徒は、10名程度（全体の30%）、「ディベートをやったことがある」という生徒は数人（全体の10%以下）であった。そのため、ディベートに関するインプットも行いながら授業を進行していった。また、本活動は、5人×7班構成のグループ活動で実施した。

今までの学習の反省も生かし、評価項目に目を当てる時間を度々設け、学習の狙いを理解したうえで学習させた。ただの調べ学習とならないように、授業構成に注力を注ぎ、より充実した探究学習となるように構成を考えた。特に、自走という名の放任にならないように工夫した。

ディベート評価シート

発表チーム \_\_\_\_\_ 評価者 \_\_\_\_\_

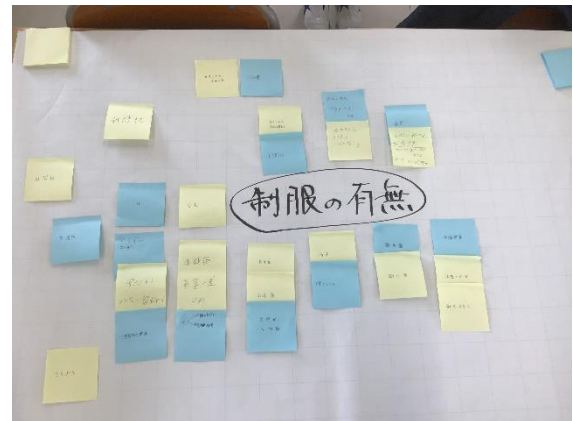
【評価】  
○5点満点とし、5段階評価で記入してください。

評価項目	肯定 ( ) 班	否定 ( ) 班
資料やデータなどを図や表、グラフ等で提示しながら、視覚的に表現できている		
根拠に基づいて話を展開できている。 (自身の感覚や勘、憶測ではない。)		
相手チームの立論を理解し、筋道の通った質疑応答・反駁ができている。		
チームとして話し合い、受け答えができている。		
合計点		

○各チームの「良かった点」、「こうすればもっと良くなる点」を記入してください。

チーム名	チーム名
○良かった点	○良かった点
○こうすればもっと良くなる点	○こうすればもっと良くなる点

評価項目



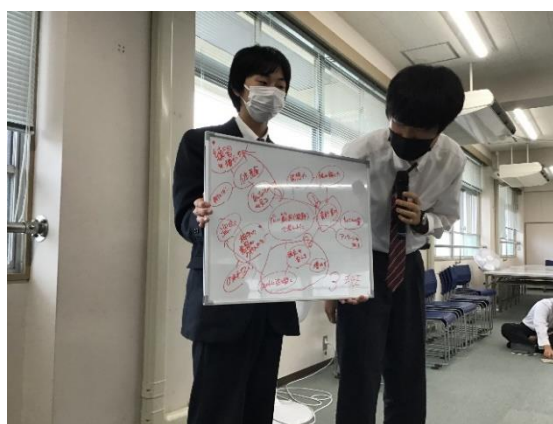
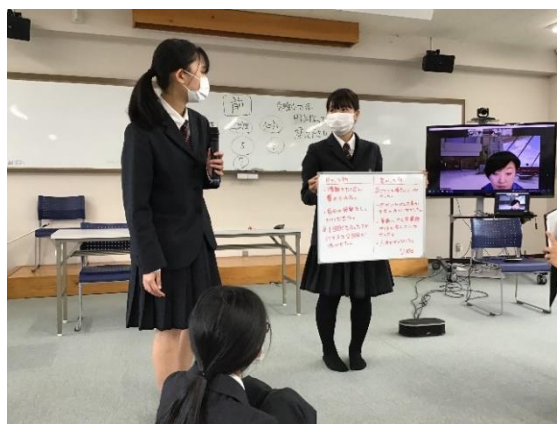
活動の様子

テーマを「日本の教育政策として、制服を廃止すべきである」としてディベート大会を行った。評価者として、黒潮町教育長 畦地和也 氏（運営指導委員）、合同会社 NOKs Labo 代表 山崎直子 氏（コンソーシアム委員）、高知新聞社記者 河本真澄 氏をお迎えし、指導・助言をいただいた。成果・課題共にたくさん得られた活動となった。



ディベート大会の様子

ディベートの振り返りを、評価者として参加していただいた山崎直子 氏（パーソナルコーチの資格を有す）にオンラインでファシリテートしていただき実施した。振り返りを、「過去否定」、「過去肯定・未来肯定」に分け、反省ばかりを出し合う振り返りから、「もっと良くしていくためには」といった視点を交えた振り返りを実施した。班でディスカッションする時間を多く設け、授業者から具体的な指示を与えることで、抽象的で他人事の振り返りではなく、具体的で自分事の振り返りとなり、効果的な振り返りを行うことができていた。



振り返りの様子

#### （論ずる①）

ディベート後の計画では、ディベートで身に付けた理的思考の基礎等を活用し、仕事×社会という視点で、「自分がやろうとしている仕事は 10 年後どう変化しているのか、もしくは変化していないのかを根拠を交えて論じなさい」というテーマで論じさせる予定であった。しかしディベート後、生徒から、「悔しい」、「もっとやればよかった」といった声が多数あり、「制服の是非」について再検討することも兼ねて、「論ずる」のテーマとして設定した。

「論ずる」のインプットとして国語科の先生にポイント等を説明していただいた。それらを参考に個人で論ずる活動を実施した。論理的に文章を書くということに慣れておらず、主観的な文章が多く、活動の結びつきが弱いと感じた。そこで、文章の構造化シートを作成させ、文章構造を決定してから、論ずる活動を行わせた。

その後、個別に担当教員と面談形式で振り返りを行い、何ができていて何ができていないのか、どうすればできるようになるのかを対話を通して確認した。



国語科からのインプットの様子

(ワールドカフェ)

本活動も、年度当初の計画にはなく、生徒の実態に応じて変更したものの1つである。

「未来の仕事について考える」をテーマに、10名を超える社会人の方に参加していただき実施した。新型コロナウイルス感染症の影響で、本来であれば対面形式での実施であったが、オンラインに切り替えて行った。ほぼ全員の生徒が、オンラインでのやり取りは初めてということもあり、始めはかなり緊張していたが、時間が経つにつれ活発にディスカッションを行っていた。しかしながら、課題も多くある活動にもなった。具体的には、「大人に教えてもらう」という意識が強く、自身の思いを伝えることができない生徒も若干名いた。また、インタビュー形式になりがちであり、議論を深めることはできていなかった。生徒からは、またやってみたいという声や、もっとテーマについて情報収集してから参加すればよかったといった肯定的な振り返りも見られ、総合的に考えると、いい活動であったと言える。



ワールドカフェのオンライン画面

(論ずる②)

「自分がやろうとしている仕事は10年後どう変化しているのか、もしくは変化していないのかを根拠を交えて論じなさい」というテーマで論ずる活動の2回目を実施した。

本活動の位置づけとしては、年間テーマである「人が働くということ」に関する集合知の形成となっている。論ずる①の活動の振り返りを念頭に入れながら、前回の自分を超越るといったイメージで活動させた。学年としての課題は、生徒がイメージしていることをいかに論理的に表現させるかであった。文章を書く前に構造化シートを書かせ、書く生徒がどのような視点から論じていきたいか、根拠や情報源をどう記していくかを面談でより具体化、明確化させ、論ずる活動を行わせた。多くの生徒が、論ずる①よりも成長した姿が見られた。

この2回の論ずる活動を3年間ポートフォリオとして残していき、進路研究等に役立てていきたい。キャリア教育の一環にもなり、充実した活動となった。

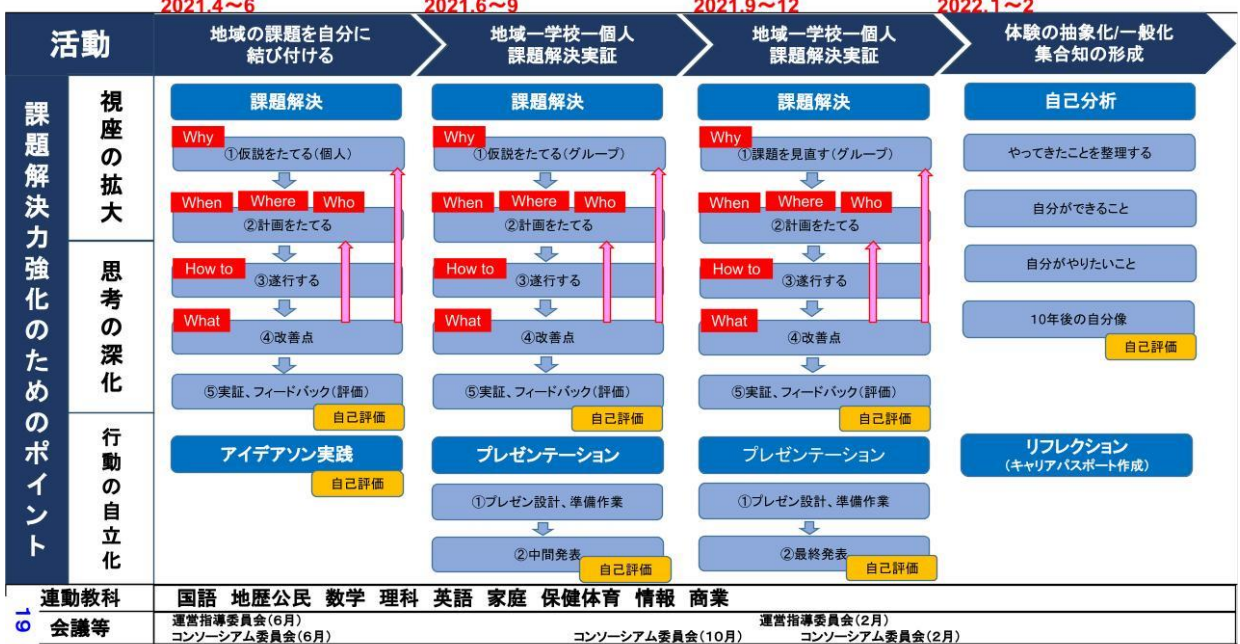


(2)「総合的な探究の時間」2年生の取組について

ア 概要

2年生は、探究力の基礎として、「情報収集力」、「情報分析力」、「判断・決定力」、「論理的思考力」、「表現力」の5つの力を身に付けることを目標に活動を行った。年度当初に年間計画、(OODAに基づいた)ルーブリック評価を提示し、1年間の見通しをもたせ、身に付けさせたい力の共有を行い授業展開をした。年間を通して、「買い物をデザインする」をテーマに、「2030年の買い物」、「黒潮町のみんなが幸せになる買い物」という切り口で探究活動を行った。以下に年度当初の活動のイメージ図を示す。

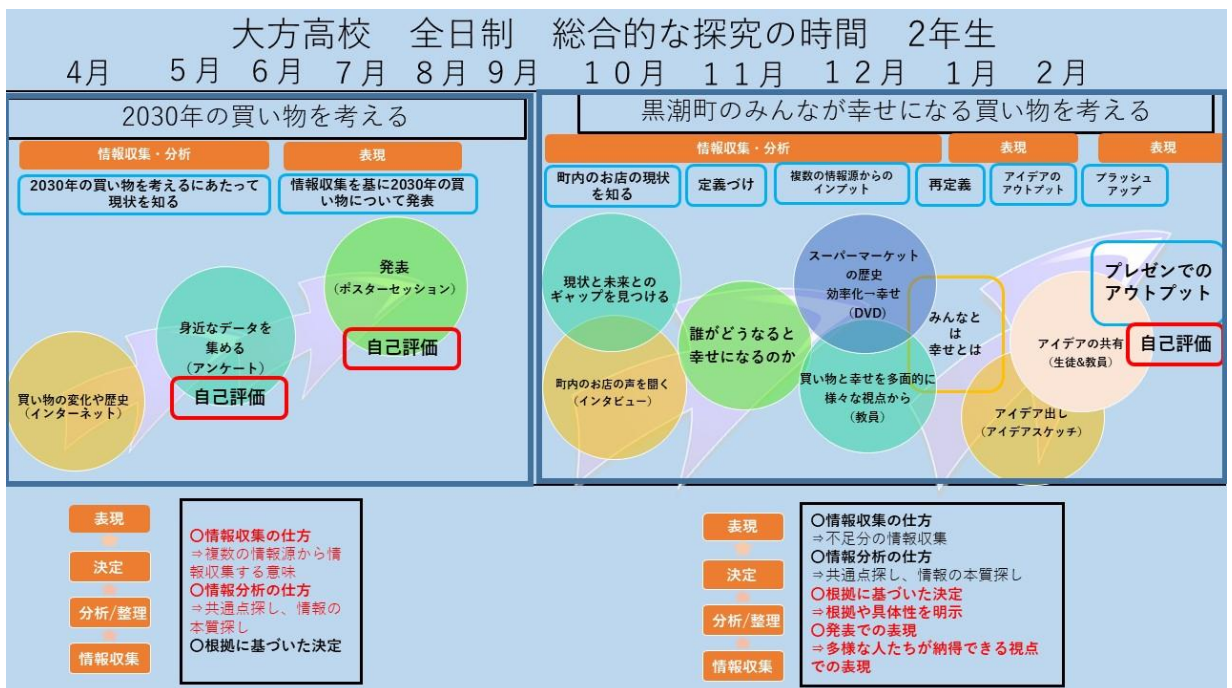
総合的な探究の時間の2年生の活動のイメージ(探究力の向上と実践力の向上)



19

高知大学川村晶子客員准教授作成のシートを活用

当初は上図の年間計画で実施する予定であったが、生徒の実情に合わせて、柔軟に変更を行うこととした。探究力の基礎となる情報収集力・分析力・表現力の基礎が十分でないことから、基礎の定着を図れるよう計画を練り直し、下図のとおり授業展開した。



## イ 生徒観

2年生は、他の学年よりも全体的に学力が高く、素直で理解も早い生徒が多い。一方で、男女間でのコミュニケーションが苦手な生徒が多く、素直ではあるが自分で考えて行動するよりも指示を待っているということも多い。リーダー性を発揮する生徒も少なく、話し合い活動やグループ活動では人任せになることも多い。

## ウ 活動報告

活動は、下図のOODA ループに基づいたルーブリック評価を生徒に示し進めていった。

観点/レベル	1	2	3	4	5
到達レベル			<b>規準</b>	<b>到達目標</b>	
観察および情報収集力	情報収集ができておらず、自身の憶測や予想のみである。	情報収集量が少なく、一面的である。裏付けができておらず正確性に欠ける。	情報収集量は少ないが、裏付けを行い、正確性の高い情報を収集できている。	多角的な視点を持ち、複数のデータの収集を行っている。また、正確性も高く収集源も明示している。	多角的な視点を持ち、複数のデータの収集を行い、過程や根拠を明確化している。また、正確性も高く収集源も明示している。
分析力	情報の分析ができておらず、根拠がない情報があることにも気づけない。	情報の比較分析が甘く、情報の羅列になっている。主観性が強く根拠が弱い。説得力に欠ける内容である。	情報の比較分析が一定できており、根拠を持って思考できている。思考に関しては、論理的思考にとどまり、批判的思考は行っていない。	情報の比較分析が一定できている。根拠を持って、論理的・批判的に思考できている。	情報の比較分析が一定できている。根拠を持って、論理的・批判的に思考でき、的確な言葉でアウトプットできている。
判断、決定力	根拠や具体性がない。主観的であり、思考が浅い。実現に向けたプロセスも漠然としており実現性が低い。	根拠が弱く具体性に欠ける。インプットや予測との結び付きが弱く、主観的である。実現に向けたプロセスも自身の考えのみで実現可能かは不透明である。	根拠や具体性が一定ある。社会に与える影響が主観的で、社会との結びつきが少し弱い。実現に向けたプロセスに具体性はあがるが、偏りがある。	根拠や具体性が一定あり、視座を高めて社会に与える影響を考ることができている。実現に向けたプロセスを多角的に考えることはできている。	根拠や具体性があり、社会に与える影響が根拠をもって明示できている。また、実現に向けたプロセスも細部まで考えられており、実現性が高い。
表現力	他者の方を借りないとプレゼン資料が作れない。他人よがりでの発表が自分事になっていない。	探究した内容をアウトプットできておらず、本質や過程が聞き手に伝わっていない。	何を伝えたいのかが根柢理解できるが、伝え方が情報の羅列になっている。	聞き手側に立ったストーリー展開、手法の選択が出来ている。多様な人たちが納得できる視点で表現している。	インプット・予測・アウトプットに強い結びつきがあり、それをストーリー展開、的確な言葉の選択、効果的な表現ができている。

### OODA ループに基づいたルーブリック評価

#### 〈単元1 2030年の買い物を考える〉

本単元では「買い物をデザインする」というテーマで、「自分×買い物」という切り口から「情報収集力」、「分析力」、「表現力」の基礎を養うために、2030年の買い物がどう変化しているのかに対して、根拠をもって2030年の買い物を考え、表現する授業を実施した。

まずは、現時点で誰がどのようなことに困っているかという視点からスタートした。当初は、自分たちの身近なお店からインターネットを使って情報収集を行った。複数の情報源からの情報収集をするため、次第に方法をアンケート・インタビューと増やしていった。そして、収集した情報から2030年の買い物を考え、ポスターを使って発表を行った。



活動の様子





発表の様子

実施後の課題としては以下のものがあげられた。

- ・インターネットによる情報収集では、検索結果の上位サイトしか見ていない。
- ・収集した情報に対して疑問や批判的な考えを持っていない。
- ・アンケートを実施したが、手段が目的になってしまい、質問項目に意図がなかったり、2030年の買い物を考えるにあたっての情報といえるものではなかったりした。
- ・アンケートの目的が明確になっていなかったことで、質問項目につながりがなかった。
- ・発表を実施したが、根拠のない考えが多かった（学習したことが結びついていない）。

単元を振り返ると、当初にループリック評価を生徒に見せ、目指すべき姿を伝えていたが、生徒自身が具体化できておらず、どうなればよいか、何をすればよいか分からない状態になっていた。その結果、教員からの指示待ちになったり、何のためにこの活動を行っているのか分からなかったりという状態になってしまっていた。また、教員間でも活動の意図等の共有が十分でなかった。そのため、教員が生徒に対して効果的な声かけを行うことができなかった。また、テーマについて考えることがゴールとなっていた。

学年団の教員からは、「ゴールが見えない」、「テーマに生徒が飽きてしまっている」、「同じことの繰り返し」、「成長が感じられない」との声もあった。このことから、まず学年団の教員と共有する時間が必要であると再認識した。今は総合担当が学年の教員に授業について下ろしている状況であるが、学年団で身に付けさせたい力の共通認識をもち、そのためにどういうことをしなければならぬのかを考えることが重要だと感じた。

### 〈単元2 黒潮町のみんなが幸せになる買い物を考える〉

本単元は、「地域×買い物」という切り口から活動を行った。「情報収集力」、「分析力」、「表現力」の向上と、これから行う黒潮町の課題解決学習の土台となるよう授業を展開した。

ここでは、実際に情報収集からアイデア出しを行い、アイデアの発表会を実施した。前期の反省から、「黒潮町のみんなが幸せになる買い物を考える」がゴールではなく、身に付けさせたい力を身に付けることがゴールということを経時生徒に周知を行った。また、学年団の教員とも密に共有を図るよう取り組んだ。

活動内容は以下のとおりである。

- ・町内にあるお店 14 か所をインタビュー（お店の人の声や現状を知るため）
- ・幸せの定義づけ
- ・ビデオからのインプット（スーパーマーケットの歴史）

- ・教員 8 名から生徒へ「幸せになる買い物」を考えるにあたってのインプット
- ・アイデアスケッチの作成・アイデア磨き（冬休み～1 月）
- ・社会人との対話でのアイデア磨き（2 月）
- ・アイデア発表（2 月）



インタビューの様子

### アイデアスケッチ

アイデアを一言であらわす（タイトル）  
オーダーメイドファッションアプリ ～自分の理想を現実に！～

どんなアイデアかわかりやすく（絵や言葉を組み合わせて）  
もっとOOだったらいのになあ...  
このOOのこんなものが欲しい！！が可能になりそう。  
アプリで変更  
自分の理想の服に  
※服を見ていた時に自分の理想の服がなくて購入しないことがあった。この悩みが解消できる！

いつ？（時間帯）  
アプリ使用なら24時間営業！

どこで？（場所）  
全国

誰が幸せになる？  
・こだわりの商品を売りたいと考えている企業。  
・自分のこだわりの服を作りたいと思っている人。  
・アプリをインストールした人全員。  
・iPhone等が使えない人。

どかがポイント？（他のサービスと違うところ・オリジナリティ）  
・服は好きで購入を考えているが自分の納得した商品に出会えない  
・人と同じ商品ではなくオリジナリティが生まれる  
・個別のニーズを解決することができる。  
・ほんとにいいものを売りたい人の想いも満たすことができる。

実現性（どうすれば実現できるか）  
・アプリを開発する。  
・考え方に賛同してくれる企業・店を見つける。

### アイデアスケッチ

アイデアを一言であらわす（タイトル）  
買い物ポイントで買い物をしよう！

どんなアイデアかわかりやすく（絵や言葉を組み合わせて）  
①買い物をしてポイント貯める。  
②一定のポイントが貯まったら使う。  
（ポイントは買い物の支払い、黒潮町の特産品を貰える券や黒潮町内の宿に泊まれる券等の引き換えに使える）  
① ②  
※1ポイント1円分

いつ？（時間帯）  
いつでも

どこで？（場所）  
黒潮町のお店全域(出来るだけ)  
高知県内のお店(導入できる所だけ)

誰が幸せになる？  
・地元で販売する人  
・商品を買う人  
・高齢者の方

どかがポイント？（他のサービスと違うところ・オリジナリティ）  
・カードやスマホではないためポケットや財布から取り出す手間がない。  
・ボタンを押すことでポイントが文字で表示され、音声も流れるため視覚的、聴覚的に分かりやすい。  
・地域外でもポイントが倍になる日はあるが、地域内では更に1.5倍になる。

実現性(どうすれば実現できるか、どんな技術があれば、どうなれば実現できるか)。  
・ICチップを内蔵する。  
・音声は人間または合成音声を用意する。  
・ポイントを読み取る機械。

2 月 1 日時点の生徒のアイデアスケッチの例





社会人との対話でのアイデア磨きの様子



アイデア発表の様子

**アイデアスケッチ**

アイデアを一言であらわす(タイトル) **高齢者のための買い物**

私に考えている黒潮町のみんなが幸せになる買い物は **高齢者が健康になり買い物ができることです**

どんなアイデアかわかりやすく(絵や言葉を組み合わせて)  
毎日1000歩、歩いたら15日で1000円

いつ?(時間帯)  
夕方や朝方

どこ?(場所)  
外の散歩ができる場所

誰が幸せになる?  
高齢者はもちろん若い人も健康になって病気にかかりにくくなり幸せになる

どこがポイント?(他のサービスと違うところ・オリジナリティ)  
毎日歩くことで健康になる  
削減できた医療費を他の活動で使える  
小売店にもお客さんが来る  
年間でポイント1位の人に靴をプレゼント  
実現性(どうすれば実現できるか)  
振るだけで反応しないように正確な万歩計を作る

発表用アイデアスケッチ





# アイデアスケッチ

## アイデアを一言であらわす (タイトル)

和気あいのあいさつバス

## どんなアイデアが分かりやすく 絵と文字で表現

黒潮町で運送  
OK  
タクシー会社と  
提携する  
利用者が  
満足度を  
上げてもらう

人を乗せて  
スーパーやコンビニ  
までルートで  
回る  
ハイエースに変更  
→ 17:00まで

料金は 200円~300円  
30分 100円  
定期券あり

## どこ? (場所) で

西大市 → 入野 方面  
佐賀 → 入野 方面 のまち

## いつ? (時間帯)

朝 ~ 夕方  
(10:00 ~ 17:00)

## オリジナリティ (どこがポイント? 他のサービスと違うところ)

車の中でコミュニケーションが取れる  
予約制で並べたい時刻を自由に決められる  
車イスも乗れる  
黒潮町の時間を短縮して  
出発する。  
黒潮町黒潮町全般  
行き先は自由

## 実現性

(どうすれば実現できるか、どんな技術があれば、どうなれば実現できるか)

町に相談

## 誰が幸せになる?

高齢者  
車は運転できない人  
遠くに住んでいる人



# アイデアスケッチ

## アイデアを一言であらわす (タイトル)

買い物あいのリバス

私の考えている黒潮町のみんなが幸せになる買い物は

遠くに住んでいる人や、車を持っていない高齢者の方が自由に買い物に行けるようになること

## どんなアイデアがわかりやすく (絵や言葉を組み合わせて)

大人200円 子ども100円 定期券5000円



## いつ? (時間帯)

朝10:00~夕方5:00

## どこで? (場所)

黒潮町全体  
(西:御坊畑 東:佐賀 北:鏡川) くらい

## どこがポイント? (他のサービスと違うところ・オリジナリティ)

- ・車の中でコミュニケーションが取れる
- 今ハイエースを満タンにするのに約13,300円かかる
- 電気自動車を使う(1回の充電で180kmほど走行可能 コストは1/2に抑えられる)
- ・基本的に予約制で目印となるところに来る
- ・曜日ごとで行く地域を変える

## 実現性 (どうすれば実現できるか)

- ・タクシー会社と連携
- ・町との相談

## 黒潮町の誰が幸せになる?

スーパーから家が遠い人  
車を所有していない人  
運転のできない人

アイデアスケッチの変容の例

## アイデアスケッチ

お年寄りのための健康ポイント



一日中

黒潮町

お年寄り  
黒潮町  
店

黒潮町の課題として津波や地震が来た時にお年寄りが逃げるのをあきらめていることが課題と思い、どうすればお年寄りが健康で逃げる体力+避難経路を覚えてもらうには、歩いたり逃げトレを活用すれば改善できると思ってこの案を提案します。それにこれはスマホに入っているポイントカードのような感じになりたいと考えております。そうすると会計するときにポイントカードを探す手間もはぶけて後ろで待っている人もイライラすることなく会計をスムーズにできると思います。

実際に千葉県では市での共有のポイントがあり歩くとポイントがもらえたりしています。Tカードなどにポイントがたまる仕組みにて1%~3%ぐらいを市が負担する仕組みにしたいです。



## アイデアスケッチ

お年寄りのための健康ポイント

私の考えている黒潮町みんなが幸せになる買い物は

お年寄りがいつまでも健康で生活出来るように

なること



一日中

黒潮町

お年寄りが健康になり長生きもできる。黒潮町の課題である避難時にお年寄りが避難してくれやすくなる。店側も顧客の囲い込みなどができる。

黒潮町の課題解決もバッチリ！  
お年寄りの体力作り&避難経路の認知  
お年寄りの会計がスムーズに！  
店側も顧客を巻き込める

実際に千葉県では市での共有のポイントがあり歩くとポイントがもらえたりしています。Tカードなどにポイントがたまる仕組みにて1%~3%ぐらいを市が負担する仕組みにしたいです。

アイデアスケッチの変容の例

この単元では、前回の反省から毎時身に付けさせたい力を明示して授業展開をしてきた。また、前回できていなかった外部との交流も実施することができたことにより、思考の幅や視点を広げさせることができた。しかし、前期からの学びが結びついていないと感じるときもあり、振り返りが十分でなかったために、生徒の活動の中で前期と同じく情報収集・分析が不十分である点も見られた。やはり、充実した振り返りが必要であると再認識した。良いところをより良くするには、課題を改善するためにはどうすればよいかを生徒自身にしっかりと認知させることが必要であると感じた。

また、総合的な探究の時間内だけで探究をさせるだけでなく、授業外での時間を有効に活用して探究（情報収集など）をさせたかったが、授業外で活動しようとする生徒はごく少数であり活動時間が十分でなかった。

幸せの定義づけについては、時間が少なかったために幸せの定義が不十分であり、黒潮町の誰がどのようになると幸せなのかを考えるとできていないアイデアが多かった。生徒たちが自主的に取り組むことができるよう、探究を楽しませるにはどのような工夫をすればよいかを常に考えていかなければと思う。

教員間での情報共有に関しては前期からの課題でもあったが、後期でも共有会を開く時間がなかなかとれなかったために、作成した資料を渡しての共有が多かった。そのため、意図が十分に伝わっていない場面も見られた。

発表会では、評価者として参加していただいた川村晶子 氏から「発表する相手の人に納得してもらい、人に動いてもらうためにはどうすればよいか」という助言をいただき、多くの生徒がこのアイデアスケッチではまだまだ十分でないということに気づいた様子であった。

評価については、この単元でも前期と同様にルーブリック評価を用いて行った。生徒にも提示して活動をさせた。前期では「頑張ったから5」といった自己評価をする生徒もいたが、この単元ではしっかりルーブリックを基に「ここの部分ができていないから2」といったように自己評価ができている生徒が多かった。



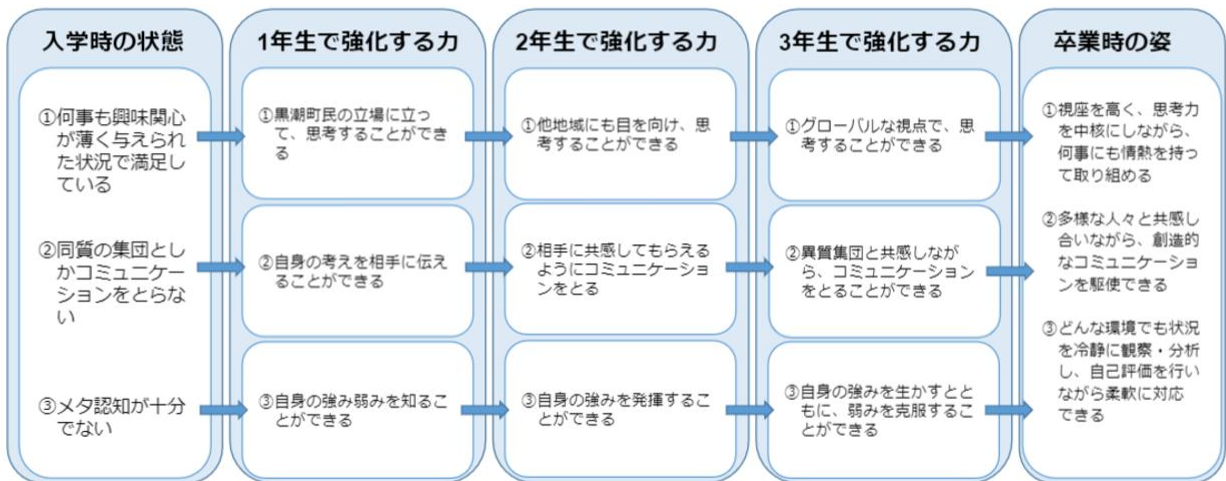
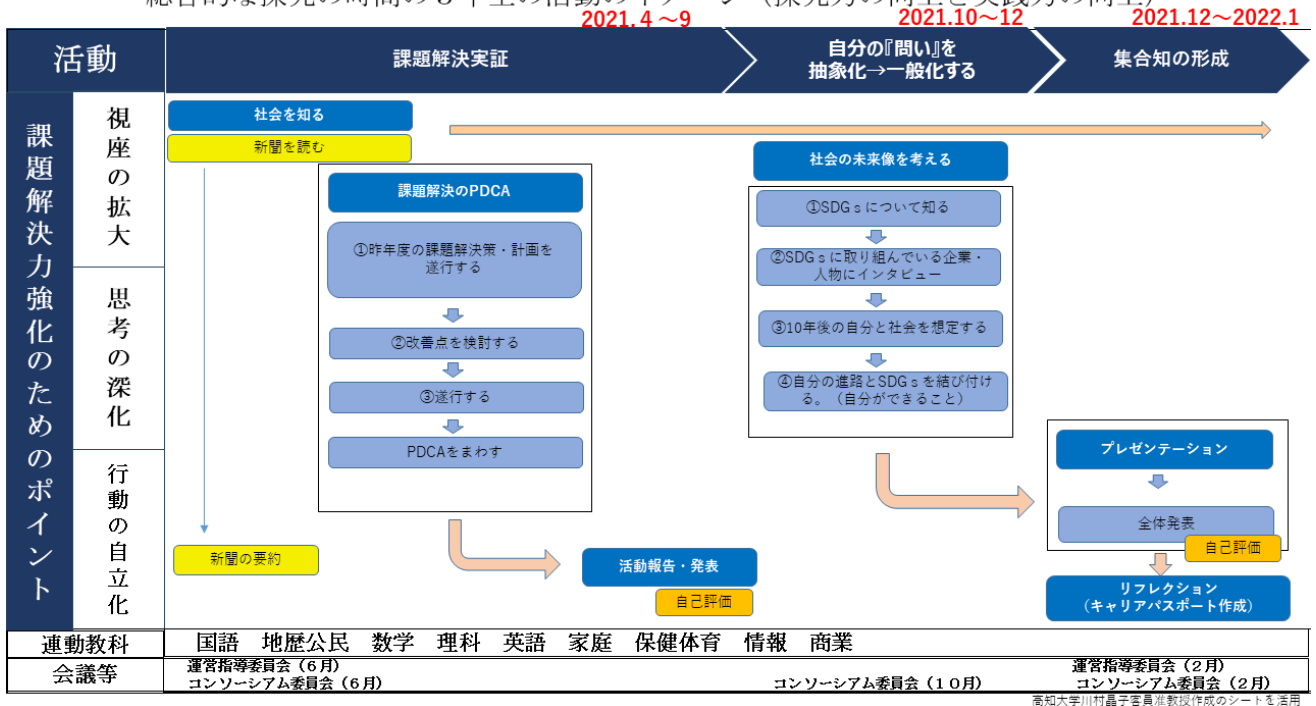
### (3) 「総合的な探究の時間」 3年生の取組について

#### ア 概要

3年間の集大成として、「情報収集力」、「情報分析力」、「情報編集力」、「判断・決定力」、「論理的思考力」、「表現力」、「批判的思考力」等の課題発見・解決に必要な力を身に付けることを目標に活動を行った。年度当初に年間計画、ループリック評価と卒業までに目指す生徒像を提示した。1年間の見通しと身に付けさせたい力の共有を図り授業を展開していった。

以下に、年度当初の活動のイメージ図と卒業までに目指す生徒像を示す。

総合的な探究の時間の3年生の活動のイメージ（探究力の向上と実践力の向上）



卒業までに目指す生徒像

#### イ 生徒観

本学級は、日頃からやるべきことをわきまえて生活している生徒が多く、穏やかな雰囲気です。学習に取り組むことができます。その一方で、積極性に欠ける面もあり、発言も控えめで、自発的な活動が求められるという課題も残る。

## ウ 活動報告

活動は、下図のOODA ループに基づいたルーブリック評価を生徒に示し進めていった。

観点/レベル	1	2	3	4	5
Observe (観察)	特定の情報源でしか情報を収集できない。何のために情報収集(観察)しているのか理解できていない。	情報収集は一定できているが、一面的な見方で情報の収集がなされている。また目的がはっきりしていないので、情報の内容に一貫性がない。	情報収集の目的は明確である。多くの情報源から情報を得ようとしているが、視点が一面的であるため、やや情報の内容に偏りがある。	収集の目的が明確であり、多くの情報源から情報を得ることができている。固定観念に囚われず、多面的な視点をもって多くの情報を収集できる。	固定観念に囚われず、多面的な視点をもって情報を収集できる。また、特定の情報源だけでなく、対象の観察や調査を実施して、多くの情報を集めている。収集の目的が明確なので、その内容は一貫性がある。
Orient (方向付け)	情報を理解できず、分析することができない。また、情報の選択をすることができない。課題解決への方向性も定まらない。	情報を理解することはできるが、分析が甘い。必要な情報か否かの取捨選択ができないので課題解決に向けての方向づけができない。	情報を理解し、分析できている。それらを整理し活用することが一定できているので、課題解決に向けて方向づけができつつある。	情報を正しく分析、整理することができる。また、それらを活用し課題解決に向けての方向づけができる。	情報を正しく分析し、整理することができる。また、その中から必要な情報を選択して活用し、相手のニーズにも沿った課題解決のアイデアへの方向性を決めることができる。
Decide (決定)	方向づけに対し、解決に向けての必要な行動計画が立てられない。	解決に向けて定めた方向づけに対し、やりたいことはあるが必要なことを考えだすことができない。	解決に向けた方向づけに対し、どのようなことをやりたいか選択し、決定することはできる。実行のプロセスについては、定まりつつある。	解決に向けて定めた方向づけに対し、どのようなことが必要か判断し、実行のためのプロセスを決定することができる。	解決に向けて定めた方向づけに対し、どのようなことが必要か確に判断し、実行のためのプロセスを合理的に決定することができる。
Act (実行)	方向づけの理解が十分にできていないので、解決のための行動ができない。	解決のためのプロセスを実行しているが、状況の変化を捉えられないので、一度決めた行動に縛られている。	解決のためのプロセスを実行しながら、状況の変化を捉えることはできている。しかしながら、適切な行動に結びついていない。	解決のためのプロセスを実行しながら、状況の変化を捉え適切に対応して、ループを繰り返すことができる。	解決のためのプロセスを実行に移し、行動しながら状況の変化に迅速かつ適切に対応して、ループを繰り返すことができる。

### OODA ループに基づいたルーブリック評価

#### < 単元1 黒潮町の課題発見・解決学習(グループ学習) >

本単元は、「黒潮町の課題を発見し解決する」というテーマで、「自分×地域」という切り口から、課題発見にともなう情報収集や情報分析などを行う。そして、「自分を取り巻く社会の問題を明確にする力」や課題解決にともなう方向付けや行動などを通して「課題解決に向けて適切なプロセス決定し行動する力」を養うために実施した。

指導上の留意点として、生徒が「自律的に思考し、行動するための伴走」と以下の3点を心掛けた。

- ・論理的思考を鍛えるため、1時間ごとの活動を文章でアウトプットする
- ・皆の考えで意見を作っていく必要があるため、考えを可視化する
- ・想像だけでなく確かな情報(根拠)を集めて意思決定を図る

学習活動は以下の流れで行った。

- ・黒潮町アクションプラン読み込み・テーマ設定
- ・各テーマに分かれて課題発見(情報収集や分析)
- ・課題解決に向けて行動
- ・活動発表会

まず、黒潮町の行政施策とその施策が立ち上がった経緯を理解するために「黒潮町アクションプラン」を読ませた。そこから興味をもった分野を聞きとり、以下に示す6つの班に生徒を振り分けた。

- (1班) 黒潮町の人口減少
- (2班) 地域で子育て世代をサポートする
- (3班) 防災意識の向上
- (4班) 黒潮町を子育て世代と高齢者が共に助けあえる町に
- (5班) 黒潮町を知ってもらう
- (6班) 無駄のない黒潮町へ

各テーマに分かれ、インターネットや黒潮町役場・産業従事者の方へのインタビューなどで情報を収集・分析し課題発見に努めた。検索すればすぐに出てくるような情報だけで課題解決に向かおうとする班が多くあったため、科学的な根拠の必要性、地域の生の声などで得られる情報と統合して課題を発見するよう声かけをした。情報収集の手段としてアンケートを活用したり、役場主催のインターンシップへ参加したりする生徒も現れ、質の高い客観的な根拠と主観的な根拠を集められる班も出てきた。

課題解決に向けた取組としては、実践までできた班はおらず、解決に向けたプロセスを決定するまでにとどまった。

9月21日に「課題解決に向けた方策発表会」として、今年度のここまでの学習成果を発表した。講評者として、黒潮町教育委員会教育長 畦地和也 氏、カリキュラム開発等専門家 川村晶子 氏、地域協働学習実施支援員 松田真紀 氏・西村優美 氏をお招きして実施した。

客観視と主観での自己評価を獲得させることをねらい、“聞き手用”と“発表者用”ワークシートを用意した。事前に生徒たちに明示することで目指す姿を認識させた状態で発表会に臨ませることができた。そこで、自己評価と評価者の評価に乖離があることを、指導者・学習者共々気づく機会となった。

【目的】	
①どのような発表が伝わりやすいか、客観的に認識する。	
②他班の取組状況や課題を聞く中で、課題発見や課題解決において重要なことを理解する。	
【発表者への評価項目】	
問1. それぞれの項目に4段階で評価をつけてみてください。	
1.よくわかった 2.少しかわかった 3.あまりわからなかった 4.わからなかった。	
☆ 1・2を答えた場合はどのような点が良くてそう感じたのか、3・4と答えた場合はどうすればうまく伝わると思うか書いてください。	
問.	項目.
①.	それぞれの活動内容が目的をもって行われていることがわかった。 (根拠・本質を念頭に活動が行われていたか)。
②.	その班が得た経験や考えが伝わった。(ストーリー性・構成力・表現力)。
③.	その班が得た経験や考えが伝わった。(ストーリー性・構成力・表現力)。
④.	その班が得た経験や考えが伝わった。(ストーリー性・構成力・表現力)。
問2. 発表を聞いてみて、考え方や取り組みの姿勢などを従来のものから新しいものに変えたいと思った点がありましたか。また、こんなことをしてみたら更に良い方向に向かうのではないか・私ならこうする等があれば記入してください。 【聞き手の意識改革】	

聞き手用ワークシート

【発表会をする目的】				
①「伝える」発表を念頭に、論理的に説明することを心掛ける習慣を身につける。				
② 聞く側に気づきを与えられるような発表方法を身につける。				
【評価項目】以下の項目で評価をするので意識していきましょう。				
項目.	3.	2.	1.	0.
構成	十分、論理的に構成されている。	論理的に構成されている。	論理的な構成が少し不足している。	論理的な構成ができていない。
①論理性				
②適切な量				
資料	十分に説得力のある資料である。	説得力のある資料がある。	説得力が不足している。	説得力がない。
①文字の大きさ				
②図表の確実さ				
発表姿勢	堂々と聞き手を見ながら声量も十分に発表できている。	視線や声量ともに一定のレベルに達している。	視線、声量を改善する必要がある。	発表全体を大きく改善する必要がある。
①視線				
②声量				
発表時間	時間配分が適切である。(±1分)。	ほぼ時間内である。(±2分)。	時間が少し超過している、あるいは少し短い(±3分)。	時間が大幅に超過している、あるいは大幅に短い。
問1.	発表するにあたって、どのようなことを意識・工夫をされましたか。			
問2.	1年半以上のPBL活動をおとして、学んだこと・感じたことを思い返して、今後「意識したい」と思えるようになったことを教えてください。(理由も明記するように)。			

発表者用ワークシート

学年団での振り返りでは、この単元を経て、生徒が実社会における課題を発見すること(課題発見力)とともに見通しもってゴールを目指すこと(計画力)の難しさを実感するとともに、注力しなければならぬ箇所も見えてきた。探究活動の素養となる情報収集、情報整理・分析、方向付け等を身に付けたのちに、本単元を実施すると効果的な内容になったのではないかと推察する。ただし、前提として指導者の指導に関する必要事項の共通認識、各班の進捗状況や困り感等の情報共有を丁寧に行う必要がある。担当者の企画と授業に関するファシリテーション力が求められるとともに、学年団で協力体制を築ける仕組みを考えておく必要を感じた。





活動の様子

### < 単元2 食品ロス解決に向けたアイデア（個人学習） >

本単元は、SDGs を自分事として受け止めてもらうことを目標にするとともに、以下の3点を身に付けてもらいたく取り組んだプログラムである。

- ・自分を取り巻く社会の問題に対し課題を明確にする力（なぜ取り組むのか）
- ・多様な情報を収集・編集しながら、解決のためのプロセスを整理する力（論理的思考）
- ・自分の考えを伝えることで相手の行動も変えるプレゼンテーション力（新規性、創造性）

指導上の留意点として、様々な視点を提供することと生徒の状況を把握することを掲げ、学年団で担当の生徒を割り当てた。

学習活動は以下の流れで行った。

- ・フードロスの現状を知る（世界・日本の概要）
- ・先人の課題解決行動について知る（坂本龍馬）
- ・“持続可能な開発”のための経営資源について知る（ヒト・モノ・カネ・情報）
- ・フードロス解決方法について社会人と対話（アウトプット）
- ・プレゼンテーションを行い、レビューを受ける（アウトプット）
- ・アイデア発表会（アウトプット）

### フードロスの現状を知る（世界・日本の概要）について

事前に Forms を活用して生徒からアンケートを取ると、SDGs・食料問題ともに抽象的な概要や言葉を知っている生徒は過半数を超えていたが、目的や具体的な内容を説明できる生徒は少数であった。SDGs 概要とフードロス現状について講義と動画視聴を行い、ワークシートを活用して現状についてのインプットを行った。

## 先人の課題解決行動について知る（坂本龍馬）について

目まぐるしく変化する現代社会と幕末から明治にかけての混乱期を重ねてみて、過去にも様々な困難を迎える中で志高く行動をし、改革を起こそうとした龍馬の姿に感化される生徒が多いのではないかと思います。学習材として“坂本龍馬”をあつかった。高知の偉人である坂本龍馬が目的達成のために、どのような行動をとったか、どのようにヒト・モノ・情報・カネを工面したか、といった点を生徒の探究

10月19日 総合的な探究の時間

名前 ( )

目標 \_\_\_\_\_ の危機的状況を自分ゴトとして捉える。

**重要メッセージ**  
\_\_\_\_\_ であらなくても、\_\_\_\_\_ ではない

メモ欄(気になることがあれば)

**☆動画をcheck!**  
①世界の人口\_\_億人 ②飢餓人口\_\_億人  
③日本の人口\_\_億人 ④日本の食料自給率\_\_%  
⑤日本の食品ロス\_\_トン ⑥ワイン一本に水は\_\_リ

食生活について考えよう

①印象に残ったことを教えてください。

②事例課題を思い返して、地理に生かせる一人として改善できそうな点を考えて記入してください。(例:消費するモノの量を減らすなど)

③今後、どのようなことに気を付けて食事をとっていきたいか、記入してください。

## SDGs とフードロス学習ワークシート

活動の参考にするため取り入れた。対話型の学習活動に加えて、高知県立坂本龍馬記念館の訪問も実施した。訪問の際は、当館の学芸員様に趣旨を説明し、ご講演いただいた。

## “持続可能な開発”のため、経営資源について知る（ヒト・モノ・カネ・情報）について

課題解決に向けてどのような要素で物事を捉えるかといった際に、経営資源の存在や扱い方を知る必要があると考え取り入れた。企業が経営資源にどのように注力して、経営を回しているのか、坂本龍馬が課題解決に向けてどのように経営資源を扱ったかを紹介した。“情報”の重要性が生徒たちにはとても伝わったように感じた。

11月2日 総合的な探究の時間

名前 ( )

本時の目標  
①課題への立ち向かい方を知る。  
②アイデア実現のために必要な経営資源について考える。

①課題への立ち向かい方(先人・現代人)

【先人(坂本龍馬)】  
【現代人(坂本龍馬)】

経営資源  
ヒト・モノ・カネ・情報

②アイデアを実現するための経営資源について

ミッション④ 情報  
【情報を強みとして様々なビジネス展開をしている企業を調べ(内容も)】  
例:リクルート(じゃらんやカーセンサー)

○他者のミッションから経営資源の事例を知る。(各資源の情報を収集)

## 経営資源学習ワークシート

## フードロス解決方法について社会人と対話（アウトプット）について

フードロス解決策について、ワークシートを基に思考させて社会人の方々と対話する機会に臨ませた。思考が可視化できることを心掛けてワークシートは作成した。

当日は、15人の外部の方に来校していただき生徒たちと関わっていただいた。黒潮町役場の方々や高知大学

### アイデアスケッチ

サービス名称(タイトル)

どんなものか分かりやすく 絵と文字で表現

どこ?(場所)

いつ?(時間帯)

誰をターゲットにしている?

## フードロス解決策ワークシート

の教職員、金融機関、IT 関係、NPO 団体等の方々のご協力くださり、生徒たちは多様な視点を獲得できる機会となった。

プレゼンテーションを行い、レビューを受ける（アウトプット）について

講評者として、カリキュラム開発等専門家の川村晶子 氏、富士通 Japan 株式会社 森和美 氏、富士通ラーニングメディア 拝野晃希 氏をお招きしてご指導いただいた。一人一人に思考を深め広げるコーチングをしていただき、生徒教員共々学べる機会となった。



プレゼンを行い、レビューを受ける様子

アイデア発表会（アウトプット）について

1月11日にフードロス解決に向けた方策を発表する機会を設けた。講評者として、カリキュラム開発等専門家 川村晶子 氏、富士通 Japan 株式会社 森和美 氏、富士通ラーニングメディア 拝野晃希 氏、環境の社 中村将大 氏、海のこども 村上弓恵 氏をお招きして実施した。一人一人の着眼点が異なり、多様なアイデアを聞ける機会となった。講評者の方々からは、情報収集や分析・プレゼン等の様々な視点よりアドバイスをいただいた。

No.	評価視点	点数	評価すべきこと	努力が必要なこと
1	テーマに対し自分の視点で課題を再定義している (なぜ取り組むのか、納得できる根拠の明示および新規性)			
2	多くの情報を取り込み、分析し、多角的な視点で課題を掘り下げている(探究力)			
3	課題解決に向けた取り組み提案を論理的に展開している(論理的思考)			
4	聞き手を動かす言葉、ストーリー、表現方法を用いてプレゼンを行っている(表現力)			
5	プレゼン態度(聞き取りやすい声、表情、しぐさ)			
	合計	0		

アイデア発表会評価シート

## 単元2の振り返りについて

成長させたい力で掲げていた、3つの力を一定身に付けさせられたと思う。特に、必要性については生徒各々が自覚できる学習内容になった。学習活動を効果的に展開できた要因としては、「進路決定の際に、探究活動で必要とされる力・思考法と進路先で求められる力・姿とのつながりを実感できたこと」、「要所において外部の方と連携し、多様な視点や実体験から基づくエピソードを聞いたこと」、「学年団教員との連絡を密にし、成長させたい力や困り感を共有できたこと」があげられる。

総合的な探究の時間の授業設計をしていくうえで、「何のために何を教えるか」を教員間で協議できる機会を設けることが今後の探究活動において最重要課題だと感じる。また、探究活動において生徒の進捗状況や方向は多岐にわたるので、柔軟性をもった関わりがもてるよう教員側の指導観を醸成する必要があると感じる。本事業によるコンソーシアム等の協力体制を生かし、よりよい教育活動に向けて丁寧な準備をしていきたい。



アイデア発表会の様子



### 3 アンケート結果と分析

本研究の成果を確認するにあたり、本年度も3種類のアンケートを実施し、その結果をもとに生徒の成長や研究の成果を評価した。実施するアンケートは、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングが実施する「高校魅力化評価システム」、本校で作成した生徒と地域住民に対して実施する「指定事業効果測定アンケート」である。なお、大方高校が作成したアンケートは、生徒用と地域住民用で調査内容が異なるため、2つは異なるアンケートとして位置づけている。

「高校魅力化評価システム」は、年間1回実施される調査であるため年度内で生徒の実態や成長の比較はできないが、経年変化や学年、他地域の同システムの実施校の状況との比較により、全国と比較して結果の把握と分析ができるというメリットがある。

表 実施したアンケート一覧

項目 アンケート	実施主体	対象	実施時期	実施形態
高校魅力化評価システム	三菱 UFJ リサーチ &コンサルティング	生徒・地域住民等	令和3年 11月	選択
指定事業効果測定アンケート	大方高校	生徒	令和3年 11月 令和4年 1月	選択・記述
指定事業効果測定アンケート	大方高校	地域住民	令和4年 1月	選択

#### (1) 高校魅力化評価システム（62ページ参照）

全体として、学習活動、学習環境、生徒の自己認識、生徒の行動実績ともほとんどの項目で平均値を上回る結果であった。特に学習活動では、主体性・協働性・探究性・社会性の全てで平均値よりもかなり高い水準にある。「グループで協力しながら学習や調べものを行う」、「地域の課題の解決方法について考える」、「自主的に調べものや取材を行う」などの項目が高く、探究活動や地域との協働活動に取り組んだ成果がうかがえる。一方、アンケートの時期がコロナ禍と重なり、地域との協働活動が制限された学校もたくさんあり、平均値が上がっていない面もあると思われる。昨年度との比較では、学習活動ではほとんどの項目で上昇をしていた。引き続きこれまでの取組を深化させながら継続し、目指す力を身に付けさせていきたい。

学年ごとに担当者が分析した結果は、20ページの研究開発完了報告書11 目標の進捗状況、成果、評価に記載している。

#### (2) 防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート（66ページ参照）

生徒対象のアンケートについては、第1回（9月）と第2回（2月）の2回実施した。設問は、本事業で育みたい力としてあげている5つの力（「探究力」、「つながる力」、「多様性受容力」、「マネジメント力」、「レジリエンス」）に基づく内容とした。

1年生で肯定的な回答が最も高かったのは、問1「学習活動をとおして、計画を立てて取り組み、それを実現する力が身に付いたと思いますか」で、71.9%であった。一方、肯定的な回答の割合が少なかったのは、問8「学習活動をとおして地域の厳しい現実を把握し、それをよい方向に変えようと解決策の提案や実践を行う力が身に付いたと思いますか」で、53.1%であった。

2年生で肯定的な回答が最も高かったのは、問2「学習活動をとおして、地域の魅力や良さを理解する力が身に付いたと思いますか」で、85.7%であった。一方、肯定的な回答の割合が少なかったのは、問9「学習活動をとおして、高校卒業後も何らかの形で地域の課題解決に関わる力が身に付いたと思いますか」で、53.6%であった。

3年生で肯定的な回答が最も高かったのは、問2「学習活動をとおして、地域の魅力や良さを理解する力が身に付いたと思いますか」で、92.9%であった。一方、肯定的な回答の割合が少なかったのは、問5「学習活動をとおして、地域の魅力や良さを、他の地域の人に自分の言葉で伝えることができる力が身に付いたと思いますか」で、85.7%であった。

本年度の9月と1月を比較すると、3年生は7つの項目で上昇をしている。探究的な活動や地域に貢献する活動に取り組んできた成果と考える。逆に2年生は6つの項目で下がり、1年生はすべての項目で下がっている。取組の成果が出ていない部分もあると思われるが、生徒からの聞き取りでは、学ぶことによって、自分ができると思っていたことがまだまだ不十分であるということに気づき評価を下げているという意見もあった。3年次には目指す力が付いているよう、生徒の意見も聞きながら取組を推進していきたい。

令和3年1月と令和4年1月の比較では、3年生は昨年の3年生より上昇しており、また、2年生のときよりすべての項目で上昇をしている。9月と1月の比較と同じく取組の成果が出ていると考えられる。1・2年生は9月と1月の比較と同じように、下がる結果となっており、こちらも、3年次には目指す力が付いているよう、生徒の意見も聞きながら取組を推進していきたい。

指導者側と学習者側の評価については、両者に乖離を感じる箇所が複数存在したため、各学年でこの評価をもとに、来年度の評価方法の工夫を図る必要性を感じた。

また、肯定的な回答をした生徒の理由について記述した内容を、次の6つのカテゴリーに分類した。

- ・「経験・行動」：学習や情報収集ほか、地域に出て行う活動にもとづく記述
- ・「成長実感」：以前と比較してできなかったことができるなど成長を意識した記述
- ・「思考活動」：考えたり比較したりする活動にもとづく記述
- ・「気づき・理解」：新たな気づきや再確認、理解などに関する記述
- ・「意欲表明」：将来に向けた方向づけや「～したい」といった前向きな記述
- ・「その他」：いずれの分類にも入らない記述

記述内容には、「地域の良さに目を向けて考えた」、「地域の為に何をしたらいいか考えた」、「マイナスもとらえ方を変えてプラスにできた」、「黒潮町ならどう生かすことができるか考えた」、「地域の人々の意見を聞いて案を考えた」など、たくさんの肯定的な意見を知ることができた。地域の人々と触れ合う活動を通して学びが展開されることにより、気づきや理解が促進され、意欲や成長の実感につながっていると考えられる。

### (3) 大方高校の地域貢献活動に関する地域住民アンケート（70ページ参照）

地域住民を対象としたアンケートでは、地域住民182名から回答を得ることができた。肯定的な回答が最も高かったのは、問7「生徒たちの取組は、今後も継続させてほしいと思う」で、98.4%であった。

一方、肯定的な回答の割合が少なかったのは、問6「生徒たちが取り組む活動は、地域住

民が高校の存在を意識するものになっている」と問9の生徒たちが行う取組に対して、地域住民は積極的に協力していると思う」であった。

前年度と比較して、90%以上の肯定的な回答の項目数は変化ないが、数値が下がった項目は問2から問6の5項目である。数値が上がった項目は問8と問9の項目である。

コロナ禍の中で地域住民との活動が大幅に縮小されているが、数少ない活動の中で「高校生と一緒にやったらやってみようかと思った」、「楽しかった」、「思い切って参加して良かった」という声を聞いた。高齢化が進む黒潮町の中で高校生と一緒に活動することは、単に防災だけでなく地域住民同士をつなぐ役割も担っていると思われる。そういった意味で本校の取組の継続が期待されている。また問2「生徒たちが行う防災の取組は、黒潮町が掲げる「犠牲者0」を目指す思想の実現につながるものであると思う。」については、生徒たちの活動が住民の避難意識の向上につながっていると思われ、活動目的が達成されていることを表している。

一方、問6「生徒たちが取り組む活動は、地域住民が高校の存在を意識するものになっている」と問9の「生徒たちが行う取組に対して、地域住民は積極的に協力していると思う」について肯定的な意見がやや低くなっているのは、コロナ禍の影響が大きいと考えられる。実際に協力していただく活動がコロナ禍前と比較し極端に少なくなっている。次年度は「ウィズコロナ」の活動を考えていく必要がある。

## Ⅶ 次年度に向けて

2年目となった指定事業であったが、本年度も新型コロナウイルス感染症のため制限の多い中で事業展開となった。できることを考え、対面での交流が難しい場合は昨年より急速に進んだオンラインを活用して生徒の学びが止まらないように努めた。特に、カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員、コンソーシアム委員等の方々の協力により、オンライン・対面ともに協働活動に参画または参画してもらえる人材をたくさん紹介いただいた。これにより、多様な方と生徒が交流することができ、目指す力の向上につながった。オンラインにより交流回数は昨年度より増加をしたが、生徒の成長を考えるとやはり対面での交流が必要であることも感じ、オンラインをうまく活用しながら、対面での協働活動により生徒の成長を目指していきたい。

また、本年度は昨年度の課題であったルーブリック評価を本校の「目指す生徒像」にそって作成し、本年度当初に教員におろし、共有を図って事業を進めた。生徒にも年度当初のオリエンテーションで示し、各單元においてはそのつど示しながら展開を行った。昨年よりは目指す姿、付けるべき力のイメージができたと思われるが、まだまだそのメリットを生かし切れていない。

課題としては、探究学習を「自分ゴト化」できず、主体的に学習に向かえない生徒に対する指導・支援方法が挙げられる。コーチングなどの教員研修も必要となってくるが、まずは学年団内で困り感や進捗状況の共有ができる環境づくりが必要である。定期的な共有会を週に1回開催するなど対応をしていきたい。

本年度も多くの方々のご支援を受けて本事業を推進することができた。たくさんの方と活動することで、地域のことを考えた課題解決への意欲や社会参画意識の向上が見られている。引き続きこれらの事業を深化させながら推進し、変化の激しい社会で活躍できる人材の育成を目指して取り組んでいきたい。

# 補 足 資 料





# 資料1 高校魅力化評価システム

## Portfolio of sustainable education and community

### 高校魅力化評価システム 組織診断ポータル

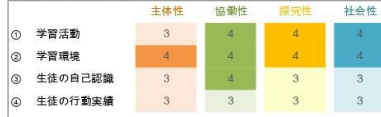
高校名	高知県立大方高等学校											
年度	2021年度											
回答者数	生徒・学生	87 (内訳)	1年生	31	2年生	28	3年生	28	4年生	0	5年生	0
	(昨年度)	81 (内訳)	1年生	28	2年生	32	3年生	21	4年生	0	5年生	0
	大人	37 (内訳)	教職員	19	(昨年度)	大人	35	(内訳)	教職員	15		

【MEMO】

教育目標、育てたい生徒像など

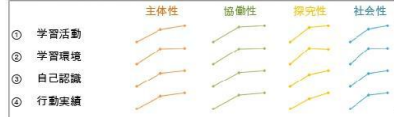
## Summary 総括表

### ■ 今回の結果 (まとめ)



※肯定的回答割合が50%未満=1.50~65%=2.65%-80%=3.80%以上=4

### ■ 前回、前々回からの肯定的回答割合の推移 (まとめ)



※左から前々回、前回、今回。非受検回もグラフに表示されるため読み取り注意。

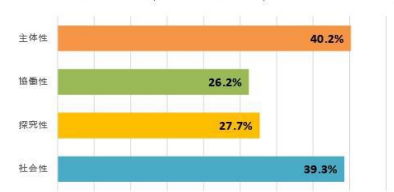
### ① 学習活動 (明示的なカリキュラム)

#### ■ 今回の結果



※上段の数値(%)：縦軸が肯定的回答割合、下段の数値が平均値

#### ■ 前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



### ② 学習環境 (学びの土壌：非明示的なカリキュラム)

#### ■ 今回の結果



#### ■ 前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



### 【学習活動】【学習環境】読み取り・検討の視点

- ・ 学校の強みや課題、それを増進/克服するための、協働のあり方は？
- ・ 普段から意識して取り組んでいる活動の機会や環境づくりは？その成果は出ていそうか？
- ・ 協働を支えるコーディネート機能として、どのような役割が必要か？

## How to read 結果の読み取り方

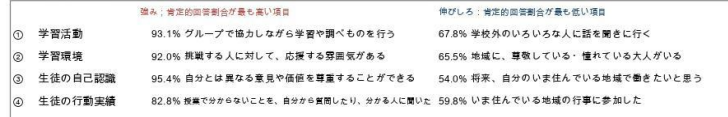
このポータルでは、以下の5側面、4領域、3軸より、高校と地域の学びの「いま」と「変化」を読み取ることができます。

- 5つの側面から
  - 各校・地域の状態を、「①学習活動」「②学習環境」「③生徒の自己能力認識」「④生徒の行動実績」「⑤満足度」の5つから把握しています。
- 4つの領域から
  - 各設問を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力に関する領域に分類しています。
- 3つの軸で
  - 上記のデータを「時間軸(前年度からの伸び)」「学年軸(学年による違い)」「地域軸(他地域との比較)」の3つの軸で整理しています。

結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。

- 【割合(%)】
  - 各項目で「4. あてはまる」「3. どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合
- 【平均】
  - 「あてはまらない=1」~「あてはまる=4」の回答の平均値
- 【他地域】
  - 同じ機会に調査を実施した他校の回答の平均値
- 【回答上昇者の割合】
  - (個人IDで紐づけを行い、複数回調査を実施した場合に表示) 前年と比べて、各領域の回答平均値が上がった回答者の、全回答者に占める割合

### ■ 強み・伸びしろ



### ③ 生徒の自己認識 (資質・能力の主観的認識)

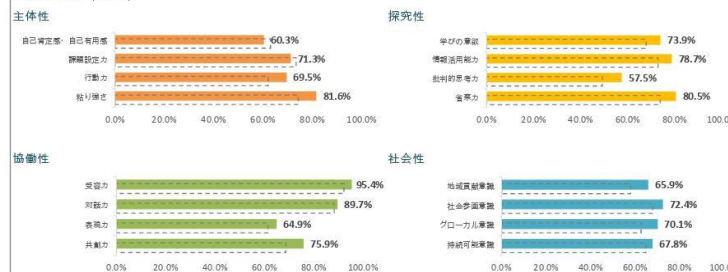
#### ■ 今回の結果



#### ■ 前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



### ■ 今回の結果 (詳細)

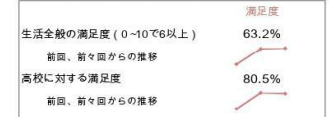


※点線は他地域における肯定的回答割合

### 【生徒の自己認識】読み取り・検討の視点

- ・ 普段から意識している、育てたい生徒像や、身につかせたい力に関する指標の結果は？
- ・ 前回からの変化は？その要因として、何が考えられそうか？(学習活動、学習環境と関連付けて)
- ・ 今後、意識して伸ばしていきたいと考えられる力は？そのために必要な「次の一手」は？

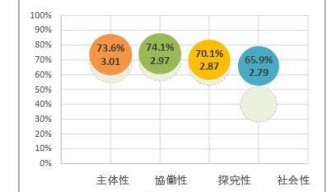
### ■ 総合的な生徒の満足度 (⑤)



※非受検回もグラフに表示されるため読み取り注意。

### ④ 生徒の行動実績 (資質・能力の発揮)

#### ■ 今回の結果



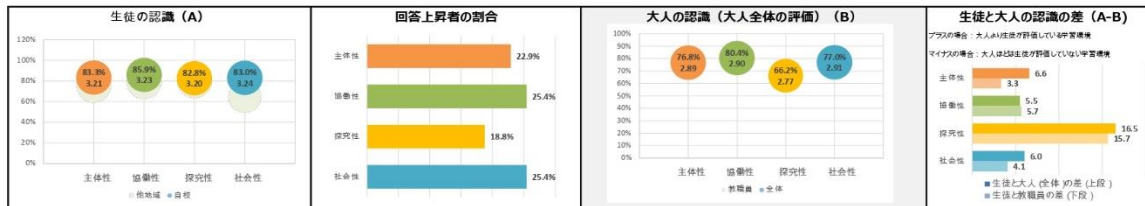
#### ■ 前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



### 【生徒の行動実績】読み取り・検討の視点

- ・ 生徒に期待する具体的な行動は？
- ・ 生徒の自己認識との関連は？
- ・ 具体的な行動を促すような、学習活動や学習環境づくりはできているか？

② 学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）



	生徒の認識 (A)				大人の認識 (大人全体の評価) (B)				生徒と大人の認識の差 (A-B)	
	割合 (%)	昨年増との差	他地域との差	全体	割合 (%)	昨年増との差	効果数	昨年増との差	生徒と大人 (全体)	生徒と教職員
<b>主体性に関わる学習環境</b>	83.3%	2.88	8.19	22.9%	76.8%	11.6pt	80.0%	13.33	6.6pt	3.3pt
20 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	85.1%	-5.07	8.31	17.9%	70.3%	13.13	73.7%	27.02	14.8pt	11.4pt
21 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	92.0%	-1.87	2.24	16.1%	93.5%	14.75	94.7%	14.74	0.1pt	-2.8pt
33 目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	89.7%	3.24	9.27	17.9%	64.9%	2.01	63.2%	-3.51	24.8pt	26.5pt
34 地域に尊敬している、憧れている大人がいる	65.5%	8.73	10.57	30.4%	-	-	-	-	-	-
30 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	79.3%	15.11	18.04	35.7%	64.9%	7.72	73.7%	13.68	14.4pt	5.6pt
26 自分が何かに挑戦しようと思つたとき、周りから手を差し伸べてくれる	88.5%	-2.85	0.70	19.6%	91.9%	20.46	94.7%	14.74	-3.4pt	-6.2pt
<b>協働性に関わる学習環境</b>	85.9%	3.20	7.16	25.4%	80.4%	16.12	80.3%	25.26	5.5pt	5.7pt
22 人とまじることが尊重される雰囲気がある	88.5%	2.09	8.90	23.2%	86.5%	29.34	89.5%	42.81	2.0pt	-1.0pt
23 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	81.6%	-6.05	0.10	17.9%	83.8%	20.93	73.7%	20.35	-2.2pt	7.9pt
27 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	86.2%	1.02	4.25	26.8%	67.6%	-1.00	68.4%	15.09	18.6pt	17.8pt
28 立場や役割を超えて協働する機会がある	87.4%	15.75	15.41	33.9%	83.8%	15.21	89.5%	22.81	3.6pt	-2.1pt
<b>探究性に関わる学習環境</b>	82.8%	-4.90	2.77	18.8%	66.2%	4.07	67.1%	-2.89	16.5pt	15.1pt
17 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	73.6%	-9.15	-8.71	19.6%	59.5%	8.03	63.2%	23.16	14.1pt	10.4pt
23 将来のことを実現したいことを話し合える大人がいる	87.4%	-0.30	8.73	19.6%	73.0%	7.26	68.4%	-4.91	14.4pt	18.9pt
24 周りから大人は、じっくり話を聞き、考える手助けをしてくれる	86.2%	-6.39	1.04	14.3%	67.6%	4.71	68.4%	-11.58	18.6pt	17.8pt
31 お互いに思いかけあう機会がある	83.9%	-3.75	10.03	21.4%	64.9%	-3.71	68.4%	-18.25	19.0pt	15.5pt
<b>社会性に関わる学習環境</b>	83.0%	0.64	18.33	25.4%	77.0%	10.60	78.9%	3.95	6.0pt	4.1pt
19 地域が大切にされている雰囲気を感じる	81.6%	-8.51	6.05	23.2%	83.8%	12.36	84.2%	4.21	-2.2pt	-2.6pt
25 興味を持つことに対してすぐに指導してくれる大人がいる	87.4%	-0.30	14.84	16.1%	73.0%	1.54	78.9%	-1.05	14.4pt	8.4pt
29 地域の人や課題などに積極的に触れる機会がある	87.4%	9.58	30.62	30.4%	81.1%	15.37	84.2%	4.21	6.3pt	3.1pt
32 自分暮らし地域を、外からの視点で考える機会がある	75.9%	1.79	21.79	32.1%	70.3%	13.13	68.4%	8.42	5.6pt	7.4pt

※大人の自己評価は、21\_大人用シートで確認いただけます。

① 学習活動（明示的なカリキュラム）



	全校				1年生 (2021入学生)				2年生 (2020入学生)				3年生 (2019入学生)			
	割合 (%)	昨年増との差	他地域との差	全体	割合 (%)	昨年増との差	他地域との差	全体	割合 (%)	昨年増との差	他地域との差	全体	割合 (%)	昨年増との差	他地域との差	全体
<b>主体性に関わる学習活動</b>	70.1%	17.03	19.87	79.0%	66.1%	21.43	48.2%	64.3%	4.91	18.60	32.1%	64.3%	4.91	18.60	32.1%	64.3%
5 自分の考えを文書や図表で行う	72.4%	15.62	5.08	87.1%	64.3%	17.86	46.4%	64.3%	-1.34	28.6%	87.1%	15.62	5.08	87.1%	15.62	5.08
6 学校外のいる人から話を聞きに行く	67.8%	18.43	34.67	71.0%	67.9%	25.00	50.0%	64.3%	11.16	35.7%	71.0%	18.43	34.67	71.0%	18.43	34.67
<b>協働性に関わる学習活動</b>	88.9%	7.82	15.36	93.5%	81.0%	5.95	39.3%	91.7%	-1.04	13.1%	88.9%	7.82	15.36	93.5%	81.0%	5.95
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	93.1%	7.92	11.22	96.8%	85.7%	-3.57	35.7%	96.4%	2.68	14.9%	93.1%	7.92	11.22	96.8%	85.7%	-3.57
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	92.0%	5.53	4.20	96.8%	89.3%	10.71	42.9%	89.3%	-7.59	10.7%	92.0%	5.53	4.20	96.8%	89.3%	10.71
9 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	81.6%	10.00	30.66	87.1%	67.9%	10.71	39.3%	89.3%	1.79	14.3%	81.6%	10.00	30.66	87.1%	67.9%	10.71
<b>探究性に関わる学習活動</b>	84.5%	9.79	13.71	87.9%	84.8%	12.50	33.9%	80.4%	0.67	21.4%	84.5%	9.79	13.71	87.9%	84.8%	12.50
10 自分の考えを文書や図表にまとめる	80.5%	17.50	13.38	87.1%	78.6%	7.14	25.0%	75.0%	15.63	21.4%	80.5%	17.50	13.38	87.1%	78.6%	7.14
11 話し合った内容をまとめる	88.5%	8.26	11.00	93.5%	89.3%	14.29	32.1%	82.1%	-5.36	17.9%	88.5%	8.26	11.00	93.5%	89.3%	14.29
12 活動、学習のまとめを発表する	86.2%	12.13	17.07	83.9%	85.7%	17.86	39.3%	89.3%	8.04	32.1%	86.2%	12.13	17.07	83.9%	85.7%	17.86
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	82.8%	1.28	13.38	87.1%	85.7%	10.71	39.3%	89.3%	-15.63	32.1%	82.8%	1.28	13.38	87.1%	85.7%	10.71
<b>社会性に関わる学習活動</b>	85.1%	18.39	36.44	80.6%	84.5%	22.62	44.0%	90.5%	18.60	34.5%	85.1%	18.39	36.44	80.6%	84.5%	22.62
14 地域の魅力や資源について考える	87.4%	12.05	41.31	77.4%	92.9%	25.00	46.4%	92.9%	8.48	25.0%	87.4%	12.05	41.31	77.4%	92.9%	25.00
15 地域の課題の解決方法について考える	90.8%	11.79	42.93	90.3%	89.3%	14.29	39.3%	92.9%	11.61	21.4%	90.8%	11.79	42.93	90.3%	89.3%	14.29
16 日本や世界の課題の解決方法について考える	77.0%	31.33	25.08	74.2%	71.4%	28.57	46.4%	85.7%	35.71	57.1%	77.0%	31.33	25.08	74.2%	71.4%	28.57



③ 生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）

● 10pt以上の増加 ● 0-10ptの増加 ● 減少

	割合(%)	全校			1年生(2021入学生)			2年生(2020入学生)			3年生(2019入学生)			
		昨年との差		他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年~3年	回答上昇者
		割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	差(pt)	推移	割合(%)
<b>主体性に関わる自己認識</b>	70.7%	● 11.74	● 2.54	76.6%	● 19.02	-	63.8%	● 6.25	● 26.8%	71.0%	● 5.75		● 25.0%	
【自己肯定感・自己有用感】	60.3%	● 2.94	● -2.63	66.1%	● 5.41	-	48.2%	● -12.50	● 17.9%	66.1%	● 12.95		● 28.8%	
49 自分にはよいところがあると思う	65.5%	● -1.15	● -7.97	67.7%	● -3.69	-	53.6%	● -17.86	● 14.3%	75.0%	● 18.75		● 25.0%	
50 私は、自分自身に満足している	55.2%	● 7.02	● 2.71	64.5%	● 14.52	-	42.9%	● 21.4%	● 21.4%	57.1%	● 7.14		● 32.1%	
【課題設定力】	71.3%	● 12.01	● -2.07	80.6%	● 19.93	-	67.9%	● 7.14	● 21.4%	64.3%	● -4.46		● 21.4%	
37 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	71.3%	● 12.01	● -2.07	80.6%	● 19.93	-	67.9%	● 7.14	● 21.4%	64.3%	● -4.46		● 21.4%	
【行動力】	69.5%	● 15.84	● 7.48	79.0%	● 29.03	-	64.3%	● 14.29	● 35.7%	64.3%	● 0.22		● 25.0%	
38 目標を設定し、確実に行動することができる	67.8%	● 15.96	● 6.50	77.4%	● 34.56	-	64.3%	● 21.43	● 42.9%	60.7%	● -4.91		● 25.0%	
51 自分で計画を立てて活動することができる	71.3%	● 15.71	● 8.46	80.6%	● 23.50	-	64.3%	● 7.14	● 28.6%	67.9%	● 5.36		● 25.0%	
【粘り強さ】	81.6%	● 16.18	● 7.37	80.6%	● 21.72	-	75.0%	● 16.07	● 32.1%	89.3%	● 14.29		● 25.0%	
35 うまくいかなかったことにも意欲的に取り組む	83.9%	● 14.77	● 5.80	83.9%	● 19.59	-	78.6%	● 14.29	● 25.0%	89.3%	● 14.29		● 21.4%	
45 忍耐強く物事に取り組むことができる	79.3%	● 17.58	● 8.93	77.4%	● 23.85	-	71.4%	● 17.86	● 39.3%	89.3%	● 14.29		● 28.6%	
<b>協働性に関わる自己認識</b>	81.5%	● 10.63	● 3.84	81.9%	● 10.43	-	76.3%	● 4.91	● 18.8%	86.2%	● 9.21		● 19.2%	
【寛容力】	95.4%	● 6.51	● 3.19	96.8%	● 7.49	-	89.3%	● 0.00	● 14.3%	100.0%	● 3.13		● 17.9%	
41 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	95.4%	● 6.51	● 3.19	96.8%	● 7.49	-	89.3%	● 0.00	● 14.3%	100.0%	● 3.13		● 17.9%	
【対話力】	89.7%	● 3.24	● 1.41	83.9%	● -12.56	-	89.3%	● -7.14	● 3.6%	96.4%	● 12.05		● 14.3%	
40 相手の意見を丁寧に聞くことができる	89.7%	● 3.24	● 1.41	83.9%	● -12.56	-	89.3%	● -7.14	● 3.6%	96.4%	● 12.05		● 14.3%	
【表現力】	64.9%	● 7.54	● 3.54	72.6%	● 19.01	-	55.4%	● 1.79	● 25.0%	66.1%	● 2.01		● 19.6%	
47 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	74.7%	● 11.75	● 7.97	83.9%	● 26.73	-	64.3%	● 7.14	● 28.6%	75.0%	● 6.25		● 17.9%	
48 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	55.2%	● 3.32	● -0.90	61.3%	● 11.29	-	46.4%	● -3.57	● 21.4%	57.1%	● -2.23		● 21.4%	
【共創力】	75.9%	● 25.24	● 7.20	74.2%	● 27.76	-	71.4%	● 25.00	● 32.1%	82.1%	● 19.64		● 25.0%	
42 共同作業だと、自分の力が発揮できる	75.9%	● 25.24	● 7.20	74.2%	● 27.76	-	71.4%	● 25.00	● 32.1%	82.1%	● 19.64		● 25.0%	
<b>探究性に関わる自己認識</b>	72.7%	● 18.02	● 6.72	79.0%	● 23.38	-	63.5%	● 7.89	● 29.9%	74.7%	● 14.94		● 33.2%	
【探びの意欲】	73.9%	● 10.98	● 6.12	77.4%	● 8.37	-	63.1%	● -5.95	● 25.0%	81.0%	● 12.20		● 27.4%	
36 家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	70.1%	● 14.56	● -1.89	77.4%	● 9.56	-	64.3%	● -3.57	● 28.6%	67.9%	● 5.36		● 17.9%	
58 地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	71.3%	● 14.47	● 19.13	74.2%	● 17.05	-	57.1%	● 0.00	● 28.6%	82.1%	● 16.52		● 35.7%	
64 学習を通して、自分がしたいことが増えている	80.5%	● 3.92	● 1.12	80.6%	● -1.50	-	67.9%	● -14.29	● 17.9%	92.9%	● 14.73		● 28.6%	
【情報活用能力】	78.7%	● 15.77	● 5.82	80.6%	● 16.36	-	73.2%	● 8.93	● 26.8%	82.1%	● 14.96		● 30.4%	
43 情報を、勉強したこと関連づけて理解できる	82.8%	● 16.09	● 3.20	83.9%	● 19.59	-	75.0%	● 10.71	● 25.0%	89.3%	● 14.29		● 28.6%	
44 勉強したものを実際に応用してみる	74.7%	● 15.45	● 8.44	77.4%	● 13.13	-	71.4%	● 7.14	● 28.6%	75.0%	● 15.63		● 32.1%	
【批判的思考力】	57.5%	● 32.78	● 8.27	74.2%	● 49.19	-	46.4%	● 21.43	● 39.3%	50.0%	● 18.75		● 42.9%	
39 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	57.5%	● 32.78	● 8.27	74.2%	● 49.19	-	46.4%	● 21.43	● 39.3%	50.0%	● 18.75		● 42.9%	
【洞察能力】	80.5%	● 12.56	● 6.65	83.9%	● 19.59	-	71.4%	● 7.14	● 28.6%	85.7%	● 13.84		● 32.1%	
46 自分を客観的に理解することができる	80.5%	● 12.56	● 6.65	83.9%	● 19.59	-	71.4%	● 7.14	● 28.6%	85.7%	● 13.84		● 32.1%	
<b>社会性に関わる自己認識</b>	69.1%	● 12.27	● 5.71	72.6%	● 5.17	-	59.4%	● -8.04	● 21.4%	74.9%	● 19.90		● 38.7%	
【地域貢献意識】	65.9%	● 11.17	● 7.93	71.0%	● 3.11	-	57.1%	● -10.71	● 22.6%	69.0%	● 16.96		● 36.9%	
62 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	55.2%	● 20.60	● 9.39	61.3%	● 18.43	-	50.0%	● 7.14	● 35.7%	53.6%	● 22.32		● 35.7%	
53 地域をよくするためのため、地域の問題に関わりたい	72.4%	● 6.98	● 11.45	77.4%	● -1.15	-	57.1%	● -21.43	● 17.9%	82.1%	● 13.39		● 42.9%	
55 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	70.1%	● 5.92	● 2.96	74.2%	● -7.95	-	64.3%	● -17.86	● 14.3%	71.4%	● 15.18		● 32.1%	
【社会参画意識】	72.4%	● 17.68	● 4.47	73.1%	● 2.88	-	65.5%	● -4.76	● 15.5%	78.6%	● 27.53		● 47.6%	
54 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	56.3%	● 26.69	● 4.96	58.1%	● 22.35	-	50.0%	● 14.29	● 32.1%	60.7%	● 35.71		● 60.7%	
59 地域や社会での問題やできごとに関心がある	75.9%	● 7.96	● 4.86	77.4%	● -4.72	-	71.4%	● -10.71	● 10.7%	78.6%	● 9.82		● 28.6%	
52 18歳選挙権を取得したら、選挙に行きたいと思う	85.1%	● 18.39	● 3.59	83.9%	● -8.99	-	75.0%	● -17.86	● 3.6%	96.4%	● 37.05		● 53.6%	
【グローバル意識】	70.1%	● 12.91	● 7.45	72.0%	● 10.14	-	63.1%	● 1.19	● 29.8%	75.0%	● 14.58		● 38.1%	
56 地域の課題と世界での課題は関連していると思う	81.6%	● 19.88	● 12.04	87.1%	● 15.67	-	71.4%	● 0.00	● 35.7%	85.7%	● 20.09		● 39.3%	
61 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	74.7%	● 6.81	● 4.17	74.2%	● 2.76	-	75.0%	● 3.57	● 25.0%	75.0%	● -3.13		● 21.4%	
60 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	54.0%	● 12.05	● 6.15	54.8%	● 11.98	-	42.9%	● 0.00	● 28.6%	64.3%	● 26.79		● 53.6%	
【持続可能意識】	67.8%	● 7.32	● 2.96	74.2%	● 4.55	-	51.8%	● -17.86	● 17.9%	76.8%	● 20.54		● 32.1%	
57 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	58.6%	● 9.24	● 1.53	61.3%	● -3.00	-	50.0%	● -14.29	● 17.9%	64.3%	● 20.54		● 28.6%	
65 自分の将来について明るい希望を持っている	77.0%	● 5.41	● 4.40	87.1%	● 12.10	-	53.6%	● -21.43	● 17.9%	89.3%	● 20.54		● 35.7%	

④ 生徒の行動実績 (資質・能力の発揮)



● 10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ● 減少

	全校			1年生 (2021入学生)			2年生 (2020入学生)			3年生 (2019入学生)			
	全体 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	他地域との差 差(pt)	学年 割合(%)	昨年入学生との差 差(pt)	一昨年入学生との差 差(pt)	学年 割合(%)	1年次との差 差(pt)	回答上昇者 割合(%)	学年 割合(%)	2年次との差 差(pt)	1年~3年 推移	回答上昇者 割合(%)
<b>主体性に関わる行動</b>	73.6%			80.6%			67.9%		33.9%	71.4%			32.1%
68 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	82.8%	9.92	6.45	87.1%	1.38	-	82.1%	-3.57	21.4%	78.6%	12.95		25.0%
71 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	64.4%	19.92	4.49	74.2%	31.34	-	53.6%	10.71	46.4%	64.3%	14.29		39.3%
<b>協働性に関わる行動</b>	74.1%			80.6%			60.7%		19.6%	80.4%			26.8%
69 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	77.0%	14.05	8.84	87.1%	19.24	-	60.7%	-7.14	21.4%	82.1%	10.27		28.6%
70 友人などから、意見やアドバイスを求められた	71.3%	7.07	0.59	74.2%	2.76	-	60.7%	-10.71	17.9%	78.6%	12.95		25.0%
<b>探究性に関わる行動</b>	70.1%			79.0%			62.5%		25.0%	67.9%			41.1%
72 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたい調べたい	71.3%	21.88	2.87	80.6%	19.93	-	64.3%	3.57	25.0%	67.9%	17.86		42.9%
73 公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたい調べたい	69.0%	28.22	4.77	77.4%	27.42	-	60.7%	10.71	25.0%	67.9%	30.36		39.3%
<b>社会性に関わる行動</b>	65.9%			73.1%			58.3%		22.6%	65.5%			27.4%
66 いま住んでいる地域の行事に参加した	59.8%	11.62	28.69	64.5%	14.52	-	57.1%	7.14	28.6%	57.1%	10.27		35.7%
67 地域社会などでボランティア活動に参加した	59.8%	11.62	31.18	71.0%	20.97	-	50.0%	0.00	25.0%	57.1%	13.39		21.4%
74 先生、保護者以外の地域の大人と、なげない会話を交わした	78.2%	4.09	17.90	83.9%	5.30	-	67.9%	-10.71	14.3%	82.1%	7.14		25.0%

⑤ 総合的な生徒の満足度

	全校			1年生 (2021入学生)			2年生 (2020入学生)			3年生 (2019入学生)			
	全体 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	他地域との差 差(pt)	学年 割合(%)	昨年入学生との差 差(pt)	一昨年入学生との差 差(pt)	学年 割合(%)	1年次との差 差(pt)	回答上昇者 割合(%)	学年 割合(%)	2年次との差 差(pt)	1年~3年 推移	回答上昇者 割合(%)
75 今の生活全般に対する満足度	63.2%	2.72	-1.01	74.2%	9.91	-	46.4%	-17.86	28.6%	67.9%	-0.89		42.9%
63 この学校に入ってよかったと思う	80.5%	-4.73	-5.59	83.9%	-8.99	-	67.9%	-25.00	7.1%	89.3%	1.79		10.7%

補足・追加設問

	全校			1年生 (2021入学生)			2年生 (2020入学生)			3年生 (2019入学生)			
	全体 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	他地域との差 差(pt)	学年 割合(%)	昨年入学生との差 差(pt)	一昨年入学生との差 差(pt)	学年 割合(%)	1年次との差 差(pt)	回答上昇者 割合(%)	学年 割合(%)	2年次との差 差(pt)	1年~3年 推移	回答上昇者 割合(%)
76 国際社会の課題解決に貢献したい	56.3%	18.05	-1.02	71.0%	24.54	-	42.9%	-3.57	17.9%	53.6%	19.20		28.6%
77 また世の中になく新しい技術やサービスを生み出してみたい	52.9%	14.60	-4.97	67.7%	24.88	-	39.3%	-3.57	21.4%	50.0%	12.50		32.1%
78 客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	55.2%	28.01	6.34	67.7%	32.03	-	46.4%	10.71	17.9%	50.0%	28.13		42.9%



## 資料2 防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート

このアンケートは、皆さんが防災や総合的な探究の時間などに取り組むことをとおして、自分の力がどれだけ身に付いたのかについて答えてもらうためのものです。問1から問10の各質問をよく読んで、当てはまるものを「4」～「1」の数字から選んで、数字に「0」を付けてください。

また、なぜその数字を選んだのかについて、その理由を「理由」の枠の中に書いてください。  
なお、問10は、例を参考にして記入してください。

回答する数字の意味は、以下のようになっています。

〔4〕：強く思う   〔3〕：やや思う   〔2〕：あまりそう思わない   〔1〕：まったくそう思わない

### 【質問項目】

1 あなたは、学習活動をとおして、計画を立てて取り組み、それを実践する力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強く思う   〔3〕：やや思う   〔2〕：あまりそう思わない   〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

2 あなたは、学習活動をとおして、地域の魅力や良さを理解する力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強く思う   〔3〕：やや思う   〔2〕：あまりそう思わない   〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

3 あなたは、学習活動をとおして、地域のために活動できる力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強く思う   〔3〕：やや思う   〔2〕：あまりそう思わない   〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

4 あなたは、学習活動をとおして、地域の人々の思いや願いを理解する力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強く思う   〔3〕：やや思う   〔2〕：あまりそう思わない   〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

次のページに進んでください。

5 あなたは、学習活動をとおして、地域の魅力や良さを、他の地域の人に自分の言葉で伝えることができる力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

6 あなたは、学習活動をとおした聞き取りや情報収集により、課題が存在する背景を考え、解決に向けた方法を考え出す力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

7 あなたは、学習活動をとおして、自分とは異なる立場の人（幼児や児童・高齢者・自分とは異なる性別・外国人など）のことを意識して、課題解決策を提案する力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

8 あなたは、学習活動をとおして地域の厳しい現実を把握し、それをよい方向に変えようと解決策の提案や実践を行う力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

9 あなたは、学習活動をとおして、高校卒業後も何らかの形で地域の課題解決に関わる力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：



質問は以上です。ご協力ありがとうございました

資料3-1 防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート（9月実施分・1月実施分 数値のみ）

防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート（9月実施分・1月実施分 数値のみ）

指定事業効果測定アンケート		（生徒対象 R3_9月）							（生徒対象 R4_1月）					
問	設問	学年	4	3	肯定計	2	1	否定計	4	3	肯定計	2	1	否定計
問1	あなたは、学習活動をととして、計画を立てて取組み、それを実践する力が身に付いたと思いますか。	1年	27.3%	51.5%	78.8%	21.2%	0.0%	21.2%	18.8%	53.1%	71.9%	28.1%	0.0%	28.1%
		2年	21.4%	53.6%	75.0%	25.0%	0.0%	25.0%	17.9%	64.3%	82.1%	17.9%	0.0%	17.9%
		3年	18.5%	66.7%	85.2%	14.8%	0.0%	14.8%	35.7%	57.1%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%
問2	あなたは、学習活動をととして、地域の魅力や良さを理解する力が身に付いたと思いますか。	1年	30.3%	54.5%	84.8%	15.2%	0.0%	15.2%	34.4%	28.1%	62.5%	34.4%	3.1%	37.5%
		2年	21.4%	60.7%	82.1%	17.9%	0.0%	17.9%	28.6%	57.1%	85.7%	14.3%	0.0%	14.3%
		3年	22.2%	66.7%	88.9%	11.1%	0.0%	11.1%	39.3%	53.6%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%
問3	あなたは、学習活動をととして、地域のために活動できる力が身に付いたと思いますか。	1年	36.4%	48.5%	84.8%	15.2%	0.0%	15.2%	28.1%	37.5%	65.6%	28.1%	6.3%	34.4%
		2年	25.0%	57.1%	82.1%	17.9%	0.0%	17.9%	17.9%	50.0%	67.9%	28.6%	3.6%	32.1%
		3年	22.2%	66.7%	88.9%	11.1%	0.0%	11.1%	32.1%	53.6%	85.7%	14.3%	0.0%	14.3%
問4	あなたは、学習活動をととして、地域の人々の思いや願いを理解する力が身に付いたと思いますか。	1年	33.3%	54.5%	87.9%	12.1%	0.0%	12.1%	16.1%	41.9%	58.1%	35.5%	6.5%	41.9%
		2年	21.4%	64.3%	85.7%	14.3%	0.0%	14.3%	21.4%	50.0%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%
		3年	22.2%	74.1%	96.3%	3.7%	0.0%	3.7%	28.6%	60.7%	89.3%	10.7%	0.0%	10.7%
問5	あなたは、学習活動をととして、地域の魅力や良さを、他の地域の人に自分の言葉で伝えることができる力が身に付いたと思いますか。	1年	28.1%	50.0%	78.1%	18.8%	3.1%	21.9%	22.6%	32.3%	54.8%	35.5%	9.7%	45.2%
		2年	17.9%	50.0%	67.9%	28.6%	3.6%	32.1%	17.9%	39.3%	57.1%	39.3%	3.6%	42.9%
		3年	18.5%	51.9%	70.4%	29.6%	0.0%	29.6%	28.6%	50.0%	78.6%	21.4%	0.0%	21.4%
問6	あなたは、学習活動をととして聞き取りや情報収集により、課題が存在する背景を考え、解決に向けた方法を考え出す力が身に付いたと思いますか。	1年	21.9%	56.3%	78.1%	18.8%	3.1%	21.9%	25.8%	38.7%	64.5%	32.3%	3.2%	35.5%
		2年	25.0%	46.4%	71.4%	25.0%	3.6%	28.6%	7.1%	64.3%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%
		3年	22.2%	63.0%	85.2%	14.8%	0.0%	14.8%	21.4%	71.4%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%
問7	あなたは、学習活動をととして、自分とは異なる立場の人（幼児や児童・高齢者・自分とは異なる性別・外国人など）のことを意識して、課題解決策を提案する力が身に付いたと思いますか。	1年	42.4%	45.5%	87.9%	12.1%	0.0%	12.1%	25.8%	32.3%	58.1%	41.9%	0.0%	41.9%
		2年	32.1%	39.3%	71.4%	25.0%	3.6%	28.6%	25.0%	46.4%	71.4%	25.0%	3.6%	28.6%
		3年	22.2%	66.7%	88.9%	11.1%	0.0%	11.1%	25.0%	64.3%	89.3%	7.1%	3.6%	10.7%
問8	あなたは、学習活動をととして地域の厳しい現実を把握し、それをよい方向に変えようとする解決策の提案や実践を行う力が身に付いたと思いますか。	1年	18.2%	54.5%	72.7%	27.3%	0.0%	27.3%	21.9%	31.3%	53.1%	40.6%	6.3%	46.9%
		2年	25.0%	35.7%	60.7%	35.7%	3.6%	39.3%	17.9%	53.6%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%
		3年	14.8%	74.1%	88.9%	11.1%	0.0%	11.1%	32.1%	57.1%	89.3%	10.7%	0.0%	10.7%
問9	あなたは、学習活動をととして、高校卒業後も何らかの形で地域の課題解決にかかわる力が身に付いたと思いますか。	1年	30.3%	54.5%	84.8%	15.2%	0.0%	15.2%	13.3%	46.7%	60.0%	30.0%	10.0%	40.0%
		2年	21.4%	60.7%	82.1%	17.9%	0.0%	17.9%	14.3%	39.3%	53.6%	46.4%	0.0%	46.4%
		3年	14.8%	70.4%	85.2%	14.8%	0.0%	14.8%	32.1%	60.7%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%

選択肢：4「強く思う」・3「やや思う」・2「あまりそう思わない」・1「まったくそう思わない」

資料3-2 防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート（令和3年1月実施分・令和4年1月実施分 数値のみ）

防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート（令和3年1月実施分・令和4年1月実施分 数値のみ）

指定事業効果測定アンケート		（生徒対象 R3_1月）							（生徒対象 R4_1月）					
問	設問	学年	4	3	肯定計	2	1	否定計	4	3	肯定計	2	1	否定計
問1	あなたは、学習活動をととして、計画を立てて取組み、それを実践する力が身に付いたと思いますか。	1年	25.0%	53.6%	78.6%	21.4%	0.0%	21.4%	18.8%	53.1%	71.9%	28.1%	0.0%	28.1%
		2年	12.9%	48.4%	61.3%	32.3%	6.5%	38.7%	17.9%	64.3%	82.1%	17.9%	0.0%	17.9%
		3年	20.0%	50.0%	70.0%	20.0%	10.0%	30.0%	35.7%	57.1%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%
問2	あなたは、学習活動をととして、地域の魅力や良さを理解する力が身に付いたと思いますか。	1年	35.7%	53.6%	89.3%	10.7%	0.0%	10.7%	34.4%	28.1%	62.5%	34.4%	3.1%	37.5%
		2年	25.8%	54.8%	80.6%	19.4%	0.0%	19.4%	28.6%	57.1%	85.7%	14.3%	0.0%	14.3%
		3年	15.0%	60.0%	75.0%	15.0%	10.0%	25.0%	39.3%	53.6%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%
問3	あなたは、学習活動をととして、地域のために活動できる力が身に付いたと思いますか。	1年	32.1%	39.3%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%	28.1%	37.5%	65.6%	28.1%	6.3%	34.4%
		2年	25.8%	54.8%	80.6%	19.4%	0.0%	19.4%	17.9%	50.0%	67.9%	28.6%	3.6%	32.1%
		3年	25.0%	45.0%	70.0%	25.0%	5.0%	30.0%	32.1%	53.6%	85.7%	14.3%	0.0%	14.3%
問4	あなたは、学習活動をととして、地域の人々の思いや願いを理解する力が身に付いたと思いますか。	1年	28.6%	28.6%	57.1%	42.9%	0.0%	42.9%	16.1%	41.9%	58.1%	35.5%	6.5%	41.9%
		2年	19.4%	48.4%	67.7%	32.3%	0.0%	32.3%	21.4%	50.0%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%
		3年	10.0%	50.0%	60.0%	30.0%	10.0%	40.0%	28.6%	60.7%	89.3%	10.7%	0.0%	10.7%
問5	あなたは、学習活動をととして、地域の魅力や良さを、他の地域の人に自分の言葉で伝えることができる力が身に付いたと思いますか。	1年	25.0%	32.1%	57.1%	35.7%	7.1%	42.9%	22.6%	32.3%	54.8%	35.5%	9.7%	45.2%
		2年	16.1%	29.0%	45.2%	51.6%	3.2%	54.8%	17.9%	39.3%	57.1%	39.3%	3.6%	42.9%
		3年	20.0%	35.0%	55.0%	40.0%	5.0%	45.0%	28.6%	50.0%	78.6%	21.4%	0.0%	21.4%
問6	あなたは、学習活動をととして聞き取りや情報収集により、課題が存在する背景を考え、解決に向けた方法を考え出す力が身に付いたと思いますか。	1年	25.0%	57.1%	82.1%	17.9%	0.0%	17.9%	25.8%	38.7%	64.5%	32.3%	3.2%	35.5%
		2年	22.6%	54.8%	77.4%	22.6%	0.0%	22.6%	7.1%	64.3%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%
		3年	15.0%	35.0%	50.0%	40.0%	10.0%	50.0%	21.4%	71.4%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%
問7	あなたは、学習活動をととして、自分とは異なる立場の人（幼児や児童・高齢者・自分とは異なる性別・外国人など）のことを意識して、課題解決策を提案する力が身に付いたと思いますか。	1年	25.0%	53.6%	78.6%	17.9%	3.6%	21.4%	25.8%	32.3%	58.1%	41.9%	0.0%	41.9%
		2年	25.8%	51.6%	77.4%	22.6%	0.0%	22.6%	25.0%	46.4%	71.4%	25.0%	3.6%	28.6%
		3年	15.0%	40.0%	55.0%	35.0%	10.0%	45.0%	25.0%	64.3%	89.3%	7.1%	3.6%	10.7%
問8	あなたは、学習活動をととして地域の厳しい現実を把握し、それをよい方向に変えようとする解決策の提案や実践を行う力が身に付いたと思いますか。	1年	14.3%	32.1%	46.4%	46.4%	7.1%	53.6%	21.9%	31.3%	53.1%	40.6%	6.3%	46.9%
		2年	16.1%	54.8%	71.0%	29.0%	0.0%	29.0%	17.9%	53.6%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%
		3年	10.0%	45.0%	55.0%	30.0%	15.0%	45.0%	32.1%	57.1%	89.3%	10.7%	0.0%	10.7%
問9	あなたは、学習活動をととして、高校卒業後も何らかの形で地域の課題解決にかかわる力が身に付いたと思いますか。	1年	25.0%	39.3%	64.3%	32.1%	3.6%	35.7%	13.3%	46.7%	60.0%	30.0%	10.0%	40.0%
		2年	19.4%	51.6%	71.0%	22.6%	6.5%	29.0%	14.3%	39.3%	53.6%	46.4%	0.0%	46.4%
		3年	10.0%	45.0%	55.0%	30.0%	15.0%	45.0%	32.1%	60.7%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%

選択肢：4「強く思う」・3「やや思う」・2「あまりそう思わない」・1「まったくそう思わない」

資料4 肯定的評価における記述のカテゴリー別の分類（抜粋）

【1年生】

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
経験・行動	<p>計画は必要                      総合の時間計画を練ってディベートを行った                      学年混同で訓練をしたとき自分たちで計画を立てたりしたから                      勉強が苦手なため、1日3時間の本読みをするなどの工夫をしてみたことがあった                      地域の人と協力し訓練しているから                      たくさん知る機会があったから                      地域の人々の良さを目にすることができた                      小規模サミットなどで地域の魅力について紹介できた                      避難所の清掃などで地域のための活動ができた                      ボランティア活動に積極的に参加した                      サミット等様々な活動で発信しているから</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
成長実感	<p>積極的に意見を言えるようになった                      計画を立てて取り組むことができた                      力がついて役に立つと思うから                      浜町さん等の取組等を通して考えることができた                      地域の課題解決に関わる力が身に付いた                      以前よりも課題解決に必要なような情報収集やインタビューができ、より良い意見を出せたと思ったから                      課題の解決ができるようになってきた                      地域学で身に付いた                      問題解決策を提案する力が身に付いたと思う</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
思考活動	<p>論文などで分かりやすく説明するためにはどうするかよく考えられた                      細かく情報収集し、課題が存在する理由も考えられるようにしているから                      自分もLGBTQについてよく考えるから</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
気づき・理解	<p>地域の魅力を感じた                      周りに同じ年代の人達しかいなかった                      課題解決は大切                      厳しい現実があることを知ったから</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
意欲向上	<p>今よりいい未来にしたいと思っていた</p>



【2年生】

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
経験・行動	<p>計画を立てて取り組めた</p> <p>検定に向けての勉強で計画をきちんとたてた</p> <p>発表でもしっかり考え、意見も発表した</p> <p>地域学で身に付いた</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
成長実感	<p>先生と話し合っ準備をし、考えて実践できた。</p> <p>褒められたから</p> <p>よい方向に変えようとする事ができた</p> <p>以前よりも課題解決に必要な情報収集やインタビューができ、より良い意見を出せたと思ったから</p> <p>自ら提案することが増えた</p> <p>役場の人に褒められたから</p> <p>防災で考えたことを生かせると思った</p> <p>授業の中でその力がついていったから</p> <p>なぜ課題が提示されているかについてネットや情報収集で理解でき、その解決方法をある程度自分で考えられたため</p> <p>自分で考えて案を出す事ができた</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
思考活動	<p>どうすれば幸せになれるか考えたりした</p> <p>いい方向にするために案が出たから</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
気づき・理解	<p>魅力をさらに知ることができたから</p> <p>現状を知ってさらに知ることができた</p> <p>調べて情報収集できた</p> <p>対象にしている人が高齢者や子どもだったのでできた</p> <p>その人たちが暮らしやすいようにはしていきたい</p> <p>解決策を考えた</p> <p>地域の問題を知ることができた</p> <p>色々なことを学びたいと思った</p> <p>課題の解決ができるようになってきた</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
意欲向上	<p>自ら提案することが増えたから</p> <p>高齢者の方たちを意識して考えられるように少しなったから</p> <p>これからもボランティアなどしていく</p>

【3年生】

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
経験・行動	<p>プレゼンを計画どおりに進められたから            総合の授業で学んだから            班の人と協力したりして、自分でも目標に向けて取り組めた            前よりもスムーズに進めることができた            計画を立てて実践できた            総合で他の市町村を調べて、自分の地域と一緒に考えることができた            グループで見つけそれに取り組んだ            たくさんの人とコミュニケーションをとることができた            地域に住むデメリットを解決するために活動してきたから            地域学や様々な防災活動をしてきたから            アンケートを作成し、まじめに地域の人々の思いについて考えた            地域の人が望む暮らしを実現させていかないといけないから            様々な防災で地域の人と関わられた            たくさん調べたり、アンケートをとったりしたから            前の課題と比べたり、アンケートをとったりしてよい方向に変えた</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
成長実感	<p>計画を取組、最後までやりきることが少し多くなった            期限までに余裕をもって仕上げる力を身に付けることができた            人の考えることは理解することが前までは苦手だったが今は多少分かってきた            発表までの準備期間が短かったから計画を立てるようになった            調べ物をする、スライドをつくるの順序をしっかり計画できた</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
思考活動	<p>昔からこの地域の魅力を知っているから            地域の良さに目を向けて考えることがあったから            黒潮町の良さが分かった            マイナスもとらえ方を変えてプラスにできたから            地域のために何をしたらいいか考えた            黒潮町ならどう生かすことができるか考えた            地域の人意見を聞いて案を考えていたから            どうすればよい解決に進むのかなど考えられるようになった            ボランティアに参加したいと思ったから</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
気づき・理解	<p>計画的に実践できるようになった            計画を立てて取り組めた            発表までに何をしないといけないか計画することが増えた            計画の大切さを知ったから            総合をやっていく中で魅力を感じてきたから            地域の良さを知れた            前から地域の良さは知っていたので前より知ることができた            インタビューなどを通して再確認することができた            身近にあって気付いてなかっただけということに気づくことができた            地域の人意見を聞く機会がなく臆測で解決案を考えたから            しっかりと情報収集できたし、きちんと考えを見つけたから            人のことを考える力がついたと思う            自分で計画を取組、実践ができたから流れが分かった</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
意欲向上	<p>少しでも誰かの役に立ちたいと思えるようになった            地域が少しでも綺麗になるように活動を続けたいと思う            提案できるほどではないが意識している            実践力はまだないが考えようとしている</p>

## 資料5 大方高校の地域貢献活動に関する地域住民アンケート



このアンケートは、以下の目的に基づき地域の皆様のご協力をお願いするものです。ご面倒をおかけしますが、生徒の成長や取組の充実に向けて、皆様のご協力をお願いいたします。

目的：1 大方高校の生徒による地域防災の取組や地域課題解決活動、地域行事への参加などの学習活動やボランティア活動について、地域の皆さんからの評価をいただき取組評価を確認する。  
2 生徒の取組をより充実させるために、学校の取組を確認したり改善したりするための資料とする。

### 【注意事項】

◎回答方法：質問は、以下の（ ）問です。各問について当てはまると思う答えを、「4」～「1」の中から選び、選んだ数字を[別紙の回答用紙]にご記入ください。

[4]：強く思う [3]：やや思う [2]：あまりそう思わない [1]：まったくそう思わない

◎返信方法：同封の封筒（大方高校の住所・学校名を記載している封筒）に回答用紙を入れ、郵送してください。直接学校に届けていただいてもかまいません。

### 【質問項目】

1 生徒たちが、防災や地域課題解決のための取組を行っていることを知っている。

[4]：強く思う [3]：やや思う [2]：あまりそう思わない [1]：まったくそう思わない

2 生徒たちが行う防災の取組は、黒潮町が掲げる「犠牲者0」を目指す思想の実現につながるものだと思う。

[4]：強く思う [3]：やや思う [2]：あまりそう思わない [1]：まったくそう思わない

3 生徒たちが防災の取組を行うことで、自分も命を守るために避難しなければならないと意識するようになった。

[4]：強く思う [3]：やや思う [2]：あまりそう思わない [1]：まったくそう思わない

4 生徒たちの取組は、地域の防災意識の向上や課題解決に役立っていると思う。

[4]：強く思う [3]：やや思う [2]：あまりそう思わない [1]：まったくそう思わない

5 生徒たちの取組は、小学生や中学生の取組に刺激を与えたり、参考になるものであると思う。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

6 生徒たちが取り組む活動は、地域住民が高校の存在を意識するものになっている。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

7 生徒たちの取組は、今後も継続させてほしいと思う。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

8 生徒たちが行った取組を発表する際は、子どもや孫と一緒に発表を聞きに行きたいと思う。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

9 生徒たちが行う取組に対して、地域住民は積極的に協力していると思う。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

10 大方高校の取組について、提案や意見、感想などがあれば自由にお書きください。



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

大方高校は、地域防災や地域課題解決の取組をさらに充実させるとともに、活動をとおして生徒の意欲を引き出し、力を引き出すことをとおして未来の「地域の創り手」人材の育成※（下記を参照ください。）を目指します。

今後とも皆様のご協力とご理解をよろしくお願いいたします。

※ 未来の「地域の創り手」人材とは、高校や大学等を卒業して地元に住み、地元の活性化に貢献する者・一度は別の地域で生活するがUターンして地元の活性化に貢献する者・地元には戻ってこないが居住地で地元への支援（ふるさと納税・帰省時のイベント等への参加や協力など）をしたり思いをもって生活（地元のニュースへの反応・住んでいる地域での地元の良さの宣伝等）する者を意味しています。



## 資料6 大方高校の地域貢献活動に関する地域住民アンケート

防災活動や地域課題解決学習に関する地域住民アンケート（令和3年1月実施分・令和4年1月実施分 数値のみ）

指定事業効果測定アンケート		（地域住民対象 R3_1月）					（地域住民対象 R4_1月）						
問	設問	4	3	肯定計	2	1	否定計	4	3	肯定計	2	1	否定計
問1	生徒たちが、防災や地域課題解決のための取組を行っていることを知っている。	43.8%	47.2%	91.0%	6.7%	2.2%	9.0%	42.9%	48.4%	91.2%	7.1%	1.6%	8.8%
問2	生徒たちが行う防災の取組は、黒潮町が掲げる「犠牲者0」を目指す思想の実現につながるものだと思う。	52.8%	43.2%	96.0%	4.0%	0.0%	4.0%	51.6%	42.9%	94.5%	5.5%	0.0%	5.5%
問3	生徒たちが防災の取組を行うことで、自分も命を守るために避難しなければならないと意識するようになった。	46.6%	47.7%	94.3%	5.7%	0.0%	5.7%	44.5%	47.3%	91.8%	7.7%	0.5%	8.2%
問4	生徒たちの取組は、地域の防災意識の向上や課題解決に役立っていると思う。	54.6%	43.1%	97.7%	2.3%	0.0%	2.3%	47.3%	45.6%	92.9%	6.0%	1.1%	7.1%
問5	生徒たちの取組は、小学生や中学生の取組に刺激を与えたり、参考になるものであると思う。	50.0%	45.4%	95.4%	4.6%	0.0%	4.6%	51.1%	43.4%	94.5%	4.9%	0.5%	5.5%
問6	生徒たちが取り組む活動は、地域住民が高校の存在を意識するものになっている。	37.9%	50.6%	88.5%	11.5%	0.0%	11.5%	41.2%	45.1%	86.3%	12.6%	1.1%	13.7%
問7	生徒たちの取組は、今後も継続させてほしいと思う。	79.0%	19.3%	98.3%	1.7%	0.0%	1.7%	69.2%	29.1%	98.4%	1.6%	0.0%	1.6%
問8	生徒たちが行った取組を発表する際は、子どもや孫と一緒に発表を聞きに行きたいと思う。	23.6%	64.4%	87.9%	10.9%	1.1%	12.1%	31.9%	56.0%	87.9%	12.1%	0.0%	12.1%
問9	生徒たちが行う取組に対して、地域住民は積極的に協力していると思う。	12.6%	62.3%	74.9%	25.1%	0.0%	25.1%	16.5%	58.8%	75.3%	24.2%	0.5%	24.7%

選択肢：4「強く思う」・3「やや思う」・2「あまりそう思わない」・1「まったく思わない」

## 資料7 地域住民の方からのコメント

- 大人が話すより、高校生が話してくれた方が子どもたちに届きやすいと思う。大人も高齢者も同じですね。
- あまり大方高校の取組についてくわしく知りません。子どもが行っていたらもう少し知ることができたかもしれない。
- 正直大方高校の取組をよく知りません。コロナ渦というのもありますが、防災に関しての意識、知識の向上はとても大切だと思うので発表の場があれば見に行きたい。
- 地元ケーブルテレビで放送のあったにしきの公園への避難訓練の様子を見たことくらいしか大方高校の取組について知りませんでした。一生懸命生徒さんたちが取組をしているのでしたら、住民の方々によりよく知ってもらえるようm a cや住民の方がたくさん利用する所へ掲示するなどもっと発信してはどうでしょうか？
- 大方高校の取組を知らないため、質問の答えがほぼ2になってしまいました。すみません。
- すいません。何をしているか分からないので、あまり回答できませんでした。
- みなさんが取り組んでのをテレビなどで見て、これからも頑張って地域を引っ張ってほしいと思います。みなさん、ありがとうございます。
- 取組の内容を100%知りえていない。せっかくの取組でとても良いことだと思うので、有意義な物にできるよう発信してほしいです。
- 大方高校の取組が小中学校の生徒の目にふれる機会があるのかがまず私達には分からないので返答に困る。防災の取組も詳しくは知らないで、知らない人に対しては2～9の問題は答えようがない。もう少しアンケートの問い方について検討すべきかなと思います。
- 取組については良いと思うが、どのような活動を行っているのか今一つはっきり分からないので評価しかねる。どのような活動を行い、具体的に活動を行った結果について地域住民に理解してもらう取組があればいいのでは（広報、地元ケーブルテレビなど）。

- いつ起こるか分からない地震、津波なので、日頃からの備えや訓練など大切なことであると思うので、これからも地域とのつながりを大切に取組を続けてもらいたいです。
- 引き続き頑張ってください。
- これからの黒潮町を守り、活性化していくためにも、生徒の皆様の取組は必要不可欠であると考えます。自由な発想と行動力で、これからも取り組んでいただきたいと願います。
- コロナ渦での活動なので、色々と制約もあり、思うような活動が展開できていないと思いますが、行政側も積極的に連携させていただくべきだと考えますので、引き続きよろしくお願いします！
- 学業との調整等、大変と思いますが引き続きの取組を期待します。
- 活動の内容を進捗含む周知方法がどういったものがあるのか知りたかった。
- 早咲地区のタワーの清掃活動や要援護者の避難訓練など、ご協力に感謝しています。もっと地域住民も参加して活動できたらいいですね。
- 地域への提案をこれからもしていただけたら、地区住民も動きやすくなると思います。
- 地元自治会との更なるつながりを求める。
- これからも頑張ってください。
- 避難タワーの清掃など大方高校の皆様にご協力いただき非常に助かっています。皆様が一生涯懸命に取り組んでいる姿が職員にとって励みになり、また地域住民の防災意識の向上につながっていると思っています。本当に感謝しています、ありがとう！！





文部科学省指定事業

令和3年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 地域魅力化型  
研究開発報告書 第2年次

令和4年3月発行

発行者：高知県立大方高等学校

〒789-1931 高知県幡多郡黒潮町入野5507

TEL：0880-43-1079 FAX：0880-43-1379

E-mail：ogata-h@kochinet.ed.jp





夢見るちからある限り

たゆまぬ努力ある限り

